森 Z 太 島 **7 4** L 遺 文 集

(3)

森彦太郎遺稿昭和貳拾六年二月

集

清水長一郎編

+	+	+	+	九	八	七	六	五	四	Ξ	=										_
Ξ	_	_	`	`	`	`	`	`	`	`	`										`
`	`	`	泊	西	万	堅	松	医	公	森	和							3.			日
揺	高	古	の															支			高
			城															那 通			先
	の								問					神				乪		寿	賢
の	松								に			人		11		化		津		丸	
紀	の	揆	:		米		日		答	の	土		犠	白	職		た	村		_	社
		史	:		廉		高	羽	^	郷	讀	松	牲	井	者	長	奈		瀬	族	祭
を		料	:		売					土		井	者	久		畄	賀	Ξ		の	神
語			:		券					讀	批		宮	藏				郎士		南	論
る	•	÷	:				人		•		評	助大	所恒	:	田美	火 郎		大尉	水	朝黨	
_	•	•	•	•	•	•	_		•	批	_	人尉	恒楠	:	天成		:		:	黑	•
:	•	•	•	:	÷	:	:	:	•	評	:	W.J	か	:	八	KK	:	:	:	:	:
•	:	:	:	:	:	:	:	:	:		:	:		:	:	:	:	:	:	:	:
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	を	•	:	叔	:	:	:	:	:	:	:	•
:	•	•	:	•	:	•	•	•	•	読	•	•	父	•	•	•	•	•	•	•	:
•	•	:	:	•	•	•	•	•	•	λ	•	:	直	:	:	:	:	:	:	:	:
	•		•	•		•	•	•	•	で	•	:	松	:	:	:	:	:	:	:	•
•	•	•	:	•	:	•	•	•	•		•	:		:	:	:	:	:	:	:	:
	•	•	•	•	•	•		•	•			:	:	•	:	•	•	•	:	•	•
:	:	•	•	:	:	:	:	:	:	:	:	÷	÷	÷	÷	÷	÷	÷	÷	:	:
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:	:	•	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•		•	
:	:	•	•	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
•		-				•	•				•	:	:	:	:	:	:	:	:	:	•
:	:	:	:	:	:	:	•	:	:	•	•	•	٠	•	•	•	•	•		•	:
												:	:	:	:	:	:	:	:	:	
:	•	•	•	•	:	•	•	:	•	•	•	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
	:	:		:	:	:	•			•	•		•	•		•	•	•		٠	:
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	:	:	:	:	:	:	:	:	:	•
:	•	•	:	•	:	•	•	•	•	:	•	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	٠	•	•	٠	•	•	•	٠	•	•

44 43 41 38 37 34 32 30 28 27 25 17 17 16 9 8 4 4 3 3 1 1

88 86 84 80 77 75 73 73 70 69 68 68 67 67 64 60 58 55 52

百

日

らの

な

<

つ

た

私

順

序

上

۲

ん

な

先

賢

を

۲

の

範

囲

に

求

め

るに

るのにし日時る云へ経・るに駆に其護社私てす と提齋た高代人っ否驗看やそしなの国のは い示祀人に的をた郷や護うのてっ他神分第神 。生に祀風土斈婦な責献ての社祀一 方るねままはらのの校た人務身ゐ市だ的靖祀 なる士を奮 も条ばたれ日ね る町 と 性 国 す質神べ あ件なはた高ば 師んとを盡斗の村 表かを ŧ を る他人郡な ししで又る 社き う適ま国でとるつとの問併 はともにかて た な云まます閲は祀而忠手市一帶 齋を くふいりる歴ぬし も勇続町府び き述 。平とは 。た遂義き村縣さ 祀べ 時こなそいに烈の連一せ らね 。傷の上合社たれば神 にろくれ 於のとかそ病士で團 限いてな ح け人も られ等の相体り ゐ `⌒がにみ當を 、思 る士 る 、風第町よに困崇府ふ 在 野武格三村 りょ難敬縣の献な ゞ を 者 社 で 身 の功高 吏 不 遺に遇長員幸め覺と格あ殉た唱 賢対十壽たそずえすでる国 でし目をるの 、るる創がの 、ての保と職へが 建 烈 そ 第二し `護 つ を 而文視 • れ も勲るて警 私 国 じ と神 地と所畳察 め 無 け の官た平し社 方 云 ら 条 だ 人っ十上た や時てはれ 件 ع のて指でる うにの原 に る 護 誰はの死とな於念則 ے 奉 玉 、て願的い も語指ん • 祀 神 が弊すで教つ公はに す ふ 社 `認 る ٦ あは所も育ま共 ع 職 りの右めと のあ仰 い ع 人るひそ員公爲のら に ふ こがでした務に如れ な 以てる員忠 そ きて つ ょ は先て公との実戦な て つ に とづ一務 亀に場い • 居 認そ世上医鑑眞にこ めうのの師た劔馳と 。同

1. 逸 見 万 弄 丸 族 の 南 朝 黨

ふすせ

願す

憚

批

得

く先下

は賢私来

大がはて日

方いそ日高

のくの高か行

なあ擧にて劃

きらげ・

0

を又私のに建

ての擧に会さ

完擧げ・的れ

壁げる其にた

期先こ開其前

し腎ろ発のに

たにのに時溯

い対先寄代り

し賢輿の

て以さ文地

見外れ運理

るにたの的

を如は歩は

にの一貢れ

す私列献が

、人進に

、にそ

をるとの

所

異

上

う 巌

ら例のら政

もを爲出区

る地家

私の爲社置

玉 的

方的に

、以

い他

。所

はる以かても

b

もの

が

 $\overline{}$

 $\overline{}$

つる逸れ萬奉有と金 ず の丸る ŧ 而 文 者 ഗ ŧ を な及がは び 勢大 田 誇 其 力抵に との を 南 す族持朝北 る川 っの朝の 上 て そ ഗ ゐれ 年 あ吉 ただ ŧ ٦ \blacksquare لح لح の 云 刻 をふん 両 る 氏物こだ لح の語 ŧ لح る で のは 黨 ŧ あ が を る の 多有 で 有 い田 こ す の郡 る 孤れにに 軍は ع 奮 吉 し は闘 野 てが 最 朝 多 後 時 日 日 < 高 ま代 高 郷 で 日に 苦高は高 土 史 節にそは 上をはれそ の南所がの 光 朝謂 殆 点 採に南 ん 頗 で捧朝 ێ る あげのな貧 りた正 < 弱 逸 朔 てな わ見を

野 朝たを見等壽 廷 以氏 に満 ては 奉 重 逸 甲 仕の見 斐 し次を源 姓氏 を と武 正萬 平 し田 年丸た氏 中清 の 後重清末 村 と光流 上い八で 天 つ代 皇たの立 か 後家 ら清胤の 紀重逸祖 州は見 を 日 四逸 元 高亨郎見 郡元太黒 矢 年 郎 源 田六満太 莊 月清清 を 二に光 賜十二 لح つ 五子 い て 日あふ 千 を IJ 手 以 甲 て長 州 里 生 を 巨 ま守摩 れ王郡 丸逸 長満見 じ重郷 てとに 吉い居

大

る

所

で

る

つ 天幡たなゝ今 っにの て遠大 後 る祖字 戦 る 顯土 陣 彰 生 寺に ので 巨容字 馳 碑城 馭 を の L 建内 7 立に た寄戦 す邸 附功 る址 少 計 が はたな 画あ を る 建 。 のか 建 b 今 て ず 7 の 居役 及年日 り場 高 は 地そ 瓦の郡 元の のこ内 矢 一 銘とに 田部 にで於 村に よあて で建 所 はて 領 之ら がれ 知道六 て 敷 ら成百 地る れ寺貫 を る るのを 提 大 賜 供 遠 は 孫 し る や栗 う本 寺エに と源 の事至 い三 つ ふ郎 銘行た こ翁 とは 日た土 にこ

くの生居 別勸文紀八聖天願煩聞 鐘 輕 出 菩 火 提 坑 生

道矢君算願衆地惠 生 獄 長 は八

授 宮

年 及

こ

間道

の成

とへ

で梵

あ鐘

つ

Ξ

とし

右は

の正

び間

IJ

つ

て

道修

成繕

鐘を

に

つ

平 鏱

を

員

等 寺庄四乾満 海坤 樂 無

爲

之

化

當進武伊方明長成惱 比天州歌齋地佛 眼丘皇日有日 定瑞勅高道月 秀光願郡之叡御度 成田 治 鑄 鐘

方

四田源萬 己道頼壽 三願秀丸 十月小合 _ 大諸 日夫檀 守 男 長女

等爾年一見たへた勢佐男正 程らか力城三 逸以し吉 でれ分が主女十正大并檀 見てて田あるか及川あ四平工吉那 らん上り 己十山田源 0 が黨歿ゐ三 る 亥 そはし た鼎か法ぬで氏 b れ全たが分 燈がゐはそ 月 足 < 玉 た玉の 置 属振清清の川師 لح すは重 重形上はに財氏女 日 ので氏有角部がは るな歿 清 くす 日に名川の侵吉 晩 なる年高対な上往入田 の つの紀平す勤氏生し 室 た翌伊野る皇が寺て比 年のを法僧大は来羅 即 重山南保燈で檀今て丸 ち 那こ取源 隆名風 つ国 Ш 後氏競て師そでそつ頼 上 郷のはゐのの由淨て貞 里黨ずた感感 良土代に に紀 時化化開宗ら嫁 飯伊天代力を山でれし 住に授はを受のあるた佐 見け法 二千入四 る ま 昭手り年吉逃た燈がで吉主 、十野が三 玉 は田 氏上 里清二朝す光師そ 拾 四に重月にこ国 覺の南は 年居の廿苦と済心前朝矢 つ 子二節は国 を身黨田 則 た小日を出師請はと莊 月 五 五憂捧来は じ 褝 し吉 の 日苗郎悶げぬ畢て宗て田女 0 開で 裔重のる 生 日 隆裡点そ吉山寺高 主で 新くはににの野と号平で 聞瀬信享於川朝なは野あ其 に戸濃 年て上にし何に つの に五は氏奉たともた間 載瀬奔十協が仕と云其 °IZ ○ 見りハカ逸し伝っの和二

2. 江 Ш ょの い名 て門 下 瀬 に見

右 題 瀬 見 水 水 ഗ 生 涯 を 月 五 七 八 0 に 亘 IJ 掲 載 さ れ た る ŧ 省

3. 支 那 通 津 亀 Ξ 郎

〉題 治に 略 す

十大(一尉つ 日はゞ 士切い 官目て 候の右 補人の 牛 と明下 し て十掲 歩 五 載 兵年あ 第四り 四月 十七要 聯日点 隊西を 入ノ 隊地記 ` 15 三 生 十る 五 年 医 六 師 月津 歩 村 兵 環 少の 尉三 . 男 同 年 明 五 治 月三 廿十 \equiv 才 年 で五 日 月 露三

分 々に年戦 郷 四 進 八 病 縣 年 年 級 極 に戦 支 於役那 期 四 出地 の て関語 + に 腦 腸 係 病 チ 事蒙 年 に ブ 務 古 四 ょ スに語 月 九六 を從に私 る 年 月 患 事 熟費五廿 • 墓 い 達北 は . 大 京 剴. 切 七正大留 旋仙 目 月五 正斈 村 三年三 翌 谷 に 日 五 年 匹 四 あ 午 月八 +月 IJ 前参 Ξ 年 十 謀 = 年 十に 一本十五 墓 月於 表時部 月 満 7 は口っの日 ま 州 中 分命 ょ で 守 野 底に IJ 蒙 備尉 辰 鎭 よ歩 古の を 次 東 IJ 兵 語 た生 郎 方 第研 め擒 少 約 特 Ξ 究 將 十别十 度 九 の 五任九生大月 撰 支 務 聯 来 陸 文里を隊語に傷 に のおに斈 渡 か 道びに の IJ 地 7 路 渡 あ天 送 上 支 る IJ 才 で に Ξ 自 河 大 し 年 殺南 正 て大十 省三僅尉八

4. 防 疫 15 殉 奈 賀 房

染小村入 庁 奈 툳 IJ 賀 つ 十式に書房 " あ Ξ 仕記松い つ 署 の ふと氏 年 隔 たの て 七 離 なは 後み月 病 明 り松 月 + 治 松 状 舎 原 ع + を 三や Ξ 原 村 松七設 十が大 村 _ 有 原 日 < て字 四 志 村切 年収田の 相 会 戸人 日入井両 謀 ŧ, の赤 役の 高 日 IJ 又 赤 痢 特 لح 人 奈 香痢小にな 碑 賀 料小屋松り明房 を 屋 常 五 と原池治 松 で呼村上七 福 +を 寺 円 歿ぶに正年 載 に を 赤順生 す 建 贈 奈 父 痢 年 二 つ。 る 賀 流 吉 徳 要 行 田 房 藏 点 + ٦ を 松 忠の 畧 六 極兵 . 記 の 法 五 駐 め衛 男 名 + 在 • な 釋 円 巡浜田 IJ 崇 は 査の端 徳 。 ٦ ع 瀬 氏 協切 の Ξ 時 頃 力戸兵 年 ത 防に衛に の 松 疫 極 퇕 原 にめ土 て 伊 村 挺て居 松 達 ح 身 粗正原 K. 末義 し 村 等 遂な等 て 役 激に掘歴 、感立代に

5. 南 道 の 權 化 長 岡 佐 次 郎 翁

部 町 翁 に 大 山 正 内 を 九 千 埴 年 里 昭田 當 観 和 に山 而 Ξ 音 開 してそる 境 之 内 を に、 建 の 願 し 長 を て 此 畄 昭 処 和 旌 に = 功 葬 年 碑 IJ 竣 ع エ を 題 以 す て みて 永に る 逝 そ < 碑 の あ 盛 美 IJ 徳 な 功 文 る 業 は か を な 私 敬 そ の 仰 撰 の す 擧 す 乃 る ち 所 遺 骨 を三 日 < 分 し を

山

翁 は 南 部 が 生 W だ 商 介 の 寄 傑 そ の 名 は 明 治 四 +年 の 頃 杦 大 村字 楚 人 冠 先 生 の 斜 1= 見 た る

っ時で足の出商人にこ伏既発呉ふ年つかる長堅ゐ翁旧じ紀 たにある嗣し人は彼の見に露れ人のきらこ上田た幼稿 。名綴私の 時明るだとたで淀の日町さでなに功徳三との茂 〉治 らなにあの有野一ゝあか伴を松里大礼右徳はのは中 家 三 う っ 比 っ 人 難 屋 町 や っ っ は 積 の ば で に 衛 松 徳 中 ¬ に 道年 とたべた彦いの目かたたれま身かああ門は松か立紹 日世 人てが七廻祖日な。がてしのりつり種そ `知の弘之伝さ 嘱で口ダ・りと野がさ、大め上山た には 非一 目あ口等徳一合い屋らて路阪よ判奥 。種の三化を中れ に新 多っは七人せふ佐大連銀へと断で後知門男三摘の 年た聊はは、の介阪れニと。を鍛年はに 幾の `丙出 人鹿 遂がさ胆即菊は方でて朱志乃求冶心秘も幼午し長島 ば折 く柄 `か気ち沢元に一行はしちめを斈藏入時年て岡と もで 徳 夙 器 あ 徳 某 江 移 家 っ 流 た 十 た 斈 に 弟 っ 村 霜 本 佐 共 。三 。ん 志 子 た の 月 欄 次 に な 七にがり七の州りをて石 二徳小・で活日ご成呉に徳才某だをと 。薬南に く風 十七さ商同断野なしれ賢松のの関よし徳師部収翁躍 し雲 七のい才年のか稚てた夫に二日係すて松寺組めと天 て児 歳凡かあ輩通らよゐ庄人は月く上る徳幼及埴る南下 債の の物とりでり出をた兵と同母 `に 松 に び 田 鬼正 時な思殊あでた。 朝に 人衛云胞刀こ或至をし北村 っあ生・゜とわが自の時っ待て道に 夕 乘 懇られに 命ぬた年たっ粋と徳云れ六の児南たち気村生 門ず 。たの。松ふた人貯商部こ にべ 魄志る ぜその。も金才随と徳群摩 。 近 て認日と彦 せき らのは母あ二が一な松れ八父 そ識野る七日江っのは母あ二が一な松れ八父のし屋には野商」家母刀っ朱あとどはを重を ま秋 るで 、の連眉屋人。にの自てをる云も亦抜門友 のあ 子此當れ目にでこ居從の、路、は蓋種き伊次 有っ と奴主て清有、れる弟大節銀浪れし知 様た な將佐愈秀爲こがこに奮句に華た師を加彦と に し来介々温のゝっと當発の貰辺陰の敬ふにい 然 `我は鋭和小ゑ i 三りで祝ひの陽感慕るつひ 彼も 家が和利で者奉〈年、あな、豪師化しにい出附家歌な眞が公〈庄気りど永商盤々とて豪て稼 は彼 ーが のを山気真二に翁兵佐深も来に右。。そ放算鍛 大長 娘嗣の峰面人行が衛藤いろ屋托坂?その磊筆冶 整岡 にが出を目あっ立の出しく庄しのの感落をを 理 家 配し身あなった身周身 〈 兵て菊父化の學業しむでら好たのの旋で愛 〈 衛海沢はを裡びと をの 家 人 たる主は個 °が基で當情しと山某奈 政と うに にな のに家しの一眞、、時のて云千に良くも又て

の喧

鹿伝

嶋さ

└ る

لا ع

題に

し至

てっ

ーた

を大

草正

し年

た間

こ某

と雑

が誌

あ社

つの

た需

° I=

今 応

文

きーもけ戦でにな国郷 く即 くては を役は移はか里家ちか一所 ち らの勢一融旗詮 `二南検挽 流通學 つ家十清疫廻 のをげ込新決 て宣のがもな輩の若大たを年方所の大仰よは文心 。尾 頃 面 へ曙胆 うな ぎ や豪ので爾の大を寄光 周た うに利麻来上阪巡附を 密い思が陸 こに批を疹健町の つし認 ع な 、べ得の闘ー 家てたむ る切 立支輸然 自てた大三丁 を薬 る計 IJ ち那入 流 十目畳種こに 画出 大 せ 財 己一程か行年にん直れ至を し 蹶 陸 を薄は借で接がったた < 然 でれ売 でふで持のにの極荷がり東取そたて 東はる盡 あす物は如め・て京引も 某京ま るる質毛きた大まに を 次支々にだ 1 こ欲色はこ人た移開 い那等 上 と矮 とをの彼と参貿 りい翁で向是 な屋 IJ 險満変のが・易瀬たと明薬を債 つ機あ午を戸がし治種快權要な無数に対し、 て移 敏 つ茄は物 て十の諾者はは 特 対故年買し 点さたのじ町 某 。問めに 山虎〆貸 Þ る う あ あ見彼屋た居 の疫をすをに うに b 、公豫断に訪違漢 るはは 0 る す と 彼 事防行数ふひ薬後 大 ど例なんの後敗 に消し千てなはの では < 寄毒た金 刮 幾 情い 遂 あち 眼 程 をを لح 附の に る 日拍と したそ以述 立 ŧ 倩 本 子 從 な ためれて べそ然て を かで来 < 始 このた が 負 ら発の し で石大彼再で ふ 丸展苦 ` 當 て 炭 を起 ٦ 明酸り激の 金向し 再 つ لح 柑隆い起 治粉に勵た買 数 経 當 の し + -め継 し 万 砂又験 て 七百りたい 金 糖日は横 、年樽 くや地ふ

体かの所て世こ如第而漬清仇浜す韓を漸彼ばっで ٢ 来報い幾 翁風世世 た を絶の間輸前なり ŧ 知え成普出支か 担主 < る て金通し那 くの冨干陸 とがしど < 感 ま 翁 は 嘆 で も分余 す す 的指なる を る 所を個翁 の薄 のた務あ し めの る て 公 し は暇即に か をち奉 し 素足 血も世仕 財 つ道 す で さた を 傾て人 る せ 貯 粗るがを 倒講心 ۲ ^ し演のい 衣 爲 て てに日ふ 粗に る 地 ° — ゐ奔の念 食 財 12 味 ゛をを る走非に 敬 すな富 意 乱 う 生 る るん と 費 変 活 ے をで せし つ を と概る ず驕て し し る そ奢ゐ て 0 年て ع のに る ゐ 居云 暮誇か る こ常 ふ 向る لح Ξ と実 のと云 な ع に践 質いふ b 国 す に 運 る 於 ふに 実 ば 大 、なが

熱て如 社な る 衆 神 を崇 愛佛 すの 精 と神 か b の送 IJ 出 なた る社 精寺 ^ かの ら寄 湧 附

会 民 る ろ 崇 高 神 き 出 た 公 共 專 体 ^ の 寄 附

は

服

價

す

る

そ

の

寄

附

は

り世を事しづ業な堂たる放て人て段を岩めこ山さ金の 道三容助もにらをしとし翁を居落整を やのにれを三三 る岩人千易成が対ず補みこ てがしりをへ穿 う海於た奉 。修をれ充島て 。代心円にすなす 、つたっと南け金納 す世 る山し見を分に採往げ 。て思のる品い 翁のの近運る て歡に在ら復てこ道い絶事はた 鼓いばを軍同内 ざ常人情青山樂待歓るしわゐれを立景業 でると会と年をしし談のめづるが通ちを 中 盡会拓むて ゜たじ を日てか 天最々常 つ ` 除 下 も 擧 福 壯起顯入見て青瘁員ひの 万に南め ろう と激彰寄てゐ年もはて風或く客一八部資家 に顯げ寺 し浪と附はる会大大庵がはさ来の銭湾をを 紹 著 る た に 0 ・しにをあ握しれ危で頭投建 介なに光伊め 日 歩 する堪明勢に 少た此しる飯めば険何のじて 徒 が 高 年ものつ。 を 茶な人埴る井 を る ŧ え寺 実 会の擧ら最饗自をかも田こ戸進 とのぬ と 吝 可 め 動この極 ででにへ近応 ら進らこ浦とを ح で 超宮篤 愛 斈 る る想 も世 何 讃大史しはめんのか無掘 ŧ 明 校 じひ蹟・筵てこ仙ら慮っ、に期或をへと境十二て に、 か小じひ蹟 たがに町だ つ 寺 、新 治 ع の斈 青救も そ に縣 企校こ面 とはただをの町万寝 れそ本 年助又組早 の な てやぞ目 づて期奇ば金食 し道 にに随合 < 民 南の願の 議 八 部 他 寺 賞 六 っ つ分議起 あ実っをて話 さなしをか の を お た。 た لح 骨 員 I る業て改名をへき 探 り石便 湾南 Ξ 始 を斈山む勝試て物船るの代に四め めを を す 口部 っ め 折慚る 聞校路るとみ島語夫こ間・ 壱 外附 絶 + て て けへのにし 封南る ・影なにとを石 ゃ 好 の近 組 埴 ばは改至て或にどはが `工其_年 を部 ゜世 う の 無の島 Ħ 合 別出翁賃のに 賞町拾 っのは避し 必折修 安 人寺 ഗ 町 、に来所だ他は ع ずににた千印く 息 島院 村 。 里 刷 る遊日る有け色 世青年た 率ふ助 た 所 官 專 。ので々 先れ成爲保物と人當 る 折 仝 道年前 勵 た に 下 1= ・鹿に藥 لح 寄てしに証をい多をそ渡もと 人等岩 乞 ら け 心又代 附のた費に頒ふけ給の船一遊 て し ふ 島ふ師 ち 兵 への れ あ自 のす着ち有れし渡二万園 未急沖 し金 め T な ら だ を て品で所目な様ばて船雙金地 で 開 払 ゜各ゐはが 、と下遊 廃聞和 のあ約 ど 内はに前 がこ寄る三 し團室る常 れい船 地 い 今 し _げ 覧 °につやて ずての Ξ 干そて体を れ附 地 を お で 、な悉そ船もほの一 た をは教金 と応難 反 の 翁み各 渡 狂 援 破 奬 云 育 徳 観 客 ど く う 夫 通 ゞ 設 _け ら の寄 奔にあ 、勵は事孤音の来解しニっ一備

6. 大 あのの追も身や色終ゐに し国のに翁うし 姿録思体二を える 派 興 のけた 水 ふが日見 手 を て る 内 増 を び ഗ ع るな見或可丈のて 後恩 務 殖 説 つ ٦ る き夫賜は 粗大原広 人 人 省 のきけ でで暇嬉主永ろ 告 لح 日 ま 美 ては くああをび人樂にた をな き 事 或 か 得 る つ の屋 は翁 は で 村 そ許庄 を的を拮選か誰か たて 立 を 自 畄 あ ちかの近か葬のを兵至表 \mathbf{H} b つ神木年ら儀敬得衛 つ彰 模あ 美 と戸綿庄で万虔 同範たは て質 てのて も郊の兵も端親走臨 はた 衛あに つ終 لح 位 し 外 着 愛 ゐ で培 でた でなの物のる参 ざ商 のてにないはを " 押い大に爲が輿態行はいふ遂や種 `し度 を道も しが除木に つ 年 つ ら得徳 劣 通 虫綿超休ねはてま翁翁斯て 慰だがは b 祀な 世んん し 菊の 慈 い るい履ぬ τ ご父 問日儀飯大人サ 製股 寺だ 年 にのろ 12 12 の践 勢 ゐ 粉引 母 野 理 郷 フ 月 す カ エを 碑はにに 屋堅の ラ ので 起示 る を を 場っを こ見対庄でく都 あべ IJ ン 附 か ると。然きことを のけ建の送 す 兵 奉 謝度 け る 本 一 或 御 てニ つ 衛 公 恩 て τ 大草追日た様の中の 縣 重は培 築 そ 將 履 善だので好で 産その云には 念 で き ŧ ふ近 り示 る ٢ を供けであき あに 有 の 上 の 思は 養 つ深 ٦ を販利に 個 で あ っな 範 げ たはい怠 あ った物たいれ加賣 人 な は高 で ے うて 経 る た を が ふ上 調 あ つ を ح ت る ぞ神 た 買 لح 説る便 大す 営 し 用 る 。戸 ع 翁かひ毎はいに宜 の 玉 を ろいがし 斯の 士がも 商 を戊 求夜郷て至を 確 が ふ長てめ十人ゐ 숲 様 街 つ輿 保 な き そ を な頭 い庄 る て 時 たへ す いそ年兵来過 こがの ŧ 性を るにれ る 書 る 至 同 つ 格闊 の月衛 て ぎれ で た 精ののはに つ業 て をま どそ勤 故 歩 翁 め 者 す そ仕知だ T の 勤 奉 喪 を に

<

し

は

快

<

治 + 年 八 月 + 九 日 夕 В 高 Ш 堤 防 缺 潰 日 高 郡 書 記 村 田 美 成 氏 夜 直 ഗ 責 を 果 さ む ح 現 圌

ははに

他

対の

る

、風翁

の公にの事

っ 大 表 確 栽

程中会愉をてい旌に培算

撰崎

文 医

に院

よ附

る近

碑の

淨宅

国よ

寺り

境 郡

内役

に所

あに

り行

へ か

畧ん 記 と

以し 上て

> 清 水

> 橋

附 近 に

て

姿

を

歿

す

時

ഗ

郡

長

小

Ш

大

海

の

自

7. 土

れ才へ命 。のの精 出そ三志神 五仲一神 卯抱 °た 用役藏 部人は 屋 安 陸を永 尺志五 (原) 原 申 今し年 の `日 土寛高 木政郡 技五入 手 丑 山) 年組 申 二 小 付十池

切

人

扶 で

持

のき石

惨 有 二

るあ被

経っ下

営た之

憺 様

た

の

下 就

に中

就伊

富ふ歡にが丹滝三村谷の同分・文り勢と 安たび達三生立年新嵩年領溝大化し田云 °にしヶ四会四溝置十土構柳十大丸ふ久たご今の ケこ浸、所ヶ新十・な二屋築両一工領辭々 村のつ同も村溝五栃ら月村、村年事川令 立功て六あ立エオ原び郡でこ立三で俣を墹れ月賀そ `年り会事同村に役堤の会十あ川受 <u>fi</u>か `村の 東以藩四三川を領仁川御塘水潰九つ新け兼ら江大技 谷てか十年俣督金古合普決利池歳た溝た而勤戸字ま久 奥仝ら八越川し輪里・請潰にをの 。開 。 御続詰小た 藏 池年特歳の新十・新岡手せよ再と今鑿爾請十御池入 塘五にの難溝二古溝田代るり興きそは内 暢 大月軽売エ〜月里〜両〜溜三、、の壯領心年間にの 陥評野月事長 、・長村切池十十上職時内事文に生譽 込定原目でさ切野サ立米を六三牟歴の各も化召れを を所に出、八米添二會七修ヶ年婁を偉所有四した得 。方祝エエのに村)築にさ古一見てあ役付(らに近同に酒し夫工増立・造昇ら荒才村事り、郷三れ郷世七進のた延事給会長。進にを勢古功、大役十、役の 十米あに三手全新立年。保す丸墾し郡土頭六五今家 九拾りは十し四溝で四文村る領のき千木手月月の白才石、、四た年(新十政岩こ阿指も田輿代)奥土井田に村藩万が四長池四元がと曾揮の墮られたり、 丸足方當人、十さ一才年谷が村にを道ざん 領高で局へ巖六四五同四新出大任學はる 金をはは内を才里佐領十池来河じげ晩は米 輪加四勿三穿同八奈小三築た内 、や年な五 ・賜十論領っ領分村社歳造。新翌 、俵関在て波〜池村田を十溝十 里同の係々隧多、嵩新丸主四、 両 年 餅 村 よ 道 瀬 な 置 田 領 宰 年 並 年 村日を民りを・ら工開下し四粕四 立高投は五通片び事墾菅、十野十 会 郡 げ 新 万 ず 野 に を `村 功 二 村 才 河茨て田人べ・清宰同上を才両同 内木躍開手き古水し領河以の注郡 仁・り拓伝個江・、茂内てと水鶴 勢両狂のご所・赤同原池其き野川

二十十新 才一間溝 都 同 郡領 で 湯 ^に 月 三仰は田よか 配び同人御小・つら 勘岩拾扶付場妙で同 合 法 村 領 新寺々森 池両古ノ ・村荒庄 新立開. 溝 会 起 田 築大。中 造谷同. に新八野 成池月中 功及五三 す新十村 る溝才立 や〜全会 長領桧 十さ奈皮 二三良池 月里井を ン 村 重 を奈興 築良〜 造谷 奥 し新行 た池三 °築百 文 造 三 政。十 十同間 年九. 二年 横 五 二 百

十五三

相所

持 被 下

造と に云 精、解精定伊心 相 打令 樋あ鰻役 おり付被 山 — 切年 仰抜〜之 付後五 年患?十 々な三 -き才 や) う上 下出牟 置来婁 之、川 天口 保村 二新 年 池 ~ ` 五高 十木 六 村 才 領 [◯] 材 栄 木 進丸 し太 流 の 荒 Ш 新 池 築

勤 候 付 支よ 定 格 被 銀二枚 被

소 年 更 計に

御 筋 兼 相 可

露川及日と 谷村び高辞 相置池村池り ^割 並 嵩 北 村 、勘御に、谷谷木用 `同潰池工 定同五れ嵩事 郡年池置監 中众再仕督 分方被志五興掛は申 河~年同久 谷伊〈三 。御仕郡十〜な 、こ足掛山八五け 被切村ご七ば °新上才 同池牟〇 銀〜。宇郡 其 ,六 同 津 高 斯 十六木池漬う 候才、寺疎っ 六谷口た 四十新池も 月才池への `池 日及田仝 高び川年 郡同取八 萩郡込月 原鬮エよ 村野事り

か人ら水こが督四穴仝 しもののの翌 `月掘年 て考定上頃九仝出抜九出池中、郡令當六出付ふ出評ジオジ 貰へ説で〜年年来な月^精嵩畑同小あ^分月 はてにな天五下 ら當 勤 ねる随い保月牟同び分 ばたっと年竣婁年に御付び置輪寺土御 ながて浸間工新日 宮高同定勘 ぬ何田が有是上郡堰見 見習 と分村捌田にヶ茨か習 い空須け川於知木ら在 格 ふ前佐な床て . . この神いが古坂両水助仰賀十。喰や候 と大社の高荒本富の相付村九同切は っで 年た七巣ヶ溝申 IJ 高 々た十谷在出候に池都五年で 其る高稲め六新立来 の所田毛 `石池会 筋かの損降にお東同の高喰田オ+れ へら浜傷雨およ谷八年 下 陳上へに出よび新年紀置 情下堀惱水ん新池〜ノ し共割みごだ溝へ六川被七築婁日ふ 。ヘ柏十筋下年造郡高の たにっ通と しに有出木二六 大て そ層水て圦田張浅才ヶ 儘 、右 ՝ 堰 诫 こがをゐ入郡 でっはたり千巖衛有口下一年村村な 捗 田 磐 門 田 を 天てか 々・開発郡二 保ゐすこ 八たよれし野鑿願吉百 りはか村のご見間 難築村 \perp うず山工造幸流 六か方 十しがし 、地事に岸に 二もなて有三で付池改 才ういも田ヶあ出嵩造 ご何と昔川村っ張置 三と何か減はた監・岩

た堰見こ 普 請ま I 仰 あ そ 事 所 が ^垣 篤れでで村^莊 付 らとに一はの吉 れ 協 し ヶ そ 意 ^見 た議て所れ見 いをもやはと と遂諸っ とし て 願げ入たて もはエ 出ら用経 たれ費驗 大 °たはを層和で そい在もで 田 つあ峠 れと方 中 でいのてりを の 久 つ 支 掘 久 藏て辨抜そり れ割 は別と が 田れな即よ 実 中たっち りて 九がて遂も高 險 、ゐ道先田 右 衛翌るを年浜 門九のつ勢 ^ た 同年でく州溝 る川を 道に 、な千方俣造 檢っ金が川ら 分ての捷新う の今用径溝と 上一意でエい 丘 隧 應 が あ 事 ふ 道御なるでの 工檢けと三で 事分れいヶあ行 見のばふ所る 出 積 上 物 意 ・が 、に見岩 を 立試なを田久た て掘ら立六藏

直急歿来を八就請勵上村し十直まどに斯た御ぬてヶのと月 に遽すて半尺役切には喜て一ぐでんなく 、っつ年市ゐ月名堀底 りて 工州とた半高本てと内をる三草切低 地 しへい勇夜さ年どめにはと十郡普い八方 た飛ふ次づ五かんた岩じ ` 一 の 請 掘 月 の やとつ尺らく結のめ六日稲に抜四熱う云交よい、果あ、簡か作着の日望 よい 果あ 箇か作着 う云交 の 日 望 くてなふ代りよエ る伊井ら檢手 こかも て川不鑿に一/を巖所都堰い見 とら あ 進にま郡でよに大 ト入り 八俣幸岩休間 出半 てり 月川もエまま本めぶで岸経 張出 `っ進上験 新あがせで格 湧 込 藩 溝り疱ると的天つみ村あ千、来水み庁 `のる田引^の 瘡がし工保か が再で に、て事十つ出工岩村続こ早三もか工前に年て来夫磐へきこく測す 痘に 日 経 を 藩驗 ろ強量ぐ 恐ゝ事後か〜かる等破入口 あ 秋 つは双ゝ 六らな段碎り熊 くの決 前 て 結 裁 た昼方る十六ら々専込野 逃の夜かこ の 四 ば参門み常 困果が こ げ で兼らと才七鑿 , 式 役 五 集の つ す ح 出 、行着に 仁 名 間岩 `口水土 た先ん لح ° づ だ 井 久でエな正進エ十熊抜エ ŧ て 、り月ん事二野川檢 そ高の 藏間 の こ田で 、にだも月郷筋分 模充 は断双 先 ŧ 種な方隧も所出朔役浚の での ー 浜 方 久 づ 郎 々くへ道元で来日文渫た のか藏 看す岩総日年るか助・め 止 視 れ 苦 病 ゝ 切 延 だ が だ ら ・ 出らは 河 出 し 察がっため八長け暮けめ日口張 口起い て、 に五は手た人百休れ進で高切等 か エょ 来月一を ° づ八んためた小立でヵ ら す つそつ十で °てく池エい 掘 る 月 、そ置隧庄事そ四はこそ 日でくの都間 そにはしう合余ニれき道藏をが日じとの の現なたち十と日でたに・はしなめに局 進場が可六見か大い着名じか 藏洞なに `熊人積ら晦もエ草めっぱ 口つ當 振到た遂野、り引日の `郡やた飯のたる り着がにかそ、続まとこ江うが庁切がこ をし、病られ敷きで督の西と 、立 لح

はま 表で 口酒 を 十 輿 二ゑ 半ま . t= 銀 五 + 目 を 常 半輿 . し て 同 を 二 激 勵 し た W な 風 に て 同 年 ふ亥 所〜

間 裏 六 + 九 間 総 計 九 +間 残 IJ 八 + 間 六 分 五 厘 ځ い

焼の不者天まの喜 取折休一保で暮び `人十進ま鑿 に法割田合年だにに るへ合後六へ 少火に洞人六 すか休でに \equiv 新これ近ヶ 日法ゑか郷日 江らのだ と泉ま宅で て清でし四 八はた日 な間のか る断でら もな揃着 のくふエ がエま `をでも ど進はっ んめ`と なた表も 堅が口勢 い `堅州 岩巖岩者 でがのお も堅方よ 火くはび 責て昼熊 め骨夜野

つのき者そ た立旨をれ 。場藩ひにそのれ \neg 大さは令き請れ妙る高都一んで岩 穴て甚がい負 ょ を 穿江だあては ち還な他たはふっ州苦っ乘せ 何もこ者した込る延藥工はは 程のとにくけみこ長では夜高五 ^は やなれエと ^六 爆 進 業 田 才 らっと事に一破みを宿 得 `をな せた で لح ての小引っしるねん越は うる見で泉継たて極ただ年正 `のい ° 向 秋[°] ° ° し 月 がた と友請だ是ふのそそ こ人負 Ξ °IZ W 百 ろ上とこ於 な 野なのてを 小 そか穴最楠つ時在期が州七者け つは初之た久来しあ者月は休 不の烝以藏のてる小末皈ん 場等上はエ経 手 で合の詰從夫費 に斡切来は三 も旋っ通全+ 似でてり部四 貫 づ時監引解 四 な々督つ雇 百 か出すゞ 力. 張るき八+ 監必現月 五 匁 進察要場廿 捗すもに九 で 請 しるあ監日 負 なとる督小ふ ^か いまの泉と ^つ ふ ひ 衞 清 ぃ たこしにハう の ع 當が で に久る江 な藏べ州

方ぎと 針たか りエふ掘がが何 ے ` と所わ仕か っ事い 7 ŧ ڵۓ 出 う 来 てもぁ ゐ なま かく つ 行 たか ゜な ٦ でた 天 保そ し: + ニて 年そ _ の 六 年 + **t** 六 暮 才れ 日 の根 年は が豫 明定 けの て半 亦ば 藩を の過

つ国 てて 領 分 らつ 人 数 宛 ら算

لح

州年從

者の前と 請通のい の昼夫こ抜変 を 方 夜 は う召には یج 硘 し う IJ ŧ ゃ う能 ま野せま < おるり半 よと片分 人き藏負かびいー ものはぬ勢ふ方に の全止と州こはて が責めあのと江取 魂よ任につ者に州計 だっを相てをな者ひ て以成遂呼っにの に返たや心 tι てそせ 月 十正 こ 二月で片 日十久一 八藏方 日はは かま藩 らた直 着千営 手田で し詰久 た切藏 。り指 とと揮 こなの ろりも が 江去に

ら勘 エ 御 目 事 了 強久受?ゆ ツ続 ` 15

がくと 確達れ定 あ眞の衆 技では簡 術辛再に よ抱びて コて 今コ行 生ツさ とせ の 思やる 出れこ にばと 是 非 結 な と局っ も掘た 竣抜 エが牛 さ 出の せ 来 歩 よるみ うとの といよ ふし その遅

う匠千事衛の神がゐト仕れ至ご年が就熱藏れ し白田は門た一狂るン事ば誠と、結中誠がは 。 ネ・技精貫 六局 最 ひ ト着のめ統ひ 、何な手ル此術進通十こ △貫事し掘にのはのの七れのす うい事にル行翁通かでり就人稚人喜才は大 ` は の 成 中 で て の で 白 び ` 久 エ 後 こ喜ら央そ語業あ井を七藏事の土無 そ びざでんる績り久見月 で た爲 ゜は 年にをら出な 藏た二な . る を 工 そに十假見む会に氏永迂が 十け千念事一 あ 辺むれ近二寓てとふこ日遠で不 七れ田 7 しーいいつくのあ断 日ば墜 と関無 な 地に見紀にてヶふふ/『 光りの 夜 渞 し さ . 輝 努 てす こ 稚 ഗ の ね っにに見たもとはや拙あ拙カ 両 開 ば **篤た竣於事** ンたを偉っじりでを 方と な か云に とかエけ竣で」如ひてや價あ以 丰 ら って らふ際 る成病ぬ実も行と値 ず 覧そた前を歿八にのついあたの 並 意 • じれこ後告し月示じてふるが淬 び気て ケま な ぐた甘しゃ `がも `礪 進込は ŧ `のその 世 。四た。然 んで難 にる 忽 ば 。 🗀 もそでん功 だ老エ おの に な 翁と双れあな 全 躯 事 を よも せ っは享は感方はる巧つ 長断で ん忘 ず 木た歿年多歎か稚 °拙ん あ 百 漁 だれ 事 絶 し六年こら拙嘗なだ の七潔 つ がて た十のれそど っんれ 十 齋 た 1= が七辛をんこてどば 二でだ る そ我 缺 そ才酸久なろ縣いこ 間精け の夢 14 陥 成の進に 特し別か会ふそ のを な 菩もにう々入議こで 隧し ので る っ数せに神員とあ 道た幾 提 ഗ b 。 のて年らエの山をる_日エ 小 つ 爲干前れを境野超 事かの にた に 成はく曲 と田のた進地憲越無 関 。めに英し論 、て折 あ村身 る はそ を つ庄心かて到氏て今 遂 天 は らも に 期 `か 非 に 保 あ `達と て屋のく ずそ 残 磯 過 て そ し こ こ ら ず 見 十 つ エ右労精れてのの見ふん三た

たた大久ン々宅 やつエ藏ネ進 なで をよこ っそ 地に決 行てはのゝ 形 あせ 実 のるが世月 形至事州はゐ月 ろを と無 了は比 云解ひのに棟日 と大至領 ひす 土 いた翁 °めの 事 日に名 業 高は譽 で でチの あ 云田み つ へさでた ばまはが さっな 縣い日 づ社 高 め須一が 和佐体生 田神何ん ぶ 社 が だ け〜こ巨

約有 流新田 けぁ町 るのの どチ頃水 と損 日田 しの 村 て 免 △最 ħ. 和今 善 る 田ののた ぶ保技め 術に け田 を に 村 相のし ## 當大た ത す字 ŧ 日 の 高 がだ 人 が、が、 七 十そ れ が 余れ だ で 連 町 け ゐ 歩 年 苦 て 労 あ を 隣 മ し 損邑 通 た 野 IJ を 免 村 の れ 吉 敗 た山 に原 さ 地 終の っ所 に村 謂 た の て 倒を ん 頭併 ٦ せ の んて Ш

告な に 思 ょ る 切 つ た 称 ع 上 を 田敢 和え 隧 て せ し め た の で あ る 有 田 郡 誌 の 著 者 佐 Þ 木 定 信 氏 か ら 縣 ^ ഗ 調 査 報

ふに第六井全 = 大 + 久 破 工 四藏 百 事 す 匁 前 七 を 立 後 + お 金 五 Ξ 15 ケ 間 し 年 余 て 断 • 弘 三 漁 高 化 千 潔 平 二五齋均 年百に八 ま六て 尺 た + 取九昼幅 拡円夜 五 余の尺 を 行 別 な天 Ŋ 坑く た 保 内 IJ 全 九 中 0 力 年 央を し 六 にっ か 月 細 < れ 千 穴し 共 田 ۲ 山 + 村 質 てΞ 庄 軟狭年 屋 窄 弱 + 鳥 の = な 渕 ケ月 る 磯 所 所 竣 右 あエ 屡 IJ 門 々 崩 エ 等 壌 天 費 発 保銀起 L 剩 十八 四十役 ^ 安 年 四 人 四貫小 政 大月匁池 地 更 🤿 村 震に銀白

ح い ゃ う 15 な つ て ゐ る が 保 田 村 長 島 津 太 郎 氏 自 b 執 筆 す る لح ے ろ の 同 村 誌 1= は

上 田 和 隧 道 開 鑿 エ 事

工天長 百 六 + 兀 間 穴 高 八 分 五 厘 横 七 分 Ξ の I 費 銀 百 九 + 五 貫 九 百 = + 匁 Ξ 厘

保 九 年 戌 八 月 四 日 ょ IJ 起 エ 소 + 四 年 卯 八 月 竣 成 す

費 銀 五 +貫 九 百 _ + 四 匁 第 ェ 事 費 天 保 + 五 年 辰 四 月 + 七 日 ょ IJ 弘 化 E + 月 ま で 切

拡

げ

玆

細 穴 切 拡 げ 共

に

エ 事 関 係 者 千 田 村 全 肝 庄 総 煎屋 磯 右 門郎門助八衛門郎門吉

傳 幾 右衛

地 村

肝庄総肝庄総 煎屋代煎屋代 左傳三清嘉利

村 右 衛

소 소 野 소 소 山 소 소 소 文 衛

た 氏が 生 憎の 不 島 在 津 で 氏 要の 領 を 得 ず そ の 儘 資 に な料 つ て ゐ 世 る 書 中 者 は 翁 を 評 し て 日 <

ع

あ

る

徴

拠

ع

し

た

根

本

を

見

て

貰

V

度

LI

ع

思

っ

て

先

年

保

田

村

役

場

を

訪

問

し

後 世 石 白 碑 井 を 久 隧 藏 道 **ത** П 如 に き 建 は て 眞 7 に 事 君 業 の の 偉 た 業 め を に 頌 忠 し 死 里 せ 人時 る 人 祭 に を し 絶 て、 た ず。 後 世 の 亀 鑑 ع す べ き 事 業 家 ۲ い ふ べ し

ع い ふ 所 മ 碑 は 洞 に 建 て ら れ て ゐ る。 高 さ 四 尺 . 幅 尺 八 寸 正 面 中 央 に

つ平 等 院 至 貫 に道 居 \pm 靈 位

あ て 側

ع

日 高 郡 小 名 池 村

俗 白 井 久 藏

左 側 1=

明 治 + 六 天 未 九 月 造

施 年

有と

田 の何 模 時 範 行 っ周 校 て 長 H ځ て、 둜 しょも れ碑番 .i る 前 某 の 氏 花 に立 問筒 ふに、 て 花 Е が < 枯 b さ れ て ゐ な い 0 記 者 或 時 保 田 小 斈 校 に 顯 れ て

す 御 が、 校 では 御 校 白 で 井 は 久 ど 藏 んな風に御取 翁 のことを 御 扱ひになってゐますか。 調 べになって ゐ ます か 修 身 玉 語 歴 史 の 活 き た 郷 土 教

材

だ

ح

思

い

ま

校 長 答 ^ て 日く(頭 を か きな がら)

い校出保 かの ع ところをや か 長 来 田 問 は て村 ゐ ふ 更 で 。に が す 、 て 迭 者 みたら、 し が た か ってゐ ?辞し こ の τ ら の て た。 。 居ると云ふ 不 今 点 皈 は世に らうとする そこで どう 出 於 の て か 先 模 の 後 賢 知 範 で 刻 ら を 村 時、た 試 ぬ ع 皈 所 み 宅 が 謂 い の 模 は ま 児 範 或 れ (童 は校 恐 ح 長 通 島 る 道 津 IJ 今 模 連 村 掛 かの 範 れ . っ 校 小 自 に た長斈 な b _ は 校 つ 教白が た 筆 室井全 の す 久 然 る を で 藏 取 ح ت 幸 何 の 扱 V ع 名 つ か ろ ŧ て 0 굸 の 斈 ゐ 知 ふ 郷 年 洞 らな 土 の 門ぬい 誌 ŧ 子 の そ は 玉 で はの ゐ 語 る な後 IJ

べはと 箕 児 問 と章 ふ か がて に 長 知み ŧ 歎こ b 何 t ぬが か れ 史 ع 要 を 料 い 領 久 が ふ を しうし あ ょ 得 る IJ な ま 先 い た い 0 生 の か が そこで ځ で 知 あ ら · 今の ぬ 根 た。 。 ら 掘 IJ し 御 皈 い葉 つ 坊 0 掘 て 校 IJ 模 か 長 誘 範 ら 生 斈 Ξ 駒 校 の に 問 エ 次 し を 事 郎 て ゃ が 氏 斯 っ 箕 < T 島 照 見 の 町 숲 如た に し Ļ が ŧ た ところ あ 他 るこ は井 推久 ع 藏 し て の 知 る Ξ 倒 ع

刻

場

で

やってゐた

何とかい

ふ

洞

門

ょ

IJ

ŧ

ŧ

つ

ع

立

派

な

洞

門

が

٦

の

村

に

在

る

ع

い

ふ

が

ځ ت

に

あ

る

き た 郷 土 教 材 に 有 之 當 校 0 0 訓 導 夙 1= 調 査 を 遂 げ 居 IJ 候 ^ 共 御 来 示 に 該 當 す

つる て 當 島町 小に 斈 校 で は 取 扱 っ て ゐ ŧ, 7 如 < で あ つ た で里 人 が 時 祭 を 絶 よた いな い 日と 高い

にふと も先 様 関 な心 実の 例 大 が焦 あ点 るで ぁ そ る れ大 を事 指 業 摘 ع す る 全 前然 哨 戦 交 と渉 し な て 斈 寸 教 Ξ 育 れは 小だ死 孝 け W 書 い ゐ て る ع 居 < 굸 て

っ

ゐ

白る既左賢 本 出 紙 先 を賢 伝 の紙 頌屑矢 籠 田 ^ 投 丹 棄 生 田た松 の実 原 . ŧ 南 あ 部 る こ 切 ٤ 目 でを な附 志 記 賀 し 等 て置 に < 関 係 あ る 校 で、 自 村 の 先 賢 伝 を 載 せ て

十広れさ 泰 7 て 寺 ゐ 壬に る # 宙 納 久 す 八め 藏 な ` 月 碑 は ち 十を 徳 四建 翁 碑 日 て の は 死 紀 7 有 後 ŧ 勢 白 つ 井て 州 千 例 久そ三 田 藏の領 ば の 教 遺 か 旧 導 IJ 徳 塔 知 を 相 と頌 謀 あし < つ *y* た τ , 伊 文 正 勢 そ に 面 に の 曰 に ŧ 分 く平 Ш 骨 俣 を 院 Ш 渡 至 新 来 譽 溝 郡 貫 関 宮 道 係 古 者 居 士 今 に ょ の 右下 つ 側 て 城 に \blacksquare 建 天 村 て 保〜

金の一こ 五 懇 日 の 両 情も 白 思怠井 を 現寄 慕ら教 住附にず導 し 堪 `は てへ其紀 ず職州 山永 0 に小 広 代 そ練池 泰菩 の熟村 深しの 寺 提 回 恩名産 向 を 高 な す 謝功りせ大。 る 大 世 ŧ んに文 代の がし 政 な たて 中 め 実数に年 遺篤勢 骨 厚 州 を 忠 三 當 貞 領 の御 山 士 普 に 納也請 0 め 所 石 享 在 塔 年 勤 を 六 務 建 + 立七処 し才々 位に水 牌 し 利 を て 奇 安殁功 置す成 就 嗚 終 呼 米 年 精

料 来 勵

神 照 松奥 田野 + 宮才 八之 七 明右 世 貞衛 元 門 宝 豊 忠

+ 四 年 卯 乙八 月

施

主

天

保

補 助癸 部 才 助 延 賢 並 記 之

8. 殉 官 巡 杳

四召藤(+ 藏要 歩 匹 点 年兵男の 四 第 とみ 月三 し 一十て記 七 牛 В 退聯 る酒 営隊 井 に同由 四入村藏 十り小 三出斈明 年 征 校 治 八 卆 + 月そ業七 和の後年 歌功家二 山に業月 縣依に 巡り從十 査 三 事 五 拝 十 中 日 命九 年 明 田 古四治村 座月三 勲十現 和八七 歌等年田 山瑞十村 宝 二 周章月田 並十四 見に日 + 各 一 日 所 時 露 歷金戰地 任 下 爭 賜に酒 。應 井 資

南葬表ど競温 高を彰 馬厚 女行会身取篤 生ふよは締実 0 り馬中 同壱蹄 、昭 四氏千に奔和 女家円か馬 秋庭を 7 觀年 子は賜り衆十 ヘカり人に月 上ッ `事突九 南子十不入日 部 夫 一 省 せ 上 ^校 人 日 の ん 南 五 ・午重と部 年 長後傷し村 生女二をた第 和時負際一 あ 子 上ひ 駐 IJ 南翌 身在 次部十を巡 尚女超日挺査 長光世絶しと 女 子 寺命群し · 1= 衆て 次 長 於十を勤 女 男 て月か務 は良 九ば中 晚雄 長日ひ 年(船附危仝 死 田 警巡く村 亡中 察査そ西 四 部部の本 年 長長厄庄 以にを須 \equiv 下発免賀 女列令ら神 席 し社 花 子の縣め祭 二上義た典

紀署勇れの

9. 明 治 全 大 部 別水 ഗ 項 に 犠 筆 牲 寫 者 宮 所 恒 楠 ഗ 叔 父 直 松

10.

満

人

の

古経年明三生十退助《 獨て東治十に五役氏要 立蒙部三五漢年 `日点 遇の古蒙十年斈選奉露畧 爲に古八六をば天戦記 三奔入を年月斈れ商爭 彈走る旅三歩ぶてエに丹 を 0 上会從生 行月兵 う昭四 奉少又京議軍村井 先. 賢 け 和 十 愈 天 尉 佛 成 所 歩 松 清 て七四 々 戰 任 教 城 会 兵 瀬 斃 年 年 蒙 從 官 を 斈 頭 伍 松 るニ 、信校た長井 七古軍 神 月月に 台ず入り 、甚 °凱五 七二更興後湾 0 斈 は月十にを第守明 大旋郎 十五二持十備治心佐後氏 昭三 В ケす師歩三身は丹三 。團 兵 十 強 明 生 男 和日手年 十奉兵の四満第二健治村と 四天五許十洲十年学二 튙 年に百可三守大十術十 لح 元於をを年備隊二 又四 旦て率得十と付月優年 り明 ` — よ本ひ し ع 士 等 旧 り庄 、庫月てな官 ٦ 藩 + 司林倫末駐る候在主 ح ح 月令西及一屯 °補 斈 徳 あ年 官にびヶす明生中川り十 十以赴其年る治と柔家 四下かの海や三 し 劍 設 仲 月 日列ん附外 、十 て 道 立 兄 二 迄席と近旅満七歩共の三十 紀軍しに行蒙年兵に徳 郎三 南葬て駐の研八四有修氏日 を優る許究月 新 十段斈は生 聞行勢 。可に歩聯 。校歩る にふな爾を没兵隊根入兵 る来得頭中に本斈中長 `佐 兄 根專北四尉入通 ら京十任り明翌に藤 河蒙を一・、先二て之

連

載

1. 情當省がし何た益もぶゝれや教そは読至をなの上待 、育れ、書廉盛い下巻 がに圖十得だめでなとあた 次精書分いかにあい共っ点縣会にまにな 。に は **の** IJ の細監にこつ史るでにたも教の一さも定 `わ編尋書 • 0 あ育こ文に不價これま常 ごな修校とま実かは と校官閲をら・らな取私り会のも聖読をれられ小 、か快広代書附だがた斈 、い扱達 く閲各し諒ぬ文 沢 を 務 て と 尻 斈 こ が 乃 は 容 ら 擧 告 ^の 氏 し け 本 も 五 、至今れ卑に料 一も • 7 山わ虎誤し拾 上書の年山 にづ雄謬てひ文にす配新ら見対が大わあ質をで 缺 ら 氏 を い み 典 は で 材 装 れ を し い ^福 づ ま 紙 手 あ 下 教 陥はに未たた・専にになな徴てら^音かねをにる巻 をし依然ゞや語ら公つれかさ満ぬで三く用しがは会 指た頼にきう格読刊いるっれ腔とあ拾大ひて `のい^ら銭衆し何広六 摘もし防たで等者さて本た しのて止い心の及れは書点い敬ふねのよかよ く年の 、す 。 苦 方 び て 若 を も さ 意 絶 ば 奮 来 も り 一 程 郷 ら精ベーし面を読干手あゝと大な発れ簡嬉般度 らで! のば細き体いかの者のにるか謝な 素 なはこがら指の意し。心意は、と乍く読標校づん、瞥手見て何います。 こ校づん このび清ふとに美 者にも `にい表を 堂ん閲のなし 見 々なをもこか たわあ豫したすもし有か楚 し た誤煩のとし る謬しでは白 すて内上出をのの多趣ゐす 文はたあ私壁 `副刊 づ なる。なるの来具でこ生味てべこ恰読 部なとるなの たはるに見る陳あとをなくきれ好本さ 。ど 微 省いあ 対るれ装だのまれ ち以対事だしるで 監はる本が瑕 点 。は象空る釘けもたた 。書指も 小上すなけて を 李、る出價置さある然こを清のは 官であの摘 _ IJ 生今通来値いきるしのとも新と課上 があゝはす教 ら っおさ評栄あたにがて好でっはし外 こる精し る育 てよらとなるの本 。 著あて然て読 細がま ですいのもで書わたにるしも推物冊 ししなきでの き 教りっをのあ編れ量親 °て優薦た きか校にも道 で職言た心をる纂ら出し小拾秀すら百 のる閲よなの 供員をやかとがのは版み斈五なるし こに ! るく為 ` 1= 諸しうら切、企和で得生銭質にむ と不果と し た氏でなよ望容画歌ある以とと躊る余 に肖 監は いしまるしれあ山りこ外い量躇目頁 私て文修看 。の無想こつらる縣、とのふとし的 眼風本部者過

とのにに修が し用目しの利 十 井 陛 本 の に て 意 を た 名 か 下書はでよが通話をぬ ろ缺し こけ いしは 和滝和収儀場マ虫迎にだらんて相やて利 でゐ當し いもぁたのくれぬ るら準もたの も出 の来感し備和ので 教いを歌では さ 0 う育 も山あな 会こっ縣 るに 一点んてのうて 思 ふ局なの郷 無ぞ土だか ŧ うしま読と 任な本すな 分 文 なけをれか 無 部 監れ監ば 理 監 修ば修無た 解 をなせ責の 修 無 官 しるん任 責 てまとこ な 任賞いすれ ۲ な っ。 لح る ょ う IJ を敬ら甚す ふ Ξ きなばだな 肩 書れなが き ^く が ら 相 きち ^ら ら 各 當 は 碌 を 有い 務紀なに の精監州 難 く眼 が校細修に る閲な官関随通 のな校にす分 はれ閲はる人な 、ばをこ古を 時わ得の文馬 代れた辺献鹿監

2. を上なも

で

あ

• 綿 ト 寺 浜布と・ をロエト除お巻は幾 歌め兵をト菊へはしで ` 衛 見 ・ の し る三恩 て 社 人 . 鰹 参 . 和 釣り浮 歌 IJ . 島 山 手の 明ま森 惠り・ 雄 上と陸 水 人殿奥 様宗 紀・光 父 の戸の 母 川谷幼状 新時 南右 • 部衛お 梅門濠 題 林 • **ത** 粉蓮 徐 和 河 • 歌寺權 海の現 京 苔起さ 橋 りん 水 根 夫 蜜 太 来 虎柑吉 # 吉狩の り涙 高 棕・ 倉 • 櫚 弘 チ • 法 ョ

巻

・・の流室三燈師レ三上て誤 発龍業智伊篇 · の . • 長歌 . 保の鹿山 寺浦島城下 . . 満白鮫に 蜜 柑洲浜退は との 治 紀野湯 . 伊か崎和 **b** • 歌 • 紀祭 高 野 潮 伊 豆岬国け 腐 · 分 徳 寺 • 土本跡瀞 。八 耳上 古人高 . 野 の 墓熊山は 野にま . 興の詣ゆ 国歌で う 寺 • て . 玉 . 太 綿主黒 \blacksquare ネ渕江城 ルの漆の 不器水 道思 • 攻 成 議 勝 寺 · 浦 有 の森港田 い下・川 は中本の

ゐ三記編加のれ佐縣上皇のお大コ紀聖さ錯 い等佐が諸十海雪水・と十祭 。が藤読平三外の産那紀三 章る夫の加を展神 はだ・文藤収 編け西章千め で条に蔭て 者 `八適 . ゐ 自後十世川る 身は・し田が が悉山め順 執く村る 筆作暮や下者 し者鳥う村を た名・に海明 もを小 `南 示 の附泉多だ だ記八少けて とし重のでゐ いて 改 る ふる以定末の こな上訂尾は とい上をに上 巻 加 括 巻 な中〜へ弧で 、たし野 つ等 て国河もて口 ゐ語東の小雨 る 読 碧 か 活 情 本梧~字 此で桐にで下 のは・は示巻 常作近 しで 識者松高たは に名秋井も正 よを江三の三 れ附・・ 二位 ば記沖松こ 知 し野本れ家

上て岩浩は・

もふ紹るか名 あ文 ŧ あ な う لح かし っ校も家れう つい局 中わがた か中者四 、尚読る藤に何 所す条浅本所春はに多は見 し校大 る久 あ氏 う て教 るの ŧ し 育 で 如 てそ乃 きもの 至 何 ろ川 は所作児でが・ 謂者童も本谷 無 名名のな書山 論家を秀いの 紀だ公逸無場 州け表な名合 がのす作のは四 生 名るに作前訓 をの 者 だ公が編の諸 現 表礼者作篇の 代 し でがもの合 のてあ若交大作 大 ゐ り干 つ部か 家 る のて分 でわ作改ゐは或 あけ者訂 る りがををら編四 わ表加し者氏 燦か彰へい以の とらすてが外内 ぬ る採 故用そ執 て 輝そ以しれ筆 しのた < をに氏 そて道と何かの

例 せ そ 室 づ さ ま 良 立 は の こ 必 場 角 認 あ 併 の 公 で い 故 ゝ 作 無 へずれにれてな平て初一れ要合佐すのし藝示 ら等 篇とがが藤る一乍術さ とれ教ははあ場氏人件らはれる っ合はもが小何た あて育 ` 反 るゐ介同対た . 毀ああ斈人名わら るの村にと場擧ら うと す所相うての認 人新出日 高れが半が日副む佐れ 格人身 の 文者と三郡ば場ば に でて百矢 る件きにで夫ど 有あ未瀬田こ ` 校村んこ 難るだ 人附 今 日氏 干なれで 味 名 長 で の لح が斯も大津のはあ承 名 こーる ーっく知橋川 認 し てを そ応 す 介のら良落 加如れ平合 っも 人る は し はきて氏谷 作再 物人 ٽے た つ ゐので者考は ŧ W 作 な作の不も て者 人 あ な を 明考物 らも いで 採 徳 ٦ うの があ 慮 で 少 本 録 とす ŧ だ < そ る し 行 し ベ さ又 よ僅濃が てきぼこ 、者 た ょ う ŧ ろ直 ٦ の う方 し温そ 日 か 若 ځ となに か 0 く厚の 高 き は す 名 紹 あ 日 の思物対論 を 介修 た 百 のが ふの容 IJ す省附 苦 °作認 ょ のベ求記 ത 行 いそをせ き道 読 し 出 徭 を でのて のれとぬ 者 処 な 描 で る人 ± ゐ لح は 進 ĥ い あも 再 徳 と ع ŧ な 退 ば たっ 是い 本し 読 い あ を 1.1 上て 非ふ Ξ ら 無 徳 ざ う条 讀 人 地 氏 採こ 知 本 ع ⌒ 方 の 用 件 を b H お大で如 すは兎 で ず 人 `に承 し橋はきし る

3.

で

あ

ら

も上いご す 皇巻 室の 冒 はにが事か頭 りに る記他あは لح さにる で解れも記聖 さてあ事 は F れゐるを陛 るれが掲下 軍 文ば げ を て お ع で作 る迎 の るへ を 用 敬が がし Ŋ 語違 て 天 方 づさ が 法ふ 皇 • のか す ま が 下 ま ら 軍 ち に巻 ち ع 襟の 下 を最 に言 正 初 な っ な さに 訳 っ 皇 っも しは て て -めっ 室 ゐ ゐ 應 る 皇 لح る 紀 るに 圧 室 ഗ 伊の出 巻と は は来 と 紀 小 し伊 で 少る し し て _ は が ێ 困 同 拝と う じ る 読 題 作 ħ١ لح 者 しし ع を思を たて、、 思 っふ 明 示 。皇い 天

上はにねものの皇 しば 少水下の 門 て な し 和 ら変 が試 歌ぬに 固み 浦か思 い b に ら ふ文れ あ ٦ で の あそ調 のが 句 b の で か う ഗ 他 **‡**, **‡**, き 碑が敬あ あ 語れ れこ IJ 文のばぬれ 語用兎がは ح ひに 五 あ語 方角見年 ま 10 つ 方で て ち 就 皇に軍 て 室依 は ع っ六 文 語 に 今 紀 て 年 を な一伊は 用 っ段と 読 ての同 ۲,۲ 本 御 ゐ 洗 て じ لح る ゐ 練 で し が語 る 7 がた望体 の ع ま で統御 W ^ し ばい同が な 上 じ な提 は巻頭調 い示 本八註 子 لح 文頁は の もた にに簡 文 見い 準 ع 明 ら じ芭 を し れい て蕉 るふ 旨 て ع ۲ の や句せ う雄圖

ふゐづのさ るか川 う なは 和 淀 縣 て 歌に み の森 山 北や に 縣 部林 な を っ の て はが し 熊 瀞 づ よ穏 野 < 八 () 丁 川か 文 は b 章 古南生 で 座 のれ は 峽 境 を谷 を あ な流か る れら が て谷 急 海 を 中 流に流 に 入れ ح る て 少 な 0 Ш っ L ے ک て 無 はれな 理 らるの。 九 な 里 **ഗ** 所 峽川紀 が をがの 山川 な あ 々と る の熊 又間野 を川 壯 大ぬは な つ本 ば 縣 那 て 流の 智 = の れ る大 滝 を 間川 生にで h

> で し 紀

IJ

語

体

ょ

る

方

當

ع

思

ふ

解 لح 少 さ < 굸 لح れ ŧ ع る 小 勿 斈 ろ 論 生 を 頭 の 読 註 読 ん 本に で ょ に 来 つ 適 る て L ع 此 な の い 古 誤 座 解 ま 峽 を た ゃ 解 那 消 智 さ 滝 せ が る 紀 仕 の 組 Ш に 又 は は な 熊 つ 野 て Ш ゐ ഗ る 流 が 域 ` に ٦ あ h る な か 本 の 文 ゃ は う 困 に る ŧ

歌 太 の 平 浦 洋 に を 追 横 Ŋ 断 つ し き て た 来 た 黒 芭 潮 蕉 は、 の 海 和 岸 歌 に の 眞 浦 白 は < 碎 芦 け 辺 て の 美 鶴 し ۲ い ۲ 浜 ŧ ゃ に 不 昔 思 か 議 ら な 名 型 高 の < 海 岸 或 を は 作 白 る 良 浜 \neg ۲ 行 な < IJ 春 に 橋 和

る杭 岩 ح な IJ 굸 Þ

4.

雄

は

假

名

遣

の

誤

が

Ξ

ヶ

所

あ

Δ

盯

は

誤

•

0

印

は

正

即

ち

改賛に 水めも ょ ょ ば い لح な が ら 黒 ぬ 潮 ۷ が 理に 紀 由 至 伊 は つ 水 多 て道 言 はの せ い奥 ぬ さ 深 ۷ < 突 か ے 入 し ま て る 0 和 六 歌 頁 浦 海 В 岸 J ま 岬 で 洗 の つ 文 て 字 ゐ が ること 悪 い 10 日 な J る 御 崎 黒 潮 ع 礼

御矢に き き は○正 ずっずっか

御矢に

づ△づ△か

き き わ△誤

下 上ょ假らわ 巻っ名しづ と遣めか 瞥にる三 二三三一五五四四三〇九七七四九七七 六二頁 見も慮頁 一二〇一〇七九二四四八七九四二五一七六 六 六 し随がそ て分あ 五粧誤気誤る 浅 鉦 徳 團 少 什 殊 蝋 神 埴 暗 に 浸 急 獵 饅 採 院 盛 修 + _ 野 、 ろ 扇 名 器 遇 燭 護 田 礁 わ△水 勾 師 頭 集 宣 装 業 づり 猛よ 幸か津へ彦へへる景へへかへ配へ笠へへへ いがこ しっれっさい位し 長 △呂う △ じしら運はあ 命そ たおれ短 ちすう△ゆう△ ねん ん き う△ま い ん い ゅ (ほ のほで文 わ△く き う△そ し△だ△し△ すふしんしぜすう (\ L\A をく各中 ぐくん〜 ر ≥ ۲۰۰ そ△) よ△ じ△ゆ△ん い△げ [〜] う ٦ ゆう△~~う△ 列 う た う〜 $\overline{}$ け は△ け 擧い監三 い い が る しは修 う さ の てゆ官所 ん H もるのも こ ځ ざ密密 つになが へへへへへへ採 ゐo盛へ 、い よ 正 と 校 る よoかにうすじしらじoはあにしきれま集ん衰しこたoそ 左閱校 しゅねっとちくふっゅふらんねらんはらんふふらん ごっゅれけほ のの閲て なごこはつなきぐそごたせつかすこしぢつさんせうはるひつ 通箔をは ひ~うくけ~う~ゐ○う~ゅい いげ假の りが経 い) ば∘ うし す ふ0名 み ゐ○゛遣こ う がふ。 い さ ح W Ŋ の 誤 IJ で な <

務に

精 誤

精

ケ

つ

殆た少

んと年

どは少

は恐女

げれ達

て入に

しる正

ひ傍い

さ訓国

うま語

でたの

あは把

る傾握

註を ちの誤

ま

訓

H

方

の

誤 で

あ

る

。し

ゆ△

き△

な

が

が脱つ

字み

かや

1=

ろ

ع

傍

訓

を

施

す

べ

き

で

あ

る

な

う

誤いこてはこ 植読ん数れれ と者な ヶぬも 認にの所あ訓 めはを `やみ ら眼読何 ま方 れの本処りの る毒へで が誤 も 非で ので採 はあ用 竹 冠にる 左るさ ° れに 目が 助 数上て 立 とつゆ 件巻は ぐニた な 0 っそな てれが い頁ら ゐはな ぬ る 八 頁 活 すて とぢい 字 でこふ 九と あを俗 見 四 る。意よ 頁れ ・ばこ味み 一 正 すは ħ. 一しはる通 八い活筋類 頁も^元とさ ・の鑄いせ 四と造ふた 三の元活く 頁先の字な 等入あがい に觀や 散にま上次 見支り下に す配で両誤 るさ あ 巻 植 ° h をと る 明やが通も にす 、じ思

記

井△ の 皇 松

襌 林

— — 二 二 九 四 四 . . _ 六 三 一 九 三 兵△関 村 齋△比△誤 制 第 時△天 度一

> 比。 皇ゐ び

> > の

松

徴○関 村 齊○井○正 兵○南○時○明 軽 第 雨○天 襌 林

気度 一

∘訓 か 井 参二 る本て材の照郎明しもの 知 松 はしで陸れの上ゐれ原 紀かは奥た著人るぬだ ഗ 。栂叔こま・ 尾 父 れ た 関 制△西△雨△明 明はは上西 惠明も巻第 上にん九一 人 上 が○一 襌 し覺く頁林 及上とっだ 「人訓明の 上でま惠は あねよ、 るばん るば、 。 人かなし ころらの編 ぬ課者 そ れこがにが かれ、、 は文上を b 訂 覺 人 利 村 正・のか 上 を明叔し 素 道要惠父た 導す両を つ 師る上文も 。人 覺 り ഗ 「上の上で 栂 人 間 人 尾研にと原 山究はし稿 寺の血 明 權 縁 も 筆 惠威はんを 上者なか入 人浜かくれ 一田っとた

うて上で鰹描よ上を康た傍の比 なか巻あのしい巻 場ほ料っさ氏惠て 南っあ宗いっの たる光 ゜ゕ゙の 紀 南上慾幼 に巻に時 は九は _ も頁剃は っ山刀少 年 と村外 相と 暮 相 鳥 の云ふ 助 を 調 評 描 鰹 雄 大釣語 い シり」、こんなの対別 た ŧ の で、 ゐて南 して、 密 南の に 国を親情どに い つ 緒うや て Ĺ さ ゅ たてし 幼 か採か 蚦 な録っし 民したと 謡た孝は がの子受 あだ宗取 るら光れ はうをぬ づ。点

5.

らの を助水 さ夫 少れ虎 国る吉 民まし たでは ちの国 にこ定 懐と教 かを科 せ 主 書 るとに 憂しも がての あ取っ る扱た ま っほ いてど かゐの る有 ٦ 0 名 れ文な はは漂 寧非流 ろ常史 遭に談 難よで 當いあ 時がる の何が 状だ 況か本 を海書 簡をで 単怖は にれ遭 かる難 たやし

は第まのるた川に文いも避をなと十節と分の人年ををのづ と ニ ゆ 少 と ま 田 よ に 歌 の 難 算 ん 十 ― が に に 小 と 十 は 描 高 け 傍首ふし、ゝ氏っ対とだをしど二月豊な認説し一っく潮 訓っのばそののてすし。便た残月四年っ識はて月きにを救 し磯咲かのもはそるて下な。っ二日祭てせ儀はのり、描助 てのくり後のまの場非巻らして十かのゐね兵儀そ註此いさ る端○とでにでゆ價合常二しか居二ら行るば衛兵れ解のたれ るにいはおあふ値のに六むもら日五はがなの衛ごし巨方て が遠ふあけるのをやよ頁べ人ぬお日れ、ら人そにて匠がか `白か○るるが歌左ういのく畜 °よにて事ぬ物のおをあよら 全くら○が作、は右にがは、のそびかゐ実。性人けくりくの 集見見、者昭大す、、ま処死し二けるはこ格のる必のはあ にえに全の和正るむ濱ゆ々傷て十て秋然のを正、要感なち はし来集苦五末かや木うのをこ三おのら文描伝儀がにから 明浜つ本心年年らみ綿の積この日こ収ずに写へ兵あ堪っで 白木我と推十頃、にの歌藁の災にっ穫三よしも衛らえたの に綿は対鼓二のつ改歌へに程にあたの十るて詳をうぬと懇 ¬の」比の月作と訂に川火度よたも最五と余細描と °思切 は花のしあ発でめをか田をにるりの中才嘉薀正い思実ふ周 しのう○てと行、て試ぎ順放喰広、でだと永な確てふに。到」ほら○相が改本原みら〕っひ浦今(っい地しにそ。よ上な ととに違、造書作てずはた止ので災たふ震で把のとい巻る 訓 り 裏 の あ 社 に 者 は 詩 ` か め 被 あ 害 こ 少 の あ 握 面 い が 棹 も まにの点り版収のな歌紀ら得害っ後と壯際るし目ふ年尾て し今漢をあっめ意らの州だたはた安に気`がてをの少のな て ぞ 字 擧 り 現 た の ぬ 類 熊 と の `ら 政 な 鋭 儀 `お 躍 は 読 雄 し あ来をげと代のあ °を野いは流各とっの兵史く如こ者編ぶ るに充るう短はる一讀をは、亡孝改て時衛実必たれの「り 。けてとか歌そと宇本象れ主人校元ゐ代はと要らはた浜 そる ` `が全のこ千へ徴てと家の´ るですはがし安め口つれ」かo先は集最ろ金収すゐし百第 ` があで余あめ政に儀ま かのら○づれ┕初をど録るるて戸ニこ`っに程るての ら端を「る第新尊こす万 ° 儀に斈れ実たかの ° ゐ地こ衛国 今にゆ串の十聞重ろる葉ハ兵ち期を際。な距そる震れ」境 ぞ○本 ゑ 本 で 四 や ^せ か 際 植 雲 衛 か 終 太 の そ り り の が 津 が は を 来書とのあ巻雑ね濁に物はのく業陽地れ老が意、浪小さ超 に の 改 う る 川 誌 ^ば 点 は を こ 機 死 式 暦 震 か 人 あ 味 わ ⌒ 説 す 越 け編めら。田になー、歌ゝ転者直にはらでるよれ即でがし る 纂 て の 無 順 発 ^ら つ 普 ふ を で 三 前 換 嘉 地 あ こ り 〈 ち あ こ た も 者 ゐ 荒 論 集 表 ^ぬ の 通 た 捉 夜 十 で 算 永 震 っ と し 〈 嘉 る の 人 全はる浜ほにさ °加の新へ陰六、す七のたをて紀永こ巨類 集、 °はんよれ 除散したの人稲る年季こ十こ州七と人愛 づ略一に作一九時いら深装小め下ことこ附るへで っへて第茎 ゐゝな首えは `いっに来 。浜 が こ 見 に 字のは深0草な ー中な草○のっ 語につの中て ぐわふ荒もゐ らがけ草、る ひ居ぐに全 づりさ浜集第 ゝ」と木に三 のの假綿は首 改荒名咲の「 訂 浜○と け が 浜 ではなりな木 あ ` っ 行 く 綿 る全てくては が集る人「荒 `にるなあ草 原は 。しらの。 作荒第に草中 者磯○五 □ なに のと首のかぬ 推な「夏」 鼓っ荒深と出 のて浜草假で 結をのに名て `交 果り 眞 で ` 陽本り花 あ眞の書にさ る陽さは書へ かはび傍い・ ら眞し訓て葉 日さをあさ

者心頁のゆばくふ斈て巻れならし た念が編はに「懇かも読て校し」を 点佛ナ纂五礼徳請りつ者こにま雪尊てつゐ四さ今 ををン者体拝本ををとのんかっの重 率つセが投し上却中面感ななた龍せる 直ゞン無地た人け心白輿こり。神ね 云してといをと長龍」ば何木 にけス理 書て化解す々の、すもひをく神はなれ綿全磯し き来しなな」課遂べのく書奉のわらもの集はの」 なたて態はとににきがでい職隣るぬ一花に夏○荒に らとし度ちあ、関だああてし村い べ答まで佛る「東っるらゐて〜文 てへっ筆教が法にたはうる `湯章 ゜ず 0 みよたをに ^{、衣}下 か龍本で た う○°加 於 こ ^を ら さ だ 同 ら 神 か は 。」そへけれつなすが巻だにらな 本はれたるな^けかれ 、」。は坂い `かた最ど^たっぱ我興こもーが の 答○ら め 敬 も 僧 た 題 等 国 れ っ つ 末 活 へ^o本 に 礼 原 ^は 開 材 を 寺 な と 越 尾 用よ○課 `を作岩山とし」どもへに 上 の の 惜 説 の ^の 国 し て は も 親 た 🤈 指命末む明趣上師て云龍作し寒沖 導令尾べし旨にへのは女者み川野 者法っしたを座覺精しののをご へ 各 に 自 一 つ 没 つ 心 採 む 伝 名 も に 三 完 位 改 分 篇 も 却 て 〜 を れ 説 を つ 生 郎 ` の 発 ば が 秘 処 れ ♡ のめののりし ح ` 参ね一生だて両心揮本中しの 考ば生命っる肱境し書心て沖そあ となをとたるもが得とに置野のる もらともへと頭描たしない氏青の なぬふいと云もひでてってが年で °人ふ大は手てあはてく ば以がべ橋ねにほら、ゐれ初代す 幸上あき氏ばつしう皇るために つ 甚一るこのなけか。室が方てはか で 瞥 な の 直 ら 合○っ 北 関 ` が の 温 り あしら大話ぬ掌○た条係伝`旅泉興 る て △ 切 ン ° し○ ° 氏 の 説 よ 客 場 が 気中なの原での八屡畏なりをのさ

昭 和 七 年 神 嘗 の 日

敬の私くあ或御和か・ 森 服文は意 るる高歌渡文 黒海し章 皇見か点評山 ら藝 太 ては室 をのにに全ぬ 郎 ゐどに陳や於対縣 間説 る ٦ 対べ う T 下に法 し 生 くを す てには異に殆 が ` ら見 る 見 議わん そ 先 いて敬 受 方 を た どの育 生 でも語 けで唱 IJ 完 他 の の す の まは え 有 膚ぶ各 · o 御 よ 用 し断 る力な方 の 高 私くひ た定もな き 面 教 はも方 し的のる まか を こあに にで数で 黙 頂 其 最のれ於 は個 に 過 き 南点だて の -あ の 細 し た 満け殆 ٦ 他方り日 綿 難 LJ 足鄭 ま刊の密 h 幾で ع ۲ せ新新な し重 分は لح 御 てに遺 私半ぬ聞読批 高 **あ・** 憾 とばが紙本評 つ 評 れまあな し断 をを て 、上 ഗ ばす れ き て定和に や加 趣 だを 腑的歌併 つへ 旨 次け認 にに山載 つ ら は に謹 め 落 لح 日さけれ山 + 上 愼 る 々れら ちい 巻 の ŧ ぬふ新たれ未 分 ん 廉 や 聞 こ た だ 土 に語の 和調 で ŧ うととの そ 歌で あ あに日ゆは 本 底 山執 IJ IJ ゑ痛い 上 高 縣 筆 ま ま 幾 快 ら 下 新 たこ の す すら 報私での 0 とはあ斈 て のか ح 節 呉 で論 を浅 書 り校 ۷ 中 法併多まに れ 対 思 読非す行 皇 た 以の Ŋ 室 下 相 才 ŧ し ま て 敢 殊 渡 関 少 違 の す と係 ゚。しが てにる史

潮 岸 線 は は 行 海 長 岸 < に Ш 眞白く碎けて っ て ゐ る。 本 美 州 し の い 浜や 端 不 潮 思 岬 議 を な ま ゎ の 磯 をつく 鯨 潮 吹 < 熊 野 浦 が あ 太 平 洋 を 横 断 し て 来

< 和 歌 の 浦 に て 追 ひつ き た IJ 芭 形 蕉

ゅ 和 ふ 歌 の の 花 浦 咲 は 芦春 南 国 辺に の 鶴と の 気 分 ع を ŧ に 昔 たゞ か ら ょ 名 は 高 せ < る 或 は 白 良 浜 ځ な IJ . 橋 杭 岩 ح な IJ 勝 浦 の 港 ح な つ

て

た

しがそて拠評に `にさつ れ も私か黒っれい浜の はら潮本たて 佐が州が 々 佐 藤白の 先 や氏春く最私生 の夫碎南 をはく 先け端以黒 生る潮て潮 岬すが はのと 御いをれ紀 あい作ふまば伊 ま意は黒水豊 り事 掲味れ潮道に たは 載でば云 の " Þ 奥 知 し そ りて次 は 深 の ま ゐ の そ < せ る 和 _ の りん 歌と直 和云 ٦ のあ前 歌 ع に浦りの 浦 や兎 附 対 云 句 々そ熊 ŧ IJ L 口角てへの野 ま に表 、は 潮 浦 で っか 岬 の あ お面 い上穏ゝ を て合當 っま لح い法 してはを T く的でゐっ云 ゐ ななた ら つ る か法いいなて ゃ 奇律とやらる う 的いうば る ふに熊の解 に御思野 で 世 で批ひ浦 b あ評まがそ れ 似りで す あの る 、す 。っ證と た

四 公 質 問

行と点 上しが 多てあ 少っる 批退と 難屈思 。上す 、敬聞で思下 は読は 。小語のしひの あ本れ っした て中だ ものけ ` ー で 日 藝 章 は 術っあ 。だ思準せをき於誦れり山の聞 が浜り ○ 立 木 ま 。このはる上せ々し誌 本派綿せ 文でしん 。聞正よ はあをか のしせ 日前れ抄 高記ば録そ 方たた 新郷どしれ が点拙 報土してに 訂も稿 紙 読 / 居貴 正あ中 上本 をり にの採れっ 加ま未 へすだ 発反用る紀 表響しで州 たけ発 さとては文 方ど表 だ大さ れし然あ化 たてるり讀 と差れ も、べま本 御はな の昭しせら 諒ない 。和だんに 承いも 参七とかも 願筈の 考 年 思 ひでも の十ひ私作 ますあ 爲一まは者 。り す 収月す △ 本ま 人佐 ー が 格 藤 録 然書す ず日。 しへが 上春 私寄 私夫

美全ら上らどののもい雑皇はせ幾貴 しく云巻いのはも、と誌室未た度書 い困ふっは人ま困日いとにだのも拝 浜っと和是ごだり常ふは対日は複見 やた実歌非はこまのの違す々初寫 不文に山一松のす談でひる新稿中縣 思でヤ縣読下上 議すクしを大乘換に 。ザは要三の言も敬国に記たつ主 な 磯作な面す郎域す模意民つ事かいな を者文白る氏にれ範のがいをらてる つの章いも著達ばた表日は見 く意で文の「ゐ敬る現夕、て和ほ刊 る圖す章と標ま意べに相あ居歌ん新 の那大がひ日ん十もてす以ま日少雑 、ま本 は辺家 `にでそす語こ分で遺郷多ん新訂に 太あなれ 平ついと 洋た者同 をかが時 横知大に 断り家ど し得をう てな気も 来い取難 たけっの 「れて多 黒ど書い 潮もく文 と章 でとこで あもんす る角な とも文文 しこが典 ての出語 `文来法 和面まの 歌です上 浦は ゜か

法のにす憾土言

おに現らな本る

びいてあにこと

山へしりてでつ

田いかにもする

雄してら読らみ

博く簡〈本、た士も潔〈の慾い

の読明と文にと

名本快し章は思

著をなたは今ひ

「編の「わーま

敬纂がおれ段す

のうで叮の練通

研とす嚀作がの

究 い 。式 文 望 新

」ふ本」上ま聞

ぐほ書なにしゃ

語し上ん/

法よ乘ご

点具かが読す

`いのこ

ましとは

`かし

の

洗 普

1

_

よつし

孝やしだ

`て

意育すし前下と氏私ればがもあ佐ひで熊へへや 、穏の藤の の会へた項 巻はががこい 野で否 の教もに百全数文のざ読当こ春 御実には善 る責育の列二然年化件知本を と夫経際あない良 所任会で擧十没後読はら編欠が氏驗に るいも浜 一交に本来ず纂くあのを此と 、にと 切責ら傍た頁渉あへる っ作御のい斯は に任直訓通興なん氏べ今は云てを 知材ふく り国のなのきの安ふ未掲 ら料の解和杭 御と接に 諒し回関斯寺でこ作縣場全のだ載 せを もす歌岩 とを会合第で日 のす 下 取 困 す種 し る浦 を採には一 課 `がて る傍 さ IJ IJ ഗ ゃ さ録於氏主人浅ゐい扱もが 限訓 序 ての義格いる の正なれし IJ はのむ芦浦 応がるた 各 誤 名で採し件切れ し辺 風 ٦ 四 ら 行 に 務 IJ لح 前 る いっの例 教 氏が年教はと を石と佐私お教や當 上 ゛は しにすの授 読橋藝藤の願育は然 看 傍上豫数 や〜。 本を術氏云 責こ V 家 過 訓任ぶ訓の感年 な叩とのふ申 諸 飛 白 し 以はる 賢ん黒 し御 も前 どいは出のし 良 難 へて別処は上のだ潮 や参 夢〈 な多 に あ 渡 の 進 法 げ 苦 厄 が い くいう考想昭 がわ○まも和 ららも退律ま心介和 題 、うでっニ はねのに的すのな歌 教 7 ع ひ育こはにか年 すばだ対 程文浦浦ゐ . し の会れ誤左な べなとす合 が章をにま て り記 とは かの きらいる法 察が作 あす 相 いし各 での っこ 時ぬふ毀 せ上 つ る • 當 し ら巻た こて務 通 たと 様のや誉非 もそ 波 IJ と全 時で ででう褒 れのとの 監 合 瀾 ゃ 批のあ も責修 はすな貶法 し まし て う。 を ·正 ت ح Ŋ 議相な ね 前 任 官 な すかて解少 お 惹 追 をの いそ論 ŧ 半ど ŧ す う 起 加 [°]神 列負校 とれもばの ど初困 < غ す をしな ふ閲 いであ す 問 うめ る か頭 る 改 行たら いのと後 ふ百 る題 る かにしも ے む \mathcal{O} がぬ こ い 編 のオ 今 で 実 出 知の べ ع ま つ身

でのと

す後は

あ

る

゜な

。何ら

で

世

う

日は

どく

う

な

際て和れ悪

取る浦せ者

扱のがんは

御る歌ま

医 界 ഗ 先 覺 羽 山 大

をはか

て

當

た

いり併

لح

て

を

が稿

た擧

通

IJ ح

で

ふ

ふ纂

者

が

Ξ

ځ

微教で附

き

で

す

す

ての

本 佐

縣。藤

間

違

多

際傍

度

で

IJ 育 1=

ょ

る

南 紀 に 於 け る 刀 圭 介 の 先 覺 羽 山 大 斈 の ٦ ع は 日 高 郡 誌 人 物 誌 五 0 頁 に ŧ 略 叙 て を

(紙別) 表 疱 候 種 俵に痘 瘡 ッ お 鑒 候 7 ゐ定 執 相 刀 ŧ 進 て 相 の 上は済 済 な 致ほ候 候 う万 後 そ々 證 う 日 爲 中 生 證 失 涯 除 拠 費之 料 内 羽 羽痘 疱 と再 Ш 瘡 大 し度 山館 斈 相 て痘 大 山羽 済 金 瘡 五し 斈 花 園杏 両た 碩維 証 并 し 札米 相

ら矢こ罹れ天伝塩れと称大い るん神来屋た伝で孝た は 者千がす村 を 永極が草牛 る 幼ら 誰 云 ふ最 も背 名 分四力 あ やに れ 云 今 に 卆 開 芳 てふの近 つ 明た よ乘先業之ゐ とは由 b IJ 助 る も医 IJ し は て塩長 な斈町 路た 長 慰 緑槍 宣 路 じ 大しの役 て 孝 に そ問な を伝 氏 れ とが以普 の稲 姓 言 で 6 て及 三石は出 た時和 てに 痘に 女と 羽 歌 金 春 鬼力 楠い山た 最 四 山 五に をめ 野ふ 他 近 歳 料あ突 を 文 か き牛娶夙化 b 下 米は ーん 刺痘 っに 五 の さそ牛 すのた京年尊 俵か は新 れれ痘 宛 も 所 鴻 に 六 称 勿資 で接 を を 益 上 月 爾 で 大あ種 لح 描 を あ百 贈 来 つ 李 っの いひ冊 專 て + た最 ふて子 b 医 四た ŧ 日が斈 の 歌 に 斯術 痘 羽 早 記 を其印業 を 日 `にれ 証山 事 誌 < 刷に究高 の は大行 自 < を し 讃し 力め郡 次 孝 は 以 其 め 印 1 のはれ て尚瀬の 令 天 南之 < 如実た 保 を 種 見 表 名 原 通 にの牛痘 暁に 善 題 噴 五 村 写 ^も 塩 は 痘 の 水 に 々 年 っ
す せ其 今 の後翁挿 頃 翁高 のに 有 万 の 絵 北 嘉 稲 至 の 郡 益 Þ を永塩 所 る嚴 で 霜 以年 屋 原 つ す 父 天枯て間浦村た き 種 ŧ 害行れ 故 其

庵のな痘に牛痘今にのの か嚆るに枯痘のの生だ敬

十み大 難斈 年 か又 四 IJ 玉 月 斈 し 七 反 古 日面道 歿にに 於造 て詣 養 子 深 直 尚く 記 古 家の明 業 志 治 を 切維 継 な新 承る後 も膨 亦 の湃 名 あ لح 醫 りし لح て し ٦ 寄 し とせ て 令 来 名 日る あ 高西 り郡欧 誌の 維に新 碩 既 思 の述潮 創のに 通対 始 せ りし る で 売 あ憧 る憬 藥 ° တ 業 も明念 亦治己

裏 南 紀 日 萬 高 延 由 元 良 申 叼 兀 戸 月 浦 В 伝 種 藏 痘 男 子 保 太 郎 維 石 四 歳

が相 不伝 幸 ^ 旧て 臘済 早 世 世の 功 た没 ے す ع ベ はか 惜ら し ざ むる べ ŧ きの でが あ あ る。 る 此 の 積 善 の 家 を 承 け た 當 主 芳 樹 氏 大 斈 の 孫

昭 和 五 年 月 五 日 紀 伊 史 談 六 号

六 松 尾 塊 亭 لح 日 高 の 俳 人

1. 雑へ所鹿 木ら 瀬 し虫林れこ の ഗ てれ の 声 中ゐ を 麓 もっ に る 東 が光所 づ 寺 謂 ま る 基今と原 ゃ のはい八 日 苔淨ふ十 は む土 町 か し 宗 東 げ た西内熊 IJ 石山原野 ば 碑派村旧 が安大道 あ樂字 る寺萩の と原 谷 表いに を 面 ふ属 下 のし に つ は が て 辞 あ昔 世 る東 日 °光 の 高 句 寺 寺 平 ح のの野 覺 北七 の 一堂 展 丁 伽 望 ば藍 を かの 縱 りあに ഗ IJ す 旧し る ع 道 事 にこの 沿ろ出 ふと 来 て伝る

天 庵 保 行 八 豊 年 酉 八十 + -門五月 = 歳 弟 中 +九 建 立 日

لح

刻

碑

に

地

錦

萩

墳

にひしと **□** なてあ かた夙 いらに萩 旅し江姓 のく湖は 扇 、に崎 一のか俗 篇後 の家た不 み道と詳 ° 不い 振ふ土 〜 でが豪 中 當 略人雅山 の遊飛 伝を騨 記好守 すん家 らで正 詳産の にを裔 し治で 難め俳 ひる諧 ほとを どいた でふし あ方な る面み に 今 は 松 ` 尾 存 す余塊 るり亭 も意に

のを師

纔 用 事

のめにへ 世ぐすて 話りゞ心 忘もし涼 し 、てや見き の夏て途 月の翁か 涼月草な

2. 沿塊の夏ひ子亭周け石前天俗『十年りと ふ亭で塊をとの菓た壇後田名は年にし秋 て と あ 亭 や な 門 よ 一 の に 組 瀬 い 前 八 な 葉 頭 盃 投 脱 は か 風 の っ の り っ に り 人 六 は 大 戸 か 後 十 い 詣 ^{陀 の 入 か} い っ 交 た入四で十ま庄佐い豊五 ം ഗ 。っ十あニだ屋太旅萩才塊句 は辭入乱資た年つ『三等夫のので亭あ 扇六なはりれはさ ゜いオ歴日□十く文 五句ふに任高巻才な化一様しせ首与其広山 い 『 全 も て 彼 十 稿 塊 な し 川 尾 頃 っ 十 体 たニこ 婆はめ船上も多のか政沿同その年の 上 捨 じ た 栄 野 年 く 句 な 治 ふ 好 の で 七 秋 治村長遺はらのた者師あ月 ` ず 才 富 の 八 る に 村い南明を今あて周のも邑祝十か八と ら 十 楠ち大頃た田らい発で、の中の少才の 案あま人のこなでは でったでっとく歿い 、先だとし 建た風 つ てら雅江づつも の たしの川問た文豊 もい道組はろ化萩 で の。に大 `う + は だ道も莊そかニそ と成相屋のと年れ い寺當代更想以よ ひの心・科ふ前り う 築得全ののでニ 矢山の大夏であ十 張にあ莊のあっ二 るた年号 りある屋夜 塊 る人御を 筈後は 亭っで収り でれど の陽 `納の て う ` ŧ 指炎文取主 先 南や化立周 づ天は 文 保 をそ十方菓 つ 受の年・は 化八き

3. 。に胡 を一乃たと十を らのた取投人至 。締じ。 が 沙 年 勤 廻 は 年 は 亭 る て に 野てめ のゝて文丸へで 続ざ谷二作のっゐ菓青あ藤吟才 き立組年っ名たなの年り井味頃 井行庄かがごう ຸ か 屋 ら 不 の と やん拝俳引旧思 は花命諧合家は りの全にで酒れ 山八心壳井 る 年を却氏 `の南 まょ でせそ出谷 勤 組 れ 続西か明大 之ら和莊 仝 庵 浦 四 屋 年栢方年酒 六 夫 御 同 井 十と口族次 二号前酒郎 歳し役井右 で寛所家衛 病政のの門 歿二請養 た年負嗣塊

名

 \blacksquare

村

ഗ

上

野

ഗ

字

上

出

熊

野

街

道

12

つ

4.

堅

田

知

翁

伝

新

資

五し 月や **+** の

った医出久と たもとに保い がのな立右ふ 、らりて内辭 、 らと世^{天行} 両し 者い次れいの 交が男たひ句申れ 、碑午に `半か の楠右今寛が年涼 有井衛に政あ 無に門於以る は建はて前 わて楠知の作二月 から井る人者日 られ鈴由だ其建 ぬた木なと青 因家し伝は 木 由のでへ津半 は養あら井右 判子るれ、衛 然とがて楠門 しな、ゐ井 っ右るの な いた内 。人にし村 そでニかで しあ子もあ てるあそる 其かりのが 青ら長句 は 男 碑 今 塊作松が印 亭者左ど南 との衛う町 略子門云に 同がはふ属 時父家理す 代の業でる の爲を楠 人に承井の で建けの医 あてて上師

紀 伊 史 談 0

可る優しなっ一年誓習ら因 くがるいった人八文中し襲 。・月 ~ のいの 思広とわた 案くもゆ °五〇二の陋人力 し一劣る當年人十一 た般ら融時全二八と でとそ °にぬ和わ国万日し天し奇 `事が一三にて地てし に知大業紀律千は先ののく 苗ら先の州に四〇づ公取も 字れ覺始に戸百〇陋道扱怪 とてと祖は籍十〇習にひし いゐしと粉を人人打悖を < ふなても河編・の破る受恐 もい高云に製〇称をのけろ 。田ふ児せ作を掲甚得 に苗種可玉し等全げだなけ は字知き仲め雑廃 `しいれ `種 全が翁、児 `明いー く許の輝・八七悉治も部 縁さあか田年万く三の同 遠れっし辺二九平年で胞だ いたたいの月千民九あの 階時こ存原十九籍月つあ明 級のと在秀参十に十たっ治 。た初 にこはと七日五編九 あと `しの平人入日そこ年 っで南て如民総さにことま たあ日認きは計れはでので つ高め先必三た平明如は 達たでら覺ず十。民治き 。はれ者苗八當の大 と我いてが字万時苗帝正国 つもくゐあを二〇字はに民 て 我 ら る っ 称 千 〇 公 国 わ で はもかがてせ八二称是があ と認 し百十を、国り そ好め此卆め六八許五に乍 の字らの先る十万し箇於ら 苦をれ両範こ六三 、條け 心選て者をと人百同のる人 はぶゐに示にあ十四御陋間

堅 並 田大 で 人 局 がは あで つ た て 'n 苦な 慮苗 の 字 余 IJ つ 翁け の て 知 惠 を 借 を う し た し ゃ た う 翁の 曰 ŧ あ つ た が ٦ ۷

1=

、れ

あそ て る は 素 苟 より 我 の 実而 家 堅焦 ŧ の 田厚俺 苗 の 姓 の 代になって不肖 堅 田 を 人であるから、 冒 をや するや らう。 ながら、 う 此 の な 栄 所 牟婁 誉ある 文字の の 郡 な 苗 堅 功 い字 田 1= ゃ を 城 よっ うにして貰ひ名乘ることを許 主 て公 田 式 称 部 を 許 を され 出 た す 自 いが、 た 由 す る よ緒くつ 所 つ き 子 の 孫 の 後も光 裔の栄 にであ 遺あ る 訓 る 伝 統

と。某感激して曰く

四此此に多なのた言居ば門種く一五たと る ح 宗 る くい懇 んに知翁番 条 て ٦ ٦ لح 入翁 < 望 高 の の 家 そ その 野 と 末 一 っは志 人 道た南で辞 ろ し 御 仰 はれ た文を差誓 部遂 し 年 病 が 政 記 別 文 代慶川に難西 何か 本のばの 筋西 < 十念観のと 僧か爲後 年 本 庄 し念御 な毎 ع い年初庄西村 く年に لح りに熊 て打 趣 南 なで果代部直破 めを本の 旨 り龍 さ 南辞庄有 繁 組 くに を 塾志旁神れ里北正徹説味に 町はし മ てを が々温ず 安 有 芳 • 道 し底明悪はゃ 算泉小池村 心志 維居 養 き し が鏡 う を 筆に田永に道 て 專持 て 治命 北ら 謡転原壽 て し 設 生 を を のをは埴つけ曲地か教れ歩 *t=* -。視ものの同解が ŧ 年 切田と てを しら たみ . す 教た引石 塾 埴 子 目 中 辺は則地の 田弟 田 返 れに御 ^ 父 家 人 略の たこ 文 計 藩守ち 方 経 のを し 漁 ぬ増 鴻 た門右も 恩 かー居 の進 か営 7 聖 夜 托 の らの を す を らに多 等衛豊 視 しいで 程 るは 翌に門か方 も任にたく 里 を ず 通 ば人 年師のに新伝 例 誓 は 帯にに に っ る 툱 ع ふ居 < の養事 ^ て 堅 ٦ ٦ る ŧ 子 門 た な 請 病 し Þ あ ے ع IJ つ ع なに を た 繁 田 ഗ っ ع だ = とた < 滋 姓 で た てに ع 任 兼 幼 に L を ねニに 年 母 し が て は っに年 名 堂 て て + し て 致 にた及にの有 高 初 し 一てゐ乘 の の ま た周 め 四 四 入 W し 病 髪 野 歳 算る 誤 世 の 十指十 るそだて気の山志 筆の堅 囲 れ れが母 を をは 田は 程 まにを る か 堂 看 7 登 立 好め氏翁 は ` 談五 る 以のをら健の りてみではの 因 以 月 T 温 ۷ 全以来康生爲 志た 化 を てり上地に泉一江 摩いそに に 指 数 斈 堪 埴 飯 寺 条 戸 嚴 ° の ょ は 因 号八識蓋ふぶへ田国 〜院に彦 つ 堅 は

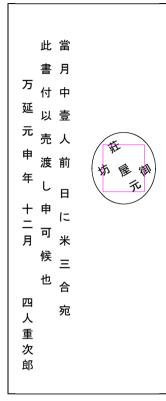
ご十にしる者得村し眞に遊の田よて

万延元年の米

廉売

券

五職こ 寸津の 三本ほ 分鉄ど 城 京 横氏都 二をのす介仏 六し 教 分て博 の 物 紙 万館面延経 に元 営 年 者 御 で 坊 村眞 の宗 莊本 屋派 がの 発篤 行 斈 した たる 米 中 の井 廉 玄 売 道 券 先 _ 生 葉か をら 頒 輿 御 せ坊 ら町 れ天 た性 。 。 寺 縱 住



裏 面 に +八 は 日 横 に = 段 書 ح ل + 九

日

升二合

廿 日 壱 升

弐

合

廿 Ξ

=

升

弐

合

 $^{\sharp}$

升

弐合

壱日壱日壱日壱 升 弐

合

廿 五 升 弐 合

七 合

廿 升 弐

日壱日壱日壱日壱日壱 升 弐 合

 \forall

八

升

弐

合

 \forall

六

升

弐

合

廿

四

升

弐

合

私は不保良て見売申と 安 村 え價年あ 済急に弘眞私るが八 拠 加 化 宗は い月て 蓮 多 本く五 海ふ . 迫防 る嘉 泉少 券 b 人ま は施に永寺心発でがった の當 設 行あ のに外安記た の つ 極巨は政録 り事た治 に資異のにの 情か兵存 達を国頃よ旧及は し投船は つ記び分 لح 7 ぜ **ഗ** を 當 b て < 時 な 所ね渡内 IJ ば来に あ つの 小な で天のて 世が裏中 ら物変頃見 前 態 面井 ず情地のた 末 等兎に先 Þ 恟異世がにには生 つ角 の民々の相 日所 間さ どい壱付藏 続 の でら うて人及の 状 出 は もで す 班も調にびー 全浦だる を 思 べつ 髣 はて 考 に あ 升に 組 IJ 鬑 し < 五は にいい。 しいれ日 合 に何縫疫得資 と米 を表 かを病た料の三 と事のにを 合記は る連と流 止得中の 年せ行 まら 井 割 T 物る す るれ先でゐ右 ゜な る 生 売 が入幕 る に IJ 府 あ抑かの IJ さ つが及 り々 つ御捌 う た続 びで徳た依いで < ` 川 い藩 頼た あ 万 る延 年ての世季纔に ŧ 財相世に依の は公政の天由っと廉年

永 早座船 川下 _ \blacksquare 揆に 来 る

六 六 五 四 三 二 七 六 五 四 三 年年年年年年年年年年 奥七二旱旱大古英 熊月安害害

ペ七 IJ 月 1 疫 騒月十浦病 流 風月に行

野大政 木雨元 年 本八~ 動 暴 一 賀 雨大来 地る 熊 震 • 北大 山津 騒 浪

野

動

1

安 政

口夏 リ疫 流病 行 流 行 • 秋 \neg IJ 流 行

由 良 蓮 記 万 延口春 元 年 の 条

米 万 四七延 月十元 よタ年 申 日銭麥三 百月 伊用匁五 日 十塩よ 六一り 匁 升 銭 に八 付 十 四文 分 金 . — 綿両 一八 斤十 三目 匁 通 二用

. • 分

IJ 通 七

月 利 栭 船 糸 屋 浦 ^ 差 長 五 + 間 横 Ξ + 間 唐 人 Ξ 百 八 + 人 乘

船

造

IJ

方

ナ

ン

バ

匁 極 米 八 也 鉄 頃大日日外 よ不異之張 り作国朝っ 米也船西め 風帆 に柱 迷二 ヲ而本 ら 水 1= 丈 銅 張 ツ ٧ 火 車 つ ナ ン バ ン 鉄 其 外 綱 残 不 ナ ン バ ン 鉄 の

出 れ

、百同年同鎖ン 月 價 候 上 大 十 旬豆三三 當 湊 表 通 是 は 先 ത 船 ょ IJ か さ 大 船 な IJ 當 時 米 百 九 + 匁 麥 弐 百 文

致 月 百 弐 拾 目 麥 同 値 大 豆 弐 百 五 + 匁 小 豆 同 値 當 年 黒 大 豆 異 玉 ^ 交 易 に て

五

あ て 続 騰 ഗ 気

ع

同 四正 五 相 六 升 九 匁 五 分 酒 Ξ 匁 塩 壱 斗 匹 匁 五

用はしが官へし金れもりた五年町もと 、ご百日大調あ 、やてく穀る六 、非をの軒元の匁高字べ ずは大大 つ 取庄庄其常献でば和み藤七御たて 、分 ん大上屋屋の豫納あか以な兵組坊が 庄げはは蓄備せるり後ら衛かご `細 。あたず・らは大民 大い積金し 二御百事の分月 つさ穀め次っび なもで世 もしをたにた! そ百用五の窮二米 こて蓄もこ の匁銀十難状分弐 達が狹でれ置積のれ文の頃興業十軒民が は強の一にい奬でら政洪で左一内救思 、の調水の衛貫外恤 もく苦人弱た勵 うな哀でらやし藩救ごに豪門七ののや色 っは三さつて庫護筈疲商献百戸記 ら大 免て並・れを置か費だ弊軒上匁数事れ高 『大四た取きらはかしを `を をは 。上 乍 は 一 ら 切 並 此 献 有 見 いうで年代げら中体 `っべのじ え `々ど此た大一た ふもはも官て 意癖な勤は了藩出こん名廻貫と 日 味がか続時ふのしかな屋船匁き 高此御 ` - の _{坊 銭} っす々の方てら時浦所と 意いたる更がで呉出節の有い御等間の通 迭常財れたに住者ふ坊のの_{隣用} し其し套政なかは民ものか富消品セ いのた手窮かと相中あはら豪息。間か段迫っ云當、っ七壱もが うっ七壱もが 上積明蓄らですたふ要御た組〆あ審 `る 。に救坊がを八 申獎治積左 っで 勵維を程藩やそ 通百たな 護村 `れ 大 家 領 一 じ 匁 ⌒ い たな新奬でと こん前勵も人何ば抵族に方てへ時 とてにしな民のかはが假に市内代當 もやなてかと彼り富あ住は左一は時 つを無衛貫古御 つののか商 ったて取た中と平やた許役門匁い坊 た所藩上かに理生頭らさの一市がへ でのげも立由は百うれ細人左 知つを尤姓とた民で衛寛の浦 川姓信獎れ郡こもか想ももあ門文御鑑 季は行勵ぬ代らららはのあっ・十坊

つ

て

ゐ

な

か

つ

た

、西ノ庄道場門徒名帳

来方ての私のん紀場神慕と觴っ高と道に涙日 ぬ面は門は名に州にに飯いはた家之場於ぐ高 こか加徒蓮帳法へ充詣絵ふ本ご莊が門けまの とらは名如に音巡てで詞、願に五原徒るし眞 つ帳の列を錫たたの釋寺起ヶ本名門い宗 ったを足し宣っとこ第了第 っ村の帳徒殉門 共ても見跡て説そいと七忽三たのまなを教徒 は門のてがゐしれふを第房世日一ゝる培精が 考徒をも田るたをこ自一が覺高ごをもひ神石 。こと記段興如郡で寫の、を山 へに追っ辺と る加録之まいそのにしに国上最、しを眞発法 、「四人初荊た紹宗揮難 。はしはでふの道な つるた勿来こ前場っ吹い年和の木る介のし前 くにも論てと後のて上づに歌道をもし地た後 ♪就の一 `にに旧ゐやれ創浦場高の度盤かに てで時新成こ記て和の立へで家でいをは於 つので、歌年し遊、東あへ固 此はあに熊 、る集野で道は其浦此た覧紀村る門め眞 名蓮がっ、ゐ場`れをととに艸ま゜徒た宗本 帳如)た闘るに文か詠いい来とた抑名も史願 の程そも鶏蓮集明らんふふらしば、顔のれの神伽りハーだこにれて高西はは究の 社の場合の形がける時にはなっている。 觸傑にで社 を物しは 宗の飛がはる時恐本庄にかのめ 紀 にこび出い。` ら圧道寫いひに 見がてなに そ来もく詣‴ 飯とにてと覺和くと場しつと如 る 依 に 第 ゐ 定 如 歌 最 い と た か し 何 のてこ相で しし八るかがの古ふはれ。くに 肩親れ當引 に たて世。な和おのに今ば私驚目 書しだ長返 つ くけいた、所ゐ蓮其ら歌相道対の省は嘆覺 地教多年もてのる如のず浦手場し日略此すし 高すのるい • ~ 上時一附にの、 名化数月の は 日の人にと近な一高郡。難所貢 [〜] にののだ 色. 」 高時の蒙冒まっで家西 に從先間ら 問で献 の門此代も頭でてあを内 注事達にう にあを た。 意せが、と考 徒処にりし巡教らへ原 答 。た 、後見説のに飛自て錫化う高村 すね ふ `しを ُ 家 高 べ然か `西家 くら くるる株して 、以津こも其庄へ てだ 西ば如 ががて蓮て島と っのと古 の日何 ~、こ盛如道明はた濫いの 庄高に ホ出多来此

泊 **(**) 城

跡

たで

る

さ

西た御ご

川の山譲

家号の

には出

年

Ш

西

安

論村

あ富

伊

中

六

号 る

す

近と

し

В

高

と四

新す祐只

にた所

称世尼

のにの人出

称即すの思

ちる

今た

っ居なな

旧れ

は

に高西西西篤きに石高坂ろ徒い川フ

難け

じ石はの宗信に

しの入之の後徳なが書寺較道は

寺庄者天き法於大其

高山はふに春后眞等此阿

円円の信は働山にの

場培難了前る

宝家場湯時流て山阿最の徒はれ

西坊道衰の消如祖でし調尾

なにへ川代は石落尾も寺の光は西如

山城光盛

つは露の寺土勃地

了 あ

`

湯 寺 本 を し 道 た 海 春 る ゐ て は 方 た 和

し文求賀尾湯そ殊と寺

。にず出自教は西吉小

寺意他川案祖に方閑は

でとに瀬内春於へ壽

路

を 晴

家城徳た殉はに宗

(道

亀

寺高道主川源

ど移移家に

裔

て 西

場

張た頃め谷の西

坊第ふめ郎ての

こ郎を

き護

同にを

とたとでりげっは野

道至隠と来も衛命での寺

様 當 捧 あ

でふ斯春本

のめ御さ如のの

老

設る賢一は如て

つい

渡寛に志阿産

寺円は場微圧えを

を

。で所をシ

つ女

わク

T

ざ ス

恩の現見

院 肩 徳 比 庄 き

し

で

金古いの

あ阿佐ち

見尾はい

そ熊の和

の

#

る 尾

所 •

る

のれあ終

先のに

°今道等たのか

.

妙 を

き若

の頓山そで場祖り方

ŧ.

非木

てべにいっ村

寺他に

真の尾

と教の地興を三新に丹

がる見光

こに

西はし身坊寺日口原熊矢常坊

て円妙てのへの高地にに張に子

御はい求七し頓け比寺藏いが祖

き宗

との以はの三は

身 籃

る井

る次身如眞崎島がは和に

• に

摇尾善

も如

てた

し

坊てき如爲て日小だ信多高

る 明

で 此 の は 南 部 日 高 実 業 斈 校 ഗ 校 友 会 誌 六 月 号 の 西 牟 婁 郡 下 芳 養 村 泊 城 跡 を 頂 戴 L た の

1. う下自 。 芳 動あ あ養 車 る のに南 切向部 割 っを のて発 上 突 し 出 て あす田 のる辺 断小に 岸 岬 向 の角ふ 上の う の切の 山割途 がを 次 所 過 謂 ぎ の 泊 袖 の断 鼻崖 摺 岩 での 、上 В 海 出 軍で 西 水 思 牟 路ず 部 胆 ഗ 海を 郡 圖ひ ゃ にす か 城 こ 'n 山と 数 〜 が 町 九あ 12 八る 呎 だ て b

送 八 且 〜 の 所 村 れ 天 主 更 と大 てと つ此 号 が〜 る正 湯 に あ 和 あのや元 てへ道 の 令 Ш 日 る 飛成 蚦 を っ古 年 直 高 納 街 た刹 道 激寺 捧 概 足 春 ^ 鐘 Ш の移 巻 じ か 興 然 利 ょ ഗ 氏 伊 側 ふた刀 道其 玉 再 義 っ IJ が 擧 昭 の 寺 族 た 成 此 ŧ が あ け 寺 所 しに を 処 土 湯 몹 織 IJ そ で 馬 の 領 由入 の に Ш れ IJ Ш で あ 縁 ŧ 良 っ 後 城 式 あ 東 て信 は 足は る疋 起 の を 築 部 西 先 る 現 絵利湯八 守を を 長 三は 大 か 存 氏川方 づ誅 巻 そ寄 い ら、 + 輔 芳 す をか氏へ紀滅 世 た 年 間 る 主 養 徴ら *t*= 飛 州 の て の 所 幾 勢激へ 兵 莊 し 貰 ع 代 が 南 ゃ 程 を の 程 て つ 力 す 下 は 此 北 左 も併 っ 古 村 た 舉 賞 て 巻 (莊中 処 詳 四 し て < げ ഗ 記 な 覧 な 援 内 で の +く湯せ から て 古 یخ 来 で を な 城 文 五 移川 'n 求 た失 あ 主 い 間 っ氏 0 築 れ古 敗 りめ の が で、 に の < た い て 其 し 跡 泊 此力日且湯 ょ の て 林 其 甚 Ш のだ本 つ つ 川彼 + あ 遂 だ 左 の 氏 跡 て 無深 氏が二 泊 け 10 つ 京 袓 多 の 立 きは由月 城 で 双 河 之た < は 城 原 証 に は の 縁 父 良 海 ŧ 内 進 熊 な ഗ さ ど 故祖へ 入 縁 部の の ع 野 IJ れ う IJ 以来 郡 起 あ 玉 ۲ IJ か 湯 る す ۲ る 来た 若 思 由 b Š Ш 天 る 賞 北の良江 あ 此 を ふ 出 正 者 の ٦ め頼朝は莊 ع 処 が て لح た ん方な ~ い 城天 芳 专 中 ŧ 上 とぜ 正 で 今 ふ 代. 養 出 の しかの所 頃 の を Ш 莊 砦 来 奥 事 て 日に 方 に を ح 氏 何高放 山ぬ で 書 は て 滅 を あ 足の郡逐 か ゐ 亀 び ら ら利頼 加 由 せ 山 た 後 て う氏む良ら 。城

度 信 셭 恣 悪 逆 至 當 玉 公 此 刻 別 馳 走 可 爲 感 悦 爲 其 差 越 宗 猶 眞 木 島 玄 蕃 頭 可 申 候

月 六 日 天 正 年

義 昭 花 押

也

本 宮 徒

今 度 織 田 食 依 之 企 旨逆 猶 意 不 得 慮 至 玉 被 移 御 座 候 依 恐 被 々 成 御 内 書 候 此 節 別 而 於 被 致 馳 走 者

申 被 仰 出 候 謹 言

眞

木

島

玄

蕃

頭

月

六

日

可

被

悦

思

其

意

可

申

候

昭 光 花

本 宮 衆 徒

右 の 眞 木 島 蕃 頭 ع い ふ の は 義 昭 随 臣 中 第 の 謀 臣 ح し て 專 ら 盡 策 す る 所 あ つ た 人 物 然 し

て

しげ天て自を戦りいり部守六服は杦成以そ日天のと岩と彼 てる正泊ら条に山た、烝及日も此若ら来の高正機し間し 我こ十りは件慣城の翌・び亀出の越ざ武山に十をて永て泊 等 と 四 城 大 と れ を で 二 林 湯 山 来 時 後 る 名 麓 は 三 得 一 興 去 城 がに年下和しず略あ十入川城ずの守にを小即年ず万寺っに 、手っ七道兵及、事・敵遠松ちの、石にて居 主な直た郡て つ春る山兵出した日栄部び一で藤勢近原湯春遂を入 、。上仁大小先あ堂はにと川 をた一下にを没 。族芳居収自田寄芳.輔松づっ興早馳い直豊慶戴し後一 殺 遺 を 養 り 免 在 辺 せ 養 _栗 ・ 原 熊 た 右 く せ ふ 春 臣 長 し め の 年 し臣率は杦るなの手龍川仝の野。衛もたにと氏二たた鞆余 た栗ひ一若こ湯宿の神ニ治邸山流門殺家、いの年 の山て時越と川に方山脈部に中石な到柄所ふ大と斯天に事 は三郡紀後に勢陣はに、小火にのどしで謂豪軍いの正移志 `郎山南守なを取こ移 〒輔を退直いたあ土のがふ如十りと 即・にのへっどっれり 世。平 つしも豊仙こをが北に義義利ふ ち湊参主主たうてを 。す山追そ兵井てて事臣石とつ居の年昭昭氏で 我右勤邑水 を京しと、此る中ふれ、精、徐余氏權をくつ野六が入に遂 お等、なをのこをてよ等部一ろりの兵思ってを十あ京たにそ残七り紀年と攻南り彼に話衛ひて、席一ちしよ手れ黨月、南羽もめ下さ是・及敵急將・、ゐの捲っても ,捲 ^を このでも、 でを十田の柴出立しら一島びになが青敢たの糾六辺代秀来て、に一馬部當の、木然。 し以ち豊て足 、てし臣行も 川更立て氏っ出 の耐スを代別末で、こ_百戸前日の、ホポー こ合日や官長なた道山_今之下らで三勘之彼 にくゐのたな 大 でてに部し大っ而神に、・共との騎衛反甲 海なる執 字 あ日豊はて和たも社入が脇にい出と・抗斐 陸つう奏毛や 丸. 並たちに利う く臣頭泊大 山 氏がり納そ等佛で春六下こるす須べ氏 びのによ輝に ഗ 其彼に上山言しは閣近を郎しとをる賀く武 進で、 畠 のははら城〜て地・露奉右たに知大彦決田 んあ時て乃 Ш 仕羽かなにが遂利民横じ衛。なら兵右心氏 でつ勢三ちた لح 打 柴 ら か 居 紀 に に 家 矢 ^て 門 直 っ ず を 衛 し の 日たが宮義 IJ 、以門た末 ち氏れっら伊湯暗を六其・春て ふ の天てたしの川い焼郎の同の`さて・゜流 何下非のめ国氏割きの夜藤伯同り蹂宇而とに 押 ぞの命でた主のり抜家泊六父年とり野もし城 し 卑兵のあ。と本にひにり・湯四てん若軍て を 怯を死る茲な領山先落城津川月今し狹備` せ 構 °にり安中づちに村安二更た守未父 るて遂翌於、堵の泊つ入式藝十降の・だ祖

つ准をに

てじ導天

を養て二

伸老周年

ぶの防快

る資国々

志

川乃年天襲や `正 擊

来慶十し

つ長八激

築 後 浅 至 日 く

年ひ封其たの

移てに西れ陥

ഗ IJ

に山老八ぢ以

王居浅子に聊

子城野山なか

はた衛一て君

之 上

をのが居

を敗を

てれ

りて

つ先

ま 英

つ

守

<

て乃

居ち

٦ IJ

と泊

り

慰

ち

を幸て

っに杉

百 若

つ氏

て五年

に越年に

き守野

翌追長

れ代紀城

つ伊

と王け谷

八に臣王

城し佐へ

廃が門に

とそ佐野

へつ後牟と

なのを山た

発た四婁い越む

に代し

てと移

慶しし

長た居

年左こ

新 右 と

城衛又五

江佐一 `

を門十年城

八

0

る る 皈

年のふ後べ

官にか

墟

表

新

聞

不

明

年

月

不

明

るハ受

共 子

に

浦ち

州

座 Ш 揆 史

山私郷田 地は土中 次研斈 揆の究兄 沓ーの 料資要 を料諦郷 公を で土 表貴あに し紙り於 まに研 け し寄究る たせ者断 が、と 簡 其し 茲のて に活のと は字主雖 同に要 じなな 性るる之 質の使を のを命蒐 資樂で集 料みあ し をまる 之 選せとを びうあ剞き 。る 厥っ ま し私とに たは思附 往ひ 年まて 紀す 置 < 伊 郷此と 土のい 研意ふ 究味こ 誌にと 上 於 は にて

百 姓

く在と進同時手に斯 川所飯如所迄挺て而 口多物矢傑に杯竹安 迄有も追家佐悉の政 来之ソ々武田く筒七口安 り此コに平村得法申熊政 不 村 ソ 来 次 迄 物 螺 壬 野 七 々コりと雲を貝三古申 ばのに急申蛇引の月座壬 此者致々人の下如二奥 処どし走よ如げ相十口 よ先同集り進彼圖七在 り達所可晝行のに日々 奥而よ申飯同竹吹に 々川り様を所の立古 え 口も使出に筒れ座 迄人者して法ば奥揆 押步来何奥螺爰在之 可寄を其分添貝彼々 申旗出内引野吹よ百 と印さに取川上 り姓 の杯せは可よ三もど 注押村添申り尾相も 進立続野様の川圖不 に奥き川伏人組の残 付村眞勢而夫奥請徒 急々砂不申を根を黨 々の村残詫今松致致 騒人へ打候や成裝奥 立 歩 と 揃 得 遅 下 束 在 亦を急先共し西い之 於待行人聊と川づ筋 眞居此数聞待年れ時 砂る川揃入居井も刻 村此口か不る下蓑は は者よら申内露笠廿 どりは川早惣に六 三もの一口九人て日 軒よ使時村ツ数先夜 もりのもよ時凡手八 打使筋川りと四毎 ッ 破者は口は相百に時 る の小早同成人飛よ 筈 詞 川 く 所 け 計 ロ り 申にと参へれ朝斧高 合早申可注ば六熊山

平可船物間上番高に又り中如や中大方さ之懸張郎々せ飯候よ候 假 恐 中 賄 何 よ に 利 斯 古 押 よ 飛 進 へ 井 等 せ 節 跡 有 と 川 け 物 得 々 取 方 分 り 古 を 様 座 寄 り 鳥 め 彼 に に て ゆ に 之 申 口 れ を ど は 共 に々筵先引御座取成小可数川やの心相はゑてに方へば出も追此 書 々 を 川 取 役 地 又 大 前 申 十 端 と 川 痛 変 一 壱 別 極 え 進 日さ無々処 改 余 舗 口 可 所 舟 銀 変 始 と 人 に 高 向 致 り 大 人 れ り 罷 行 も せ 是 注 に 焚川 を札発近の進か山横爰急事先し從越 申を 此西直非進 た 大 込 原 様 御 左 等 る 村 儀 行 け の 道 を 度 と 達 人 此 諸 時 に に 成 走 三 る変數え 被出張米ののに申行崩行大其手よ数処々人傾川ど来尾 外成舟壱 申張留売も筋つけ陣れ人事罪にり川押の数き口 全 騒 無 斗 付 下 從 買 時 奥 き る 笠 る 歩 と を 汗 入 口 懸 喰 凡 夜 差 當 候 村 故透余乍度今之節の漸はを如時押行を込へれ物五はて所ゆ大 ^原 行 間 入 勝 と 米 時 倒 人 く 一 以 呼 の へ 可 握 貳 集 ば を 百 段 急 は へ 庄 文 届 積 釜 手 の 売 は 来 数 止 統 打 る 声 け 申 り 人 り 役 出 人 々 行 騒 何 屋 難登數畏儀は弐と古不暫招にをりと眼有亦人さ計に其立分衆 儘記す十 り願池三は座残時候こあ左下を就小衆せに更日不同出 ほ此簡左ひ野文言へ川之得そげ有す血而川深同相行は致所役 ん騒所有数口もな入口間ど役法らら走はのき村成皆同其 の動取は多才高が込へ此も人螺ばにら手筋川に候々所儘 大 之 構 御 有 賀 く ら 候 走 処 中 衆 貝 一 被 せ 代 先 を て 此 此 よ 通 行 卆 數 儀 米 取 之 屋 斯 米 へ 集 へ 々 大 天 応 申 様 大 達 融 は 内 所 り 心 は 数 扱 大 長 様 價 ば る 可 少 井 地 願 け 々 庄 押 急 人 貳 の 貳 可 申 押 得 中 多 下 略 兵 成 高 此 此 集 し に を 筋 れ 諭 屋 寄 々 数 百 川 里 申 に 度 と 々 積 さ 記 衛 業 値 方 時 諸 も 驚 響 申 ど 方 村 陣 取 出 人 原 余 様 お と し事置る右是を永ど人役止きし上何致々を押さ計 1= IJ て紙マと加壱致くも数人り取川各分し庄取方せり て川の 鳥 上古の條人さ相等凡方不押向方押願屋奥難一從 を儀 もこ之申へふの寄向い人出統往宿下左 渡に座書之にせ続 記 患 よ 附 趣 止 て 其 加 千 願 ニ ん に 返 打 何 づ 人 来 申 来 す 藏 様 合 すがりを諸りは上勢人筋はと見答破なれをとす川明土候廉け 取 役 下 奥 古 致 餘 申 如 す え に る り も 待 評 に 向 れ 村 へ 相 理 ☆取役ト突白攻師甲細ったにしょう..... 雑ラサり人直口座御有上何れけよとと嚴ち定はふばにば立非 何大賀廿衆にの浦世之ルせどるり計も重居決本に廿て此不を 屋ハーて小に話い最んも此打り無にる時道相八山儘申諭 哉 右 長 日 一 払 前 悪 か づ 中 と 深 時 破 聊 腹 備 此 を 通 見 日 本 に と 候 其 増 兵 に 承 方 末 心 け れ 也 お き 千 り も 臓 へ 時 作 は へ 早 と 衛七知可々之ずも返も川爰可聞可此古 り川る朝申 て 或ッ致致立者に勢答ふを彳押入申処座て口はよ傑免つ 米時急様行両可鬼に内隔人出致出よ御押に雲 IJ 商に度難不三打をよ此俄数と不何り目出役鶴時へ皈大々 知に 人相取出申人破もり方にヤ申候事川付頃人川の参在庄止 以す筋鎭扱来願有と欺ての渡レ漸にに下衆而衆村声り 之 屋 上誠よるに候之之待 く一者方一々付於へ折川取傑を飯節も不 り此可得儀格居風手ど難統行諸て押節向押家あを 假に 名 飯時及ばは外る情にも出進願役も寄交へに新げ出申々川 を飯候御一の誠也成の来めの方其せ代差出九追さ置諭口

号

二、高見の松の最後

・ っ 僧 見 麗 り し ば ま そ 南 に 道 い の 松 陸 の云岡高て都のしまたですこ部移外巨での地 松ひの見ゐ熊岡かすのごるでをし四木古註測 で伝南のる野とっまはざ」庄通 、箇で来記量 あへ半岡が巡呼たい今りと屋ら欝大あ日さ部 `錫びと」かま答何れ然字 つ土町の つ高れ五 `いとらすへ某たととた見て萬 た地ば墓法の らのか地華途街ふ奉ちるると時しな 。のゐ分 う字りも寺次道 。答ょ、 とて此てっ土松る一 と名ご恐は留を其すう昔、里の街て地へこ地 っ隔のれどかっで松頭ゐ台略 思もにらせ は立立タヘく堂てて地ば八らそのををた帳しに圖 れ石石心其伽自ゝ面大年松れ利御蓋が面て誰 るととの藍像西に殿前ははけ覧ふ で高も田 。いし寺具をの着様で千ま者に此実は見気辺 とふて域備刻方いはご年た、なのは南のが圖 巨ののし法た呵ざ立ど即っ老北部松つ幅 ろ こ 石 一 巨 一 華 と 々 り て う 座 て 松 道 町 ご がんを部刹宇寺云とまばした `樹の大と 松 な 道 で で を の ふ 箕 し 枝 て ¬ 之 − 墓 字 呼 そ い のと側ああ創岡枝はたが左私は株地北ばれで つっ建とはれに地様どへだで道れが日 根こに 許ろ立たたし相近、よ面にも樹けあ字、日高 のかてもとた対年っっへ詳の令がっ里論高郡 ゝのい所しは此てとく見 ´´ 残た中்̄̄高ー 地推あだふ。てな奴、ゞわま何存 。一周郡部 が考るらか此ゐかう恐くかし年し近九囲の町 整しがうらのるっまれとるたぐて年五一興 、像。たいな申か所らゐ街番丈亡 理て 今 。こがし」でいたの地五盛 今 今 案 北 ¹ 謂南ず此とらまとはにも眞 れ高は ニふ部るのを一す重先なの中地四をを 廃 見 法 **一** 所町に名云千 °ねづるだに目寸見見 止の華 この大法木ふ八此て一か。 なは さ 松 寺 出去字華の「年のの千と里っ原根 れもの 且ば 華芝寺あとは枝細〇突伝た野廻 た恐境 門寺安はるて違が尋八然にの・り物町 とら界 家の養惠所御算地ね年の昔で所は語の 前く標 の岡寺心を機でへ、で御大墓有二 後 法 石 、 側はに院俗嫌はつっご尋殿碑者丈と中 し華で て 寺 あ Ҁ 勿 伝 源 に 殊 ご き さ ざ ね 様 は は に い に 境る高論は信高にざまれり、が他北近ふ巨

風吉眞申力をに束ので紀

で伐しねし路に遂丁西

のれがな理外ぎ競線の

事寫た縣らをれぬ売路鉄

にの木荏としこさ附此測

と影根放方南が伐ら松が

か者許置盡部わつれに進

なたにし力のかてる衝捗

ぬる集てし名っしと突す

を過に度線

`とてせの量

木てま共す

・ゆか心

、で鉄に

、っに

。にが道

لح

ŧ

南

って

駅

に

通

前

推

説

松

に

な

昭

Ξ

の を

價 伐

驚 る

<

な ع

る

氏 君 は 請 せ 盡 線 代 暮

も此らたば・

前眞巨はぬ盡る

何撮の苒百

つ 顧

の野てみ縣保

と太憤か史

か延痛なの護悔て

々君齒た調跡ど此

種郎切っ跡史れらな

昭ら佐あこた為ずに鍼測和れ四るゝる、で鉄に説

五が君年遂口非るがれら、及及上に常此。進た此

な手正む氏松ので其

一ば国城悲楠の筆ん

二か鈴一可及をこ来

っ木君きび愛ゝるた謙・運余護にこ

鳴次前命はせ至と

氏健逢前ばま来

俳郎し二ら有が

・ 次 著 後 な で

人君た回ぬ志

村大別指百年

第塚紙定方は確薪

一甚写方盡情か数

一た郎青に芝是あ路倒が川

心・し結査尊もの人ご鉄 配浜つ果委重及方のふ橋

`員のば向斧

`ねるは

もと青松

も海

 \sim t \Box \gt

゛た

伊

史

談

五

号

紀呼郎田に

野

期

ഗ

紀

南

語

る

森 彦 太 郎

1. 折しの社のれ感過新 にて所にだま慨ぎ聞 も謂籍かでなな紙 客をらはきいの て兎員置 、草 をと生 のに乃いそ鞋得は命 一角至たのばな云は 筆古現経時きいへ無 啓株在歴々でで 窮 上ののはの あ十で を一所な経日 ら年 あ 怠人謂い営高 う ー らで社か者牛 ぬあ友らは∜の今の紀 、社尻で話南 社 りと 友 こも新 し樂員を と明て屋諸たそあ聞 い治の裏君ゝ 〜 りの へ三私のにき 否 ば十は苦とたこ三 `心っゝ 年 れ + 先代現談てきか年 づか存とは涎 らの こ歩 しい の てっさ跡 そみ 私日ゐたまを \smile oぐ ぐにるや ぐた紀跡を勢を ら 至社う ら ど勢を ひる友なのる鉄かは まのも思 道 ^もでうの出たとり ` ち は 話 ど競みだ だ盆でなが 爭るほ ら正はいあ せとん う。 月最がらしねき の ` う の故 さ ば 0 をな誰歩 祝参鈴 詞で木私忍らし を やは社とんぬも印 其な長しでが多 のい時て来 ` 少 た 他に代はたこのに

2. 消ひさ主連りを宴事御人 に云すな五丸場をくらに多私そ さるて客中一斡会が覧事 しっるい号に合指り没つ感はこ なや活十はめ旋な殆 なただか標乘が定そのきのまで `往 かう字二紀でしどど人来 か形けら題船多しの憂も青だ追 ` ` 出 く た ま 目 の 年 子 憶 つにの分南た `の毎事な っでの たな話歡新し主記号消ど た 話探其市、りゝにゝ投供は 。っがを聞め客事詳息い 理 郡 ◎訪の`例し載会っ書 でΞ 廣たひつがで十は録なま 由役随取下引へたせは没家 は所っ材一続ば゜てさ書と 文がどく配た二いしんで 、くし達し分つてては こ種てに字き』そくれししたの さとのもあてど ゝと記馳か上●のれたとて に本脱 に警事せ二阪鈴頃た経云獨私に は紙線因れ来歡いるんこ あ察の廻字目ポ 三はしみるるをつ での のの驗ふりの溯 る種範るあ下社 号明てにと 。盡も各取新 本だを奴よう と囲とけ帶主 活治し本、夏しお種扱聞 紙かもががろ 字四ま社「見て定のっで 除もいて在 はらたそり覺 上 が + っの ^オ 時 何 ま 宴 て も い極ふ直中 五ヱぬののへ ためこぐちがいます。頃詩に 多年た夏イ代時り会居紙 らてと本と 活イ何の文覺本後 狹 は文 云 弘 字 も で 紀 を え 紙 か頃が見又・散文・ 後狭は文云平字もで礼と、
ないっ、二のも南盛て誕 、も紅鈴会句私ぬの たな日云裾木せの会癖ー らっ露々酒時りっ・に隅 鈴一 °では投るの して戦ア間代、席公 `る式 ゛で う御 くも役ハをの因定会本簡 い坊た ン中ゞ無必言語に我かし南治 :斡記にまな社單 加心一論ず社めは々った新三 :旋事本るど主に こしは社やも鈴か 減と週文 ● 用でいのたも聞十 特標か しがすの何社木た ない間語をを、ゝ投らのは五 のが大な出べ鈴と主がつ 埋ふの体附帶標気ずしだ 場本新どてて木かがどけ めょ見でし^び 題にるい 草り聞從ててでなー。 合体間茶る此〜彼列うて と 間刑云 本では化るの或と席 で中を業そ去もっ切少 ゐ 、町持者のる本て合なろなば `ししか調はかしたる を 五 き ^た ね 子 夏 子中ちの下何問注目切くがつ日 : た が 三号りもし、。見号標にのこそ) ŧ 供心よ誰に日同分が共面て露 うニ の の、つも七印様か玉私白か開 だ 出れもでだし昔 投 否 て が ・ 南 五 ら 石 は い ら 戰 てで末 ` け た 前 書中机記八よ号活不ここのの ゐ口席紅はとの で吉上者字りを字問のとも前 るのを裙書云紀 も中で専程汽用の `新にの々 悪汚酒くふ南 没心製業度船ふ号そ聞投で年 〈 忠 汚 酒 い せ 間

書と作での何る数っか書

記を

社

四前

或号後

別題ら

べ題ニ

タも号

結?ま活

にだ字

し姿を

たを用

文

勿岩なら大のっ二 書居弦例 教け へる らの町早た号 家 た奔同正ぬ文桂熟ん標は 、 放 君 一 丸 **へ** 月 でだ題ニ な あし 載◎ 大なの君 の を号 یخ lacktriangleつと用活後 正態天の せ 盛 とそ 0 事たと。 十度稟如 で 鼻ひ字同相の な 年がと ۲ き 高ると君並頃 随 ٹے そ て、 頃 幾 環 は 分 々のいの ん 0 分境ま乱 だ ふ投 で或 に なこと 事同のだ 暴 あ 紫ら ŧ 稿 つ が 君 感 十 な の 星うのに 年 木 ち あを化す 太 話 はしに限の村 散 で る刺に前 0 陽 私と一り紀 し 私 ゃ 激依後 而 よ紫種 た ŧ 中 る ŧ わし で り星のい文 ŧ 自 斈 れただ 上 あ = の憧つ壇 分 の ろう 世 b つ に つ処憬も のに で だ。 た 上 介 し かへを 勇 自 くがだ 巻 風 あ 三問も 号 作 然 ら 情 IJ 点 っ 標 つひ の う 下 ^も か私後 づ 題 年にて て の 標 本 らの年がに < 上行ゐ と 投 記 題 社 下 影 忘 同 め な でくた に に あ 響 れ君其 ഗ あとの つ 赤 りは文 をてのの てた つ で 1 で録 受ゐ述岩 を \neg 、ゐ た T がなっ 、に見 けた攘崎 る ク た習に君わ眼て 、あ ۲ の にれ で 文に と作 う よがれのは を 二号 才あし 利た 云をれ文 見 IJ \ < ふ同ば學 ま りて た珍 ŧ ع か君 、的の人ら や君 し 今 あ 指 らが私方三が な 當のそ < 御 IJ 定 + ゐく 世方にの 恐記共面 す 才か限頃 し憶のに なな 歳 号 る ゎあら いし紀入前 いっ つの標居 っ後かて り指てわ題 て南 ら う な定あれをれ ゐ文たの ら に 使る て壇の頃 自 しん なか 私にはは丸 て な b IJ にお 故飲自 やに投て尾

御漫て這崎ふる自行そ 岩 入山舷か分 < ഗ 崎 + っ野月 **#**, (C **ا** ح 正 なニ て葡式知は かつ つに行萄のれ忘何は君 て 我 つ君歌なれ と何は なてはもい得かで 強 まれ俳川 がな云 ŧ 記 、い つば壇柳岩 ふ上 れ で たた君にみ崎っなのの私 ア どで句ど 落た君 イ 川思 ちょに 話 あがも 翠 ハ?し つ う 小 出 ょ っ切の ブィ いな つ 目 は た 歌 0 ۲ たもて 郎 ゐ Ш を もの記さ き た同が幾 け 0 はな のや憶 君 تع つ っ `• び序は IJ だ さ う ŧ て がへれしな ع 万 大 `なて 声 に本 が 葉 か 憶 佝 明ぶゐに 紙 b 集かし ふ 日 の 治りた 高 う の 7 の 何みもは尾 歌と 愛 創 ゐ ゃ 年たの落氏 刊 枕かて W かや ちが لح で ゃ のうこ て 時 此 明 な 7 の て下て 元 煽 テ 治 旦もに 記 のの 呉 つ 号の三二事 Ξ 切句れ た + にが十ス を 目はた ¬得年 □ 御 山 岩 ゃ 五 ع 櫚?意 記 読 の代大 ŧ 六 トみ な ちで念 歌の 方 あ 年 ににに 実 ゃ と山忘 る 。んさ録秋な 頃 れ し々 う ഗ は し の つ T ゃ T ٦ 御いて風た がし لح 免ふ置吹ら どて 斈 ま 校だ 方 く苦 う雨 候 < つ ° 🗀 笑 ろ 面 しに た う 明か俳とさてな が けら人いれもり

Ξ

君

少

年

て

月

ع

今

の

う

業

補

習

で

な

3.

4. 正てか社投れであに に自ら主書が悪っ 分 もを度口た紀 高のそ社勝重のが伊 < 採やん員手な投 つなもにる書夙育 界をこ普掻にをに會 の破と段払つし文日 原っが出っれ合學高 始てわ勤ててふ少支 時来かし行 代てってつ誰うとの やてゐたがにし経 そっもるこやなて営 れた笑わとりっ投す ^いっけが初た書る 左なてで度めのを私 様ど放は々ただや立 なよっなあかさっ補 珍くてしつ圖うて習 談話お 、た々だゐ斈 もしい殊とし、 の合たにいくこ つの鈴ふもれ つたながったないであった。 てもあ氏論 あの_ら 間 は 編 るだうそ 輯 わとがの 局 。 入六的校 けい、名 ふっの で L١ っ っ こ °僕通 る明はり て 治今寬 ŧ 日容 Ξ 広 十もな 斈 五新仁字分 聞で の 六社で 年へあ室係ご達生 頃行ってあ はった 、るそ士で

、や年会

た校

が〜

輯大に高

局正は等

へ五文小

這 . 孝 孝

IJ

自

に

関

年 なに

のも附

川はて

でし

なゐ

した

同徒

ん頃の設

小

の

0

直に

盂友の

ふが兎にめにを意二問立論とたと私 銘ではは 病出につて比引に面題論へ 体現角いも肩いな最をだ日 うでも初 でし才てうしたっ下捉の高 つ `いめ 。て段へ 少な子の二得 てオ ・なこ慷にて日有一ダベだ つ病出三いれ慨寄毎高田面テき 遊たでは年こは激書週川両のらかぬ と早盡でと一越き一口郡 冒れ し世きもをつのと文問の頭て例文 やたしな壽攪は筆しづ題提へ盛のの らたいあっ好をてゝな携載に人投 がらた敵駆載克ど論せ堅 を書 しか手っせ明道ごたいそ家 が驚は めらとたてに路だもも の たでしも呉自問のののさ過 壽時惜 を代し らあてのれ作題 `は〜ぬぎ 中るゐだたをだ日必論二な 縮のみ で 。た 央 が発の牟ず説コか め本て ŧ た紙も 文実木そ 表 婁自のポっ 原 壇際村し 後し 中人作出ンた 原は余 で紫紫て稍て孝士に来主が 因本り で で當あ 認星星私認ゐ問に限そ ŧ もに IJ りこへ何 めはにはめた題訴 文 ら歌対いらもだふ あ寂 Ξ 字 れ人比つれのの と例いのの മ ういし るとしのてだ 題 の〜 츪 として間二かとす日を がも明 麗 こて `の治 `に面らにる英書コか だ 彼で四 角大同きポ故 ろ勝詩や冒 っ まれ歌ら頭わあ阪盟出ン つ年 でたの韻へれの商に 漕天方文昇わ頃船ヒた相の はに後 ぎ分面方格れと対ン な 余違の つをで面さ風し抗 ト併太引 ێ け持はのれ情てのを 郎力 **ŧ**, たっど眞るのは大得容にに いな南 忘 くいに らてう似に論緊汽た堂 ょ ħ うゐし事 至文急船日氏くせ 木 得 °たてかりはの会有は似ら あ村 い紫 °ŧъ̀ `始地社同社 て ҇。星 せ 彼 手 得 め 方 創 盟 説 ゐ た

重がいもたに明い ふ出と客 を容も入いと 加堂の L ふな十 を容 り年 たに重堂 つ 博そに 比ん氏 愛 べじに のな て た 代 ^院 縁 っ太 遙時っの < 故て 客 で隈短 か代て にで例分 御井 で 坊淡行 の 栄識漢不へ齋 江見文言来へ のに直国て氏 す於訳手徐はの て体の家もだ ももの顧のと の文社問 で章説『と

あのゞも利認紀そらあ高知慣か先そ く遇例行生の ⌒ だ き の 頃 ? つな施 の ŧ $\overline{}$ Ξ たり設 も豊 にかそ を لح 感られ半 で 体のは悪ずで激 を 福に二機無縁よあし隈一礼 論 が く って井面讃 し 私 は にそ頭半 門 兎 なのへば外 角 を つ文は攻 漢 筆 てのめ撃 代 لح 無 続納がてし 用 し 精 社 々り社た T で っに説や 説 あ ع 木っに う 育 IJ 木木代な 行 L 本 て 木木用論 政 社 採 生木し稿 に で 上生たを 用 つ は ٰ ع し 0 寄 い 客 て 署と社せ て 分 ゐ 名括説た の ع た ع し弧に し たしはこ 文 て 論て普 斯 ろ を 無 稿附通 う 草 責 し を記執隈 任 て 送 し 筆 井 ഗ オ って者氏時 地 たあがは の 位 テら 。っ末何 郡 に 隈た尾を 視 居 っ井 ° I= れ 思 斈 たこ 氏私署 っ太 た はは名た 田 か ら識氏すも ع + か 、見のるの因

5.

へ氏

見

る

あにを医な

り於書術っ

新論たな南

は群社 🖰 代

確のと格か

て

氏方者もと

社事しだ識

よは説本で

淡でも閑木に

齋地 読な氏退

ののとの相後

説情もかの印

にに社ら間南

つ暗と社あ倉

ていとへっ家

紀も出

南無

聞 鷄

かーし

に鶴

てきのた田

で

しは印小

。い時

で

官

で

辺

後

然のめ南の同ま ら醜て新頃氏り思 るとず 園 る 聞 の と 逸 想 たも鈴私強 し て頻そて公天 政木と し一共人一友氏のせ富 の共 重威て般 し定小か せ人ら利許階関 玉羨特さ組紙日結私た得氏の を視にぬなと高ば共が意は冒 る抱せ日大るい政れの ら高悪もふ友た文 うてれの黨のよ 숲 な罪るたのは に IJ の あ こあ人めや反 チ لح り達にう対寧 ヤ もでがはに派ろ + な 派 酷 乃 チ もい彼手確評 至 ヤ で等にかさ二組 + 台はの振にれ階を 元な私舞貢た組濃 暗か行う献もに厚 謂 つ上たすの容な ふ のたにこるだれ背 لح 。はと とがら景 ے `れと 然風がこ 度 ろ も教横ろ公 ぬす の 装郡上暴が平も る ふ役面と多なのと 階 て所白見々立かこ 組 ゐもかえあ場らろ の b っかはの ぬヤたら 点 クの見何聞 長 ŧ もザで る لح 見 だ えニ あとあとか自 り見る必我他 た階 随 。ず利共 え 此を心たたし我にて

其に高でかふの の秘名ありで め勝 る 実 あ 現 記 後 b □□初に に め同 現 لح 相 実い同 氏そ消 ふ年 期 の のれ息 上單の手はは 待 は行縣で兎今 を か社本会創には け説の議刊角未 て ^を 稿 ^員 さ 明 だ 書 を選れ治公 ゐ い進 學る四表 た ってめに「十に 助った日年適 立点 け のし 、ち時 て 呉 _ 事会 叛 れ方 ゜゜で に員私 稜 と紀 趨総は Þ い南 つ選今 た ふに た擧か る の対 直 で、私 そ後十 村 のか年 紫 経らの 星 は新 緯 は 一 聞 は淡本 病 よを ち 齋 紙 臥 し起 と追上 中 さ 長随で に う < し解 拘 うと なて剖 b !い_ずる本の ふ 、が 紙 メ と陰ぁま よス 答謀のあり を へを『斯遠ふ

て胸日うざる

6.

ず南手なに会小時金でた砲のとき や紫 ににど無で池の崎もりな沙い巨 う星 し重競候の選和かを話汰ふ頭 そ な視爭補三擧夫ま擔合はも 腹 こかしで者氏に氏はい無金の堅 て當間が立 ・ぬだ論次と 骨?氏は うた居選のあ候藤 つ私第 勢 をは和 り補井金て共と らさ 爰 力衝新 `しかの でぬせ協 もい を < しやをそたら出資そふ認に 1= で 及た う策のも立る金の時 り めは 身 び山出星そと し上のっ候な頃代ら言 IJ **ഗ** 、た補ど同にれ論 のれ し 切 日郷た策にた結目印小を出感言な戰 力 局川南池擔し 謀反 . 論いで 同で時ゆ有 とは対そ定のの徳いて 野王こ物新れ員中森太でく歎行代かし中 は枚ろに聞で四本・郎反れでか ねな 忽谷がなに金人康稲氏対る そばい 無 う ら拠崎に英原へ派筈鉄な しな候三 混之のなっ氏対氏の何のも砲どて 補 郎 戦助時かてとしも夏れ新な とと選ぬ者 し候虎見も聞くはは擧 で擔 乱氏の っは 斗が選た二て補視両新を実 思 `にそあい 。階 も者眈老顔出現は純はれる 陥先はそ組必四々をご さはな眞一で っにニれへ勝名ではあう至かなに新 た奮階かすの、あじたと難っ青 も聞 聞 らま見森 つめりしでた年金 を森社 `へたあ゜の しがのぬ込 た 起 そ て しみ夏 日白 っで熱ニ さ 太 情に 郎し 画星とは見そ 高羽そた う 不 しはい確 ・こ平のし 金はも لح 新 言高た鈴ふか金で野矢てそカ諒金い夏聞 や木処だ崎二 かを東れ候と ふ見の ・階ら立内で補 のう氏か し す三に康威 、中組中て原紫なるにあ太力 興ににら う 氏 望 近 新野の野たか星らもも る 郎で をま ・がらはぬ随金が両當 づて聞〜 最 `立窮中分 きんのを 双 < 高 金 `氏選 、で勢円幹崎此つ余野無選新のさ 黙にか紀相力満部・のた誰あ鉄擧聞如せ

皈 戦応たし つ لح 援 7 て な 辨 此止 る 命 \pm ょ む ع の IJ る す 演演 前わ る 説説のけ ع 숲 が 選 選な 主 擧 んでに 民 て はか は殆候 衆ぬ ٹے ど補 う 開 者 か自議 で つ ŧ れ 身 員 7 動たは戦 Ξ < ほな塩 ع b ん 路 此も の ば嚴 のな 御穂 間い口 坊 黄 か لح 田 = 金 Ξ 南 階 の 威 組 ゥ لح 力が二 が定 ヤ 同 めム 加 所 業 = た ぐ は ے る ヤ b 同 ع ځ いい志 を そ ふ で れ村 ぐ演下 Þ b 舌 そ のい が推 鬼巨の あ 薦 に 頭 ŧ で 金蓮?の 乘 が 棒 そ IJ 持 縣 で れ出 あち議も

7.

つ

た

見木ら書如四て 治 せ 出 然 た る 社 た き لح 南 名 で る + 長 ま は し 10 部 猛 年 語 が b 寄 て 対 平 運 明 بخ 九体 な 徐 書 す 野 候 動 治 月 う で い き 易 る を 補 四 +し だ三 六 衝 ŧ 戸 + 選 六 て が氏 讀 候 き 別 擧 日 敵者 **-** の 補 言 界 発 には 面立 の森 論 行 の 母目 の 候 競 氏 戰 議 腐 紀 屖 を 冒補 爭 の に を 戰 南 敗 をみ が地 頭宣 力 ゃ 12 を 新 貸は 社 言 白 盤 を 痛 聞 つ説が熱に 注 T 論 第 た た 欄 方 現 化 匕 ぎ 中 二六 0 か かれ し " 野 て 無 らた た が毛候 八 余 ع 解論 入 利補 号 す き せ隈 る 面而 所 所 ŧ ぬ井 殆 の 庵 自 余 な 載 んそ 氏 政で 力 どれ はが 友は 田辨 な 此 徐 半が 系 中 士 実 徐 頁 広 のい斗 を の候 氏に を 告 機か牛 引 点 補 な 日 は でを埋で 関 لح لح 具 か そ 高 めな 紙 思 둜 あ助 つ の 選 < لح つ る け て は て か 文 て全 寄 目 れた 演 ら 中 史 文執文書 さ る 言 説 で 上 Ξ き れ程 は筆 論に ŧ 面 号 لح て 猛 廻 あ そ の 白 のた 活 し あ 襲 猛 IJ る ŧ て 當 字 た し 者 選 が 時の で で 紀た を 挙 資 とで載 あ 南 南 戰 和 料 る 紙か日に あ せ 田 し で 0 るた 上 < 高 新 て 村 あ はがの而 ع てに 見 民 る ح だ ŧ 定 を 招 L 明に鈴か寄突員いみ総 て

不 見 ょ 平 不 今 満 □ の の 声 妥 を 協 聞問 か 題 ざる は 端 なし な < で ŧ す。 破 綻 を 来 た 選 擧 民 を 激 昂 せ め 人 心 時 に 離 反 し 行 < 所

ح て 日 高 政 腐 敗 ഗ 由 来 を 論 で て

ひに悪 な い つ 習 た慣 が 出 来 て 今 で は 何 千 円 ع い ふ 金 を 使 は な け れ ば 年 百 円 の 縣 会 議 員 1= 出 る 事 が 出 来 ぬ ゃ う

ع l1 論 に 於 て

日 の 場 百 合 難適 を任 排 者 しが て 得 正 b 義 れ の ぬ 犠 ۲ 然 な る IJ に 候 期 補 日 に は 立 ち 遠 慮 ま な Ĺ < た。 切 迫 す る。 黙 し て 止 ま ん か ٦ の 熱 腸? を 奈 何 せ ん

L タ つ 7 ゐ る た而 ŧ 階 組 協 定 **ഗ** 連 合 軍 側 で は 言 論 を 以 て 此 12 応 戰 せ ず た " 旧 式 ഗ 戰 法 で

開 票 ഗ 結 果に 御 坊 の 分 野 は

八 八 中 野 五 杦 谷 夏 見. 四 金 峆 Ξ

南 部 で徐 は

لح い ふ森 字 九 を 九 示 し枚 谷 徐 五 氏 の 演徐 説 が 余 四 程 金 効 夏 果 が あ つ 五 た ٦ ع を 物 語 つ て ゐ る 郡

杦 森 谷 五八 四四 四八 徐 夏 五 八二四三四

見

七

八

0

中

野

六

九. 八

計

لح

て

は

て

行と つな っ次當 た点選数 私 共 は 純 眞 な 青 て の 立 場 か ら ഗ 成 行 き を 概 し 紀 南 及 び 鈴 木 氏 か b 離 れ

た

8.

でく留説氏を紀に月こ揺会 眀 守なは売南は隈れ籃の治 日私い居 ど紀る と紫井 で時批 四 はたを余南 や時 星氏 こ代評 + 大もし う事ののの をや り紙 て書 でなと外日漫脱 b 年 ぎだゐか御もはに高談せ紹 ഗ でがるず坊の事客 時は 月 لح 町は ご員事 終 め ゃ 木 ととがわたら よ勢書 稿 あ 村 力かにし創 刊を < っ に の紀 書時 南私論な衝て刊た紀健 星 かのをか突中さが南 月たはら文書 `の っし龍れ 本 こ余喧をくたた児た も揺 ふ提 と程 嘩社と が氏 Ξ う籃 る げ な困を説いそ あ と少期いて ێڂ っ売に つれ紀 IJ でし てり代た あ附 つ で 南 輯 る記ま え 出用風もで硬 局 て私ししに私の軟 L IJ ゐ たた対が社と紀て創 **ഗ** 紙 λ 刊 る 抗時説 南置 لح IJ 面 IJ こ片或的事はどをき か ろ山時にに矢 ら り離度 てへ君片出拠張のれい明新 木応は山てっり文た事治し 村戦横翠来て鈴章私が四て の山波た御木がはあ十大 坊氏あ當る一 文 健 君 。年に を 堂 ○ 隈町がの然 今 井発書頃時そま 明直張 面 産 治 ぐ り朝氏展きで事れ 目 共 書の鮮は論 `のには 進 十け人にやを中一趨明 あ 改 る 国る は書 氏 異 つ治 め 年 云 記 る りきは採った四 斈 っ式 筆 出 時 で + 紀 童 月てのが不す事 あ 當 南 成 に来文時精とに つ時 年 を績 急たを事 `喧た紀の で し 展 °南十 死のよで社中嘩 て覧

代輔私私近其 中がのづの 明將社方き後 治 を のか ` 小 四連 爲 ら次川 十想に新い仲 せ盡聞で記 年 し を小翁 頃めた利川と るの用翁和 に で $\overline{}$ لح \blacksquare ح 相主は の喜 い 識計な 間久 ふに男 つ仲く ح ، て輔 悪君 悪 今 君 私 縁が 日はがい が紀 が に私社 出南 及のか 来に さ ん幼ら て入 で友多 る τ ゐ 達大 盆に 貰 るでの 々 及 ひ、 あ恩 紀ん 惠 そ南 IJ を れに 堅 蒙 か近私 つ づは 田 ĥ て 社 く和 つ 長大まと田 り共君 と正 はの明にと そ末治其の の年 四の関 東に+頃係 内及 = のか 原ん年私ら 小だ頃の再 か職び 斈 ら掌紀 校津 長野は柄南 時 、に `

昭 五 年 六 月 + 日 乃 至 六 月 + 八 日 ま で 紀 南 紙 連 載

十 四 紀 南 新 聞 経 営 継 承 の 御 挨 拶

森 彦 太 郎

り鞋鞋ら私 を をれ斈 ま せ 履履虐 う < いげ ぞ余て b 商 四 れ 現が面 な経 田ど楚 が 辺こ 歌 らに 町にの 寧 숲 あ裡 日 議 りに来な 長 ま日の き 雑 せ 暮 負 私 は賀 うれけ 貞ぞて じ 貧 次 道 魂 乏 郎 そ遠 に窶 氏 W き 駆れ は なを ら し 草かれて ٦ 私鞋 て 日 蘇のをち荊 لح 尊履つ棘 共 信 いと の す てあ 崖 る更るを 年 新に私攀 لح 聞 邁 じ 共 界 進こ つに の すの 7 色 古 る私あ 褪 豪 だに るせ でけこ私影 す のの 薄 が 迫上二れ 力更足行 がにも < ど一三私 こ足足 にのも虐 あ草草げ

で営っ の地 苦 実 方 際新 に聞 て 當 を 呉 る 経 Ξ 営 まと す だ るこ し け た は ع 絶 だ 山対け 田に 賛成ひ 栄 太 IJ で 郎 止 き ま 大 <u>ෂ</u> ං れ。 も殷徳 鑑 富 遠 か 峰 ら 式 ず に 僕 社 に 賓 あ ٢ IJ し て 勝 手 放 題 に 書 < の は ょ い が 経

人

の じ

んっ でお 下前 は さ 気 るで しも `狂 れ 田っ 端た ゃ 大な 人い もか

لح

ま

し

لح 危 春 Ξ

すと 儲 る叱 に の咤 ん あ て な は IJ 下 ŧ 人ま さ **ഗ** るを せ んの引 。で受 疎 すけ い商 0 業 男 で李先一 す校輩体 長知ど う と己 先 し しの 辈 て 知て切ら 己は々 っ のて 一 憚 助ゆ < 門り 言 積 同なた ŧ 族 が رہ ک らもだ 皆 反一う ? 対個 🖫 のの全 こ 存 く の在で 事をす 業以 `て全 ま任く しずで るす て 私 🗀 事 でと とす合 にが掌 `拜 算 盤銭伏

ら ひ 論 日 し そ 金 で の 第 後 行 紀 々 会 皇 退 ら 盡 と ち つ で 明 一 を なそ評にまのし初悲七に兼南の的国のとせの畏ゝあ、体は かかも至し後て号運号縣印新利公と時のと切友あり一何 っに大った月み二にか政刷聞害器し ` 勸 の 望 松 る ま 言 が き 其 説 要 た光体たが六る千陥ら界人はををて 。本際すに私 、回と部っ紀のと明云奈もの 。請社眞 代と於で社発確をた南大し治々何非他も、内一急現て 三しせ常幾とそ外氏をに にすてあ長行実印が新御 `聞 所 藥 十 て ん 時 ^度 くれのは告ニせ突ニ が辱、ぐ百ば如に はる穏りはかな刷 誰と健ま鈴らもし百とと業一を 。、も にこ公す木十のた折改な界年れ抑我経本や知能るの でろ正が氏回たそ不題っの十ま々社営紙が各野新生重 歿・つう撓毎た先月せまと方はて位太聞徒大 `此後十たでの月夏覺ニずたし^交文紀か陽戦を事敢儲 渉筆南らの線教局えら `こて がり紀の堅五三す鈴二見薗十 ま南間田回百が木回康徹五到のもその新も筆の養にてぬ 、、氏 発 太 氏 日 頭 熱 大 ^受 人 聞 、陣異し直蹶の 手すは地氏と 。善方之すそ購は行郎を紀引腸事けとの此教状て面起胸 社いのをうれ読明。氏編南受をのたし生の化に銃せす勘 因てみ際に対後るべ定 私説新重承めで謝治三が輯公け如場 なの聞大り、も絶三十経人論で何合縁のの是專しを皇く 、遂 同 の 十 三 営 と と し せ 辞 ^も 私 親 非 念 て 固 国 決 す あの鈴出すはめの心る 二行と題昭に氏報五年をし題まんし り、揺木馬る 十し御に和日^はが年九継てしひとて オ た 高 対 八 刊 ^隠 山 五 月 承 月 て ま い 已 _何 籃 容 し た 無 ゝ 片 し 世 前時評し年と忍と月十二 時で大てめ関あ奉め人 一創しっま 後代をて同なし積三六時回刊たたんもあ人新、心る公たに が発さ よか固り、聞紀で私のかは、 頂卒氏りてみ十日 I 辞・其を南はの丹 、続 `一第 若毎い先去 う 行れ 給 っ 今 刊 稍 日 五 な此し故の通のあ使心そ所 木 で一居聞て日気見再十 容翌刀 わのて郷他じ方り命 以 1 三 圭 受で先てを得はたは合 文 、松は 込 刊 三 け光 よづま其本正上 み。号 十 界 `ーな で輝けあ賢 **^**っこの は `あ の當を くつすの氏に り慰御つい幸こめが 同 下社こ日之七 あ初出て年巨 貧るか 、靈国やのにれて行 ら説とそを千山 るは 乏歴っ堅ののっで大に單き 第人 生 も月て輯 鬮 史 た 田 道 爲 て あ 過 維 純 ま をはの承四 五吉 前 、日け十 の 三 一 号 田 のをの三で・呉りなれ・す の `五 何有で千も世れまく依極ま 六 回 先 とせ私の 発 格 ع 直 な行氏 百のづ のすす穂あのます果るめい をねど報以号 話 書ばも導ってに `発 とるが氏る爲い °たのてが 休 いなのも今達。集行刊 区社、隠かにか即しみ簡

い 健 善 上 所 次 成 新 か ら 地 で み も け 味 即 手 卆 そ 社 な 穏 鈍 ま て とな良に謂にを聞す、方すや持れ乾ち前直し屋い健のすは 思るな於斈新強をこど新。す続ど燥そ味にてとや主私 い新るて校聞化つとう聞新いしもにの噌申事設う義が此説 ま聞家有教としくのかに聞新た、なーなし情備にと微の欄 すと庭益育いてり出御さ社聞く余るつが上がは 、カ思の しになをふ、た来気う員、、に弊はらげ分少社松な出埋 て於ら助も年いなづいがそ又御を教紀てっし中本此深草 從てぬ成の中といきふ怖れ持無伴導南公ては諸前のきに `もすを無思新の傾持で続理ひもは約来何子社一新採 と親のるも休ひ聞廉向てゐせなま批善致まとと長小聞用 て子及外っ刊ま、はがしてね御す評いししかもの紙のさ 、とをすつ御あたもば願。も新てたせ同聲を責れ も対び 、新教断。ま斟りりっなひこ穏聞置らね心望 當し有聞育行そり酌ま、とりをの健だき、ば協と今者り 留て害自的せの生なす敬品ませ点中とた経な力実直と 意面ならにねた活くま遠位せぬ大正いく営りし力ぐな三 しをる社やばめの御いさのぬ、ひでふ存者まてをにっ大 、赧も会りなに必申かれあ。御にあ世じとせ進以どた節 老らの教度りは需聞。たるそ迷反る評ましんみてうこの 練めを育いま社品戴私り新し惑省とにすてが度 `すと奉 °私 `い高るは祝 なな紙機もせの、き不し聞てを歩いは るい面関のん機:た肖てに進御要ふ、 の先とめこ 記でかたで °構:くなはせん掛し点そ 特づ思らと私辞 者読らるす此を心 `が新ねでけまへこ に慎ふれもとを 。の改のそら聞ばも申すこに 努重だたでし書 配る除と教点め爲し躬がなっさぐれニ 力にけ新きてか し新すを育今、のてを厭りとぬ。はつ し考で聞まはさ て聞る具的折質米ど以がまくとーーのゐを謂現に角物のこてらせ、いつ面意 て究あ紙せ當れ 実しりとん然て 現徐まし。の ま要ですと研に飯の綱れぬ大ふはに味 す 件 あ る い ^究 も と ど 紀 疎 ° 衆 点 経 於 が し々すて先行得 が と り し ふ ^中 量 し ん 粛 ん 即 に ° 済 て あ たに。のづき意 、こで的てな正ぜち近此的平る いや差品/方に 尚しし消とあに御家のら大づのに凡や とら當位 ー ま て 極 は ^り も 役 庭 範 れ 衆 き 伝 社 單 う 思しりと鈴すっ 、的積 ^ま 社 に で を ま 化 、統 は 調 に ふて此信木がた 努 °少に極す中立も示すと大は相に思 点戴の用社 各つ、し。い衆ど當なひ 力本なは的 をき荒を長素出 部や毎ま今ふにこ苦りま 、ま廃失以よも 致紙く教に のう日す日こ親まし、す 茲すせ墜来りあ しはと化は

編な缺かのとしでい無。

に。るしの魯り

た穏もの

+

五 湯 先 御 遺 業 彰

゛で 。熱た卆御て 、の親 つ続斈も 考本ら 究願れ 院寺た 斈 文 生 孝 故 命寮湯 ぜ・川 ら佛 淨 れ教暢 て高師 蘊等は 奥中明 を辛治 極を十 む 経 四 るて年 こ 、六 と明月 三治十 年 三 八 `十日 四四和 十年田

法っも村年いそ年高村常 にた来の少との三輪に盤 た先のい頃月佛呱義 る而り輩斈ふ和業教々塾 のも加の童父田全大のの 外彼は徳を兄地く斈声生 な等る風相が方就にをみ くはとを手少でり入あの 任共慕にくはてりげ親 從意にふ英な米飯三 、て語か国郷十和あ つの て斈高来のつ渡さ七田り 時科等り手た航れ年 間を普斈ほ と区通ぶど遊がの業坊の 労々斈者き斈旺で カにのがをを盛あ引小で を修修次始卆で 習得第めへ、たき・あ しをにらて之 る 望増れ飯に こそむ加たっ伴 。たふ とこもし 夥にの 、温ば自 し統がと恭か然 く一多か寛りの ŧ くく厚の必 師連 す玉湯要 は絡そるの川上 早もの程如氏 晨な數にくは児 衾いが渡至請章 をか遙米誠はを 蹴らに志熱れし 前望烈るて て個者で火ま英 起人をなのゝ語 ち的超い如にを `対ゆーき ` 斈 。こば 深座る般 夜教に青此れせ 万授至年のらた

和 + + 月 廿 八 日 紀 南 新 聞 所

昭

き

を諸他め 段らにはまさたび 、亘責すず材和 併

お御さ負斈るれれ取 わ願せは校こるも材 びひ 申申茶て営に共庁範 し山戴に依に種囲 上上太き多っ、がで げげー てま郎從を 居すを然極本出にま °編通め紙身なす ま尚輯りてをのっが す時主雜ゐし先て 節任賀まて輩ゐ只 柄 • 別田次外土はすの し端郎 て金 多藏総方郷 忙を務面と異 二〜を印とにの郷と信 年完極刷し関連にも網 め主て係絡活 て任 ゐと外も関さ活実 ŧ すて・てらつ会て の一編ゐしゝ⌒ゐ で切輯まめあ特ま 歳任会のば方実ん 末せ計でなの業の 年て・ 始ゐ印社ぬ静ご 缺ま刷のとをの地 礼 す 各 経 信 洩 活 元 のか部営じらき及

て分てだ尚速を山次

茲宜関け私報取のぎ

に敷輿をはす入そに

し経とと官の 、忙て郷中あ 土心り 勢す郷をま今 `とじがと もろ つ诵 を機躍と充 し交ったれ社し を・すねるにせ `ら動ので

せ何っ任。に料歌

格 そ な 功 あ ・ 顧 八 改 の 係 奨 ま 大 い 方 以 長 十 私 誠 績 ね 状 小 籟 そのげ言り苦れ日善実者勵た正く篤て兼四塾な擧ら況斈靜 の も な 令 の 節 ば 京 し 現 と 金 大 よ ら 志 一 教 年 と る ら れ を 校 の も の る 色 ま よ 創 都 更 を 相 を 正 り か 家 時 師 十 し 後 ぬ る 察 卆 刻 `援かこし業に ` 立 に に 容 謀 贈 十 昭 の に を と ニ ので業をゝ であ績却に至以於大さりら四和拡よ凌な月之のらと ありよけ修險来てひず、れ年に築るがら其に下、に他にる 、本た四亘を頼ねれの常に今な郷対ま ・て飾至二急に 、せ素十逝爲断塾。月り加母ばた筋盤 `少っにすで た常戦 。に義坊した活る 盤歴ひず自有せす続のこ大和へ子な あ盤よた・ら餘らとし使れ阪歌た講らこ手塾舎く 。躍適几 > 若 `す糊持星れこて命よ毎山もをぬの続とを組併せ當案 黎 の そ ら 塗 し 霜 た ろ 今 既 り 日 縣 の 設 有 頃 き 名 拡 織 し ん な を 明にれ自せてののあ日に先新及がけ様来しづ大的如とる離 のゆこらず隠長でらに終大聞び、、でたてけし・上し中る 日るそ信人忍きあん至れ正社和空大、り、たて計のた等 高ぎ献ずに自をるとっる十長歌。日正教孝公。一画教雄教の したの一本山?見元育ぶ然時教的授心育餘 精な身る対重 て。故年山縣?る年上者私に室・法を機暇 神き的所し・道 介塾どの・不の かを縣彦よ処新の益立明を能で抑関な をのこ大世屈爲 圖く以立一りのに不々学治つ率はへがき 啓魂ろ道に不に らてて日氏、塾塾便増校四く的健てな有 ず時閉高よ功舎舎不加令十りに康家い様 発 · か を 対 撓 た も 勢 鎖 中 り 績 で を 利 し に ー ` や 上 に の で し塾献堅し宣ゞ 二のし多金をあ建云、よ年中る堪止であ の身くて伝ー 豎推や校三認る築ふ本る十斈必へま 開精そ踏術せ筋 `っ 拓神のみ策ずに の移うの百め しべ堂塾月校要得り有た しこもしを・進 冒とと設圓ら `かの設之にをな `れ てそのめ弄広ま す地し立 そら一立を準痛い専の師 `はでてせ告れ のざ半の當拠感のら青は と方たさ木て 畢、あ進ずせた このがれ村表 後るを認塾ししみ郷年此 `る平彰 生即りま・ず ろ実 生も劃可のてたな黨がの 徒のしを濫高 倦ち 、れ權 、貴 と情周こ右さ °ら後志実 ま師犠た謀たく なに囲と衛れ のがて得觴等そず進を情 ゜をゞも 増あ臨ると普こ さの牲 り応のに門る せ崇的涙用あゆ `じ事な氏こ 加っ時とす通で過発げ鑑 昭、情っよと 給高どぐひりか にた教共る教地労の得み 。室に °育方の爲な は偉こまずのし 和漸はたり前 伴 ざ大ろし、まい 八次容とも後 ひそに、超を有割にい旦 、こ充師ゑ授志合身地は りなかく素ゝ意 年施易き同三 七設に、額回 しる犠もよを気 更でてはてくのにを方當 こ人牲けり・よ 月をそ関の。 に地、塾四る熱実委の時 幾 に 慰 申 如 あ 明 中 か カ て 方 て つ 商 昭 日 に 思 長 塾 慰 も こ に の 総 を 訓 IJ 立大 る地ひす議所限度 る を以 IJ ഗ と以の 幸 て道此 たの き 大あ 塾る経御 渦 基 のこ 営 。本 更 لح 惨 生を 沮に 発思の会 て仰 や立万展ひ御 遺 こ業 駭 神造力のを慨々る に内に成邁確擁愧 す進信護転得 る すの支々た こ る下持切も風 ۲ こに し な の格 とハて る 月 つ そ六更の力其 たの日正が未等 手 追 伸 あだ夙 段悼展 る鴟に と会 を 恩先 を画せの生 し て奉 すめ万に は修 る て 差すこはに 當 ع る 微 りとが弱ひ其 後共英な ま 継に靈がつ薫 をらる陶 塾

如のゐゝ業和高時ふに友め力と浴大 てん上輿 るあにの地代に適 の 望のる志痛方の更材会遺限せて でもし す 趣に 感に趨生 副 あのて事於向と擁致に も実ふるももとけとい立の副根叱 べが少手 さ 現 を な近れ中方発 < あ 新 尚 くにて等の展 る 塾 塾 こな適る教実と共 長の る育情いに のい當 機にふ 0 な の施 上 と前るそ関適 経 設 ŧ 教れの応 上 ŧ 塾 そ長養が分す塾金 にに 期劃のは を爲布る設二 教こ 受にを 待期 うの円に けは按 的 7 改精に得 るずに精を協 れ善 神 鑑 る る に充 とみ所 備実 特るが他 `容立 ふを色所な郡商と脚 業形 し る加 いへ 爲通斈式 IJ 、に斈校をそに 味ては すの改のな にほざ既 るにそるな善誇 おし のもいし いい範幾 る こ充 囲 分 望の ベ 本に商みがと実 き 鋭会於業 を少がす伝 意はて的達な一る統 基万 科 し < 大に を 本場時目得な 缺あ失 金一代をない陥 るは の致の採いば لح な 造の要擇のか見而い 成議 求せ を りらもで とら慨かれ方 努以地れき 今 徐

る 日 産 くせ の階 日 級 及 否 び教 大そ育 きれ く以今で い下一 への際 ば一時 `般代 明子化 日弟し のの 国 慶 地 運福方 ので化 源あし を IJ 清 実 日 < 高 化 大衆 正 < 化 及 の 強 し レ < ベ • 徹 ルを 底 大 き さ 昂 < せ める 培 れ ば わ 所 け そ 以 で の れ ŧ 道 は あ で 洵 IJ ŧ に

上 める上 もてばげ趣 意かま 願義 IJ す を い深で 御 たきな幸 高 御 くに 諒 ま 貢 御 御 下 す献淨厚さ と財志い 相はをま 成永忝し りにふて ま本 す事ま此 る業すの ゃ をれ場 う通ば合 存 じ 何 じてそ卆 上社れ げ会は まに啻 御 す活に 同 き 塾 情 何 の لح 分 地 精 御 宜方神 賛 のを 助 く爲助 を . 長 仰 高 国 し ぎ た 配家 の創 < 御爲立 者 切 協 . 賛育のに の英英御 程の靈願 を爲をひ

わ 参致(考よ本 れ ځ b な推は の す 指 発 表 標 年 月 日 は 塾 建 長 就 日 任 後 間 ŧ の な き 頃 即 ち 昭 和 八 年 八めに 月

•

•

り稿

察湯

니川

て先

恐御

ら遺

く業

森 顯

先 彰

生 趣

の意

も書

のの

と冒

信頭

ずに

る掲

がげ

故ら

にれ

敢た

える

ても

収の

たし

りて

常名

昭盤な

和校し

史 九

の然 年

畧 共

を文

語 章

りの あ

て格

大 調

に筆

頃

或

は

の 慨れ

ŧ

ത

し V .

生

中校こいゐこれす敗 のてるのる つ 中に 世重につ IJ 本 のいあれ気は 中 つ 今 を て滔け新 明使農 Þ る命 業 لح て < لح を し 暮 は 営 て ま 想 ら何む闇 つの しか人に て ŧ 易 人走 둜 < ふは り正 す ま つ 義 る で眼り 道い こ も前 あ 徳 は لح る を なに で こ < 差 顧 あ ع 泊 ず 平 る 生 っは物和 産た が国 増食まな家 強 糧 こいの ۲ にの 建 よ生に何設 つ産浅がを て者 ま無急 ع しい 玉 いでつ 民 し こ 生て 7 ۲ 活 重 そ あ にぃの のる 極 安 生 み 定 活 で が国 感 使 あ不民 を 命 る 輿を 安 ഗ 帶 に ^ 多 び 襲 < 引て はは

規 定 秋 は 校 Ξ 省の 令 間 同 に で に 立 基 あ つ る い農 て 業 出斈 す 来 校 わたの ち中 使 命 実 ŧ 業 亦 斈 極 校 め で て あ 重 りい 0 入此 学 മ 資 斈 格校 は 教 中 科 等 書 斈 校 卆 令 業 後 勅 の 令 資 格 実 等 は業 斈

斈 修 業 年 限 定

盤 農 業 学 校 級 園農 の 藝業 科科科 五五 五五 〇〇員 名名 五五亭 が 斈斈 級 級級数 業 斈 進

る

地てが力的斈 目持には 的 とは卆 な完 あ り成後 る て教更 実育に 際 で上 農 業 斈 に校 斈 挺卆校 身業に す と進 共 る む 〜 に の ーが 而 も人本 前体 村ので に社あ 於 会 る け人 ع る 指な農 導 IJ 者 と日校 な本は IJ 再上 中建級 堅の多 と 礎 校 な石へ ると ŧ な 人りめ を . つ縁が < の る下原

が農さのの則中 ٦ ħ れ奪 かで て ら あ零 の 細 が化村 とは 農い 復 ふ 業 員 ٦ 経 軍 ع 営 とが人 機起 ゃ 失 る 械 業 0 エ 者 業 そ の ع の 皈 を対 郷 結 策 な 合 ع どに し て ょ 農開 つ 工 墾 て、 一事 体 業 を の 文や が る 化 非 村 ۲ 常 建か に 設 増 にい し 向ろ て つ 来 て る 進 の 爲 むこ に 可と

学行面い 、思た最 もづれ工有 。べのま向 時 に知請つ校 しっないと ててのたし て 志たる斈進 校み と方 いも っ たこ やの う線 なに 斈 沿 校ふ にて

ででをわわしめふう進こたれよれと今成工き 薄か校ゞてへ・ を くたべ歩 しるに腹人きみと たとしに々だ まわてははと でれ既め にて先は農 玉 その民ら右る多力 のは多ほに `校 う述こ 親 や自に 兄分入ったこたさ 学孔やと地れ 弟に に楽し子うは方 しにたはな今のゐ 。。 かこは産 て志 だれと もし か十を局と農 τ 命 ら有先の結業 令 入 孔五づ要び多 だ斈 子 し か ょ らた IJ ع ŧ も子賞で産 いの 早 にいあ ふで < 理は 斈 子すい。 な で < 志 とそ わ し いし が親 た 子 ゃ はて ゃ うれ次 を兄 デ た に 斈 姉 0 校に 述 あ 。 る わべ へ勸 ゕ゙゙゙゙゙゙゙れ 入め れら ~、わこ

れはかうとああ行ががっつらなめのま指くはが日っ業だ りなでりりひ校校かか/朝る孝でれ考七ら入て方と \ 訓のりま さる横敬みは校・へ腰ならへあ入て八よしくにふ と押けがの神な「訓はる屁理一のる斈み歳 っこっ由つ入 道崇其縱を も等ふ合いこ徳祖の横頭きとぴで行學 こひこれと盡徳一にりだり `っに 0 児校とへとがは忠を徳入志 腰入て し 童ににしが今隣孝一」れを王で斈や T と入思合続迄人養にで 立陽はしら ŧ 学をひ々割・はすあ之て明駄た う をゝ も目もか本 し致窓と合他云る る 0 自今志だの ? 當 ・もと簡らの立 が に いらば汽てろ社更を単の時た今 多よ 自 な車来そ介ないに信局づこいそら らにたかのりふい念をんそやの斈 `のふと正ば斈う斈 る他さ々子でとし視舵にに校志 と人れを孫あ縱てしな志思で し いは勝敬のるの進 きさふす て 。道ま自船ね 。ベ入 ふどでひた あ合め縱徳ねらのば併 っひにのとばの如なしたし ・な使しぬ既かた もた愛良道 しい徳横ら命と 。にら人 まいだ合風とのぬとい志斯仕が かふをは道 いっすう方幾 遺 忠 徳 ふゐとしが人 状分例横すのと てはてなあ ŧ 態さへのとーを のる目入し る 。的学にだ にへばつ云語織 を なよ交なふにり 認立をし行ら つけ通が祖含交 識志したかう てれ地り孫まぜ すだっ以うか 来ば獄をにれて る・か上か と立りはと親 たとと固亘る 共志と ` 云いふる斯斯 云が にだ見もふ余 こはっす筋のの ` / 定うやり れぬたる道道道

もそでばやこ らて は中いしな はたさか起に人ふこ なかねら ŧ لح う 呼児 ぶ童 ので では あな るい こ年 れ齢 かに ら於 のて 身は 分高 證等 明一 書年 にと は同 生じ 徒で

ぬ乘

らになあ

っお

。に人

う

い自ら

ふで

ع l1 肩 ゖ 0 ば 生 徒 لح 児 は ٹے う 3 か

義だ生 務 け徒 を 自は 分 自 し で ゃ の い っ 精 わて 神 ゅ の の る け 持 自 るち ば主 かで 自 りあ 習• から 自 進ば 治 • んな でら 自 他ぬ 律 人 ع の自 굸 た律違 っ めと た ・ は 自 世何 発 の事 的 たを 活 めす 動 る が 国に 出 の も 来 た 他 ね め 人 ば にを な 働あ b < て 0 に 責 せ 任 ず を 知 出 り来

Ξ を生突 協 重徒破 力の んにせせ自 なねね律 っぱばの たな な 精 からら神 ら ぬぬを 基 て孝そ調 生校こと 意のに し 気 規 は て に模 木 なは 苦 今 る貧 缺 ょ な 弱 。で 乏 IJ で ŧ ょ ŧ IJ 長 あ 上 ら以 に職 う 上 • は員 に 生不た 從 順 徒 便 Ľ - 不い に 丸 自 ま 少 と由 の 年 な ŧ 時 っあ局 の 人て らを に頑うわ は張がき 親れ 切ば隠 に 何 忍 積 事 自 局 礼 か 重 果 議?成 そ 敢 を られに 尊 ざを国 ら克 び 策 ん服 遂 秩やし行 。てに

致 協 力、 の 玉 難 を 打 開 せ ね ば な ら

ع

Ξ

昭 和 廿 年 四 月 + Ξ 日 常 盤 農 業 斈 校 入 学 式 訓 示

校 縦 横 徳 を

公内商農都祖 辛市国 得 灰 日 変資食燼本 研提運惱住 供?無 供 無 牙手車出家処 議白工父版 会畫絕母 料子半 空 妻 唖 袂 如 獸誇察々夫麻

無 警

專強原喪 念盗 自 黨

吏

暗

白 •

道

義

堕

地

人

加

•

乘 数

閣 無

物

官老満兄山 旦僚幼目弟 河 依枯蕭離 旧渴条散容 泥死被四 情日風囲 鴉実加惨遮痩

田

嘲

ちつれた近 祖根たか頃 強や 物 い う そ 騒 体所にれせ は な あ寧敗 世 るろ戦相 道 لح 度一義い不 口のふ安 に頽一な 云廃大民 へが衝生 本ば敗撃は 在戦に ま さ 来を ŧ 民の結因に 道日果ら 本しう の 徳 に道たが通 徳 根 IJ 於 と 源 必 で て ず い で あ あし る う 扙 もが IJ ŧ 天 そ の 朝 に 困れ何 っだが 缺 陥てけ 父 が来での 盘 あるな ゃ 処く り 対 内は前に 子 藏も首 孫 相 さ つ 義 れと宮を て深様低 ゐくが下 た遠仰せ لح < せ

の即且らめ

此 基 い の て か っ ゐ 又 走 は い を ひ が ア こ と 向 底 か が 風 栄 そ 筋 ゝな構せ をれ道 てにそ内したリでりはず公閑利希はが 。カー戦ぬ我益却己ふよ強 押ひやのつ時とが世さ的がいく しのが兵二のい家務れに外の強 せし入大て隊つ社っのにて偏国 で 社会た利就る し及 会状 慾いたて外 勢狹にてと来国が 除かのはた人 を 君 て巻か下試に家て教へ而軽と 自きら鉄み終族は訓な 視国道 し がいて プいの己中あに にが 横 ど主に りしの自盡重 さ 義な て関分 くがる所も係の親さ さ 根が謂軽対子と が強 公 視 を 其い足徳さ友かの 爲た れ勢一尊れ人ば に力歩重て・ ふに 拍を外運ゐ対がつ 車振へ動た他 < をる出も 。人他す かっれ起勿 لح 人 けてばっ論対の い てゐ他て教社子 終 た人は育会を 0 1= のゐ勅 い ٦ そこた語対つに んのとがに外く 結 な 博 国 • 果社そ愛 ま つ とが会れ衆対れ て に公のがに人な な徳こど及類い自 うぼのと つ のと た頽はもす道いの

。廃一徹と徳ふ繁

点

描

`車へゐメ たる警 つ互 と笛 だ来顔 うへ合 私忌た見 こ の々の 合 う 前 L で < て れ混着 て で 急ふ急微ゐ 乱い に りい苦 る のた 渦 車 速かで笑 う カへ路のちさを内地を特なけ御い を る傍 態に ゆ とに 発 る 避話車分おはのた戦利夢 め米けはの達こど 兵たちべがしっラ て 水のががル乘たと ッ 溜運避うがら 人 卜 を転けが鳴 うす波ホ 徐す切いり とる が -行るれつドしと吐ム ジずかアたニ きに 腰郊 -が人出電 て 去 プか外が のさ 車 つがらの閉乘米れを た急下街つれ兵る待 速はをて ゝはと つ 無に泥歩しばこ 群 論近しいまこれ次集 ーづぶて っそらにに 滴いきゐた足の乘交 のて でる 。一狂ら つ 飛来濡と残本っうて るら さのた لح 沫 後れ容かす人 す さ ら又れかたれにるの る見人ア か かたらニ 7 لح 自人余え人メ 思す動の地るが ら IJ つる車米も人押カ な かてとが兵な達合兵

う 同 L 義 教 雜 玉 じた を義誌 لح < 実 一に光称激例 般っ新せ し を の汝年らく 拾 適号れ戦へ 思 を 想 爭ば 愛 ع 元を き せ し 是 IJ し ょ て れてが 強 神 来な ع < 州たい い 受 清 米 ふ け 潔兵戰 のの爭 入 節 れ 民態に が て と度よ あ ゐ 自に つ る。 る 負はて す 〉極 基 る と度 嘗 督 て教 てに がも道 の 玉 羨儀? 眞 **ഗ** 珠 しの 玉 がく頽 湾 民 攻は 同感廃 撃っ じ 胞 し よさた に IJ 際ス `せ我 省るが し チ みも国 日 ャ 本 てのの ン 側 恥が現 で かあ状 のな ると < 比 人て < は東較 の_も 兵 な洋し

ア本道びをつはか精発蹟役もあを缺あがも恥勇は士 る 行 如 一容く ら神達報に話 つ لح こずにて 遺に般れしに出にを告慶 で し か 憾徹日ず た聖発は許書尚た لح る 外 あ しなさ第道やな事 戦 進 な や不 乍し本 良 つ日 いた本 らた人中之を て りな四泗 う し を b 0 戦は軍戰王に国に呼行切か輯川に 意 ぬ性 人 ع 夕 っ `。 だ 故味 美に は感前個爭道対民対号か つ で 陣 高 が 衆ししねてた に す 佛 を をは 述々にをす つ 。こ ٦ る 露刻のの於把るに 今つばゐ 歿 野 教 持 感 はた 戦印通微て握態向次となないんし 山の ° တ ち 日 . ら い は ^な た 奥 平 蓋 方 な す 本 敗す度 つの 。 ゅ の 敵 の 等 1= 人 でまれる に て終そ な が 暴戦のい新るは味院 時のあしたこ の怨 ŧ, 'n 12 関 米の 0 日恩稀方に見親 を るいの しにに実 ¬嫌受 は لح っ こ本讐に三 報際 行 一 に を 怨は性尊 が行み を 人が な物厳ゐしすのをの見千高住差親れに重 底 蒋る程建彼る余麗 にら語 る し別平るはす 及 重 い 介 所 田 設 方 ^所 人 陣 て す 等 び つず なに にな 石は中すにのの敵大る ŧ い道も る 暴 一惜富美 て義の訓をは全随る越例爲味慈がとし 24 点 も何く憲不えで、 はに 令 方悲如いいなは か で っと逆師幸るあ島供をきふこ あを があ IJ での撓大つ津養 て る発 て 言 行は教と らる ゎ ヵ れも ح す 講の乘で義碑す凡がに し つ に ら敗王た 弘 」べ夫あは た支演努的 己 は得 は 日れ か那中力精在がとき愚る正 道 愚 の其 本たと是 °事には神来建いこ痴 邪 もれ う て 人 はれ戒蒋変 、はの立ふとの怨 言 ら軍 のは 勿実め介中及こ を あ日し珍を妄 敵悪 れ神 た 石 大 さ う っ本たし示情を て 自 国武は陸れしてのもいさで親判 激 天し 由 日にたたも政の供れ 眀 断 て せ 晴た z 、治で養 本於や自 た佛 لح す れの め う由そはあ碑も智 て るに方 業 敵 で 同 降実に思れかるがの平視所 なあ L 、想はう〜 0 猛 あ がっ さ 省 す無日の一い和る 嘗のて がらた す国本る道本普般ふ歌 せ て前大由 的 い あ るみ所 るが軍とのの遍国思山慶朝に慈 国人間根陸強民想縣長会 こ悲想癖な がじが め 日際及髪を軍化のの史のでれをのがり 、き豊

い云

ふ

き

は

玉

わ

頭

上

に て

飛 ۲ び

行 う 吾

機

ഗ

音 気

を な

ゐ

る

満

鉄 の

を

再

がも

大

人

北い

鮮気

が

物

لح

と 襟

旅度

ع

し

昭ので樺 であ太 あ る 重 鳥 をを 押占 す有 こす ع る でに あ到 るっ ° t= 正 如 道き はは 蕩 々明 たに り覇 道 覇と 道云 はは やざ がる てを 梗 得 塞な すい る 。覇 日道 本と はは 覇即 道ち で正 敗 道 れの た逆

和 + 五 年 の 御 製

七西 年ひ のが し む つ H か は し て 栄 ゅ か む 世 を ٦ そ い の れ 年 の は じ め に

소 +御 製

っのをに成伯ン獨 た大す御功林ピの こ御 る運を ヘア ヒ峰 つ と心かび祝廻二 ッ Ľ をのらに ۲ 送 ュ し なた 程 戦 し -ラ お `爭 0 IJ ての 1 ほ そ 感は がふ 森 激永當の全の — む ら にく直夜国 中九 堪続員の民の 匹 へくにこの展 0 < なの対と前望年風 いだしでに車七の あその月 次 。て 第 困 中佛 \neg る れ ゃ をに で ۲ 軍 つ < あた ッ之誇於 を は ۲ ŧ, る を示て破 b ラ お の し りへ ح 憾だ 聽 た佛 とき た 代 む 前 Ľ ٦ ら も遊 表 大 L < あばのに戦 മ は 6 し時休にる うた多 君 戦於な ۲ 側 もわ数条て の御のがの約獨 奸嘆が天日に代 が息 皇本調 Ξ 聖 遊 陛 人印 が 明ば ん下もせ 屈 をさなに歓し 掩れ怨は呼め的 ひたを 調 し 買玉 て お 印 聖洵ふ歩ヒま を 徳にや静 ッけ を広 うにトに 世 涜大な當 ラ そ 無 こ直 れ ま辺と室のをコ

薜易せぬにれと徳あ叙 °はか云のるし にばそ先らっ立べ 来 戦 っひ なれづはて体き は らに同 横的かて わ ぬは窓 縱の方を が 先おに道面考盤大 づ互も徳 をへの君 通が横 強な斈の 多しにす調け園 H こと っもなしれに 区 域かわはたば於 に のりれちもなけぁ 同手ら平のら る ら じをの面でぬ多ざ IJ もつ誠的あ 徒 し のなを方 つ今 ŧ どい致面たまわ ഗ もがでれを う で し `のら神 て全 め く 此 校 の ^も 知 い鋭なの訓新 つ 斈 下 意 \neg 日 協て校挺 左 本む 右の力ゐで身 に道すなは奉 設 がを るかこ公に っ踏 لح っれ _ こたもは画 ちみ Ш ろ 。徹すす田 りは づがこ底な ع る あのしはた順 組さ な ら点て ちめ でいねをゐ縱の やば深なの行 う な省か筋 き づに らし つ 道 方 、は 出せぬ熟た 席ね 0 盧 0 謂 をば さは如 そー うば何 勵なの番 行ら爲こか道に

文 軽 ね 天 行 健 君 子 以 自 彊 不 息 あ IJ

/\

公 人 心 有 息 之 怠 輿 上 天 地 之 化 不 相 似 لح LI わ れ た

لح

S 徳横何わ 度 の一にれ 有 徳 ŧ b い 機 な の を ら 斈 的 宣 ぬ び 結 合 L ഗ 体 れ 戦 ŧ لح ら 時 し そ の て 中 れ 縱 建 で 設 な 力 の は 強 連 < ٦ 絡 < て 7 は 発 を か 足中 な ら 心 ら し 出 ع な 発 し け せ た 昨 れ ね 報 ば 今 ば な 玉 ഗ な b 專 ゃ ら う ぬ を ゅ。 1= 解 どう 体 出 か L 頭 ょ て「 か 没 う ے な 頭 校 の 常 意 友 会 趣 な 味 旨 で ら _ を ぬ ٦ ょ ع 斈 ۷ < し、 徒 に 了 が 新 自 解 校 お し 今 ほ 訓 て 縱 < を ŧ 横 て b — 縱 ŧ

昭 和 + 年 月 + 日

八 日 本 玉 憲 法 ഗ 公

精す 和ゑき け ٦ る る ふ の 本 ٦ لح 憧 文 大 に 憬 لح 法 な لح は 典 ち る 理 よに 想 久 Ξ ع し わ つ れ を き れた を 掲 b 新 亘は げ 憲 世 て つ 歡 法 考 救 ゐ て 呼 ഗ る 玉 軍 す 公 の 閥 る 福 や官 さ 音 が僚 わ れ ع て の れ い 六 專 ゎ ヶ 制 は 日 ず 月 لح 期 だ た圧 待 て つ迫 す 再 ع 何 ع る ح 1= H い わ苦 六 本 は れ L 百 う。 ら ん 五 政 はだ + 治 わ 字 組 のれに 織 ら 余 لح 法 を る 運 の解 前 条 放 文 の と指 章 し ഗ 標 下 自 百 لح 由 条 な 生 ځ を る 活平越べ

の つ て 方 し • 神 ŧ < ے 行 を き 体 明 れ 方 得 治 を を す 憲 読 る 宣 法 2 言 上 の 審 しに 改 10 ŧ ٦ 正 ځ れ済 肝 主 둜 を 要 權 ふ で 在 あ ょ ^ 玉 る IJ て 0 も見 民 る 即 ع ち 寧 建 ろ 先 前 ے づ 全 で < の 新 憲 前 文し 法 < は 於で そ き て の こ た 内 れと 容 かい か らふ 6 の方 い 日が つ 本 適 て 及 当 ŧ 當 . あ 日 そ IJ 本 の 体 玉 民 新 系 の憲 か あ法い

2. 1. こ 外 内 ع は は ど こ の ٦ れ い ま か ゃ ら で う ŧ 玉 に 会 平 す 和 中 心 主 主 義 義 で で 行 行 < **<** ∘ 世 何 介 事 の ŧ 諸 国会に 玉 民と協 於 け 調 る し 代 て、 表 者 再 を び 通 戦 じ、 爭 の 公 ゎ 明 ざ 正 は 大 V に を 堂 V Þ き ع 起こ ゃ る す ゃ う な

い 固 1.1 決 心 の ŧ ع 象に つ て 章そ 第の 実 条 現 12 12 努 め る Ξ ع を 宣 誓 し た 次 の 本 文 は ځ う か

天 は 玉 民 の 統 合 **ത** 0 第

天 皇 は 日 本 玉 ഗ 徴 で あ り、 日 本 玉 民 統 合 の 象 徴 で あ つ て、 ٦ の 地 位 は 主 權 の 存 す る 日 本 玉 民 の 総 意 に

基

`でやをわ体っず迷まれすに `棄の がでるをもが貴に合てっ集 多は:補あい族しが、てす職民 くあ てっ: はてして肉こおで 駄はとゆもとけあこ龍行・ 目な云くあはるるんのひ大をた でらはだりか憲 あぬれけ・く法こみに国な定方 るのたの骨し委のじか改

` す し の た 安 会 お 信 閣 か 第

填りっ院たあ
「)

。で 。健もき員こめくにを

民での強と悲革た權

° 藏 るわるるで

た健じりスてもんじ

ろる信のうががの

こな又そやわ論者った

民るにな

のらこも体を

いそをでガ瀝会

主

と康

あう康あれ長となれつ認天わ

るまなるな)は敗て、い証皇れ

°いるといが国戦天ですはら

主たカこが、体とつのる国国

權とをろ、其のな一權と事民

在へそのもの変っ大能かにの

のあ中靭/痛でわず有栄すの ヽ なあけ ∈

政わす生が心とあっれ授爲

とはとのは被議らふこるとせ

っの信あラしでそにかばれ

`の ¬ 激 な っ

治れるき国境てる法な輿

L

`かをいすた

な

っ:

し

`ひ氏やすあにを

・たにのり^謂だとや

、袞けか權徴

。な神、赦規お

を・関心

せ典る中

らを行心

みととへら

で

及大示し国ふしがき新今戰で力じ傷な国あ乘御今そ布明と 、現憲ま争 さいがこた 務 理 う 人 立 と の ど は 法 で **の** 黴 あ う 回 れ に た る 惑 で も 。のちをでんれはは放菌ると復もはが機を不内と とをさ道行決あなは個 りいうにくめるに戰人余・や悪る・でし倍のかのの・二天 。不 爭 の り 個 う 疫 も そ な か 能 な け 徒 助 国 条 きだす生とた めいれきい。こ幸を權に人なのののくに成い申が言会 でてば・ふ併のをし利自尊国黴でひ ` ゐ き か の し 上 も な 義 分 重 民 菌 あ ゞ 血 ゞ ⌒ う 場 っ よ 招 そ 及 第るっほは今はたい務と 十のとり `の末らととい 一で心高夢と長すいいふ 条あかいでこくかふふこ にるら文あろ平とこ こと °各化り世和いととを す国を空介のふにを自 なは打想の続こ定 分 ` 建 で 何 く と め 国 な ち日てあ処こをてとが 憲本ゝるにと しら 法の平ともを今わて考 第や和いこ切度け十へ り日ふの望こな分ず 章方本もやすそし認 はををのうる知にめ国 戦見つがを 。り人ると 爭てくあとこぬ命やし のわりるりのいのうて 放れ上かき切た捨にも 棄にげもめ望かて取考 ° 倣 、知はにららきへ `れめな 第ふこれな基 三だのないい戰るたさ 章ろ姿い。て爭機 。す はうを 。武戦を会そぎ 。世け装争さののた 民と介れな放け多一 のい各どく棄よいつそ 權ふ国もしとう戰のこ 利遠に正ていと爭大で

ح 民 出は べ 本 人 し て 亨 有 現 在 及 げ ら 来 玉 輿 の 法 れ が 民 に 保 障 す る 基 本 的 人 權 は 侵 す

的あ幸 追 ま 求 + 機いに条国に よに民は り於のす 栄 て權べ 授政す利て 輿治べに国 に上てつ民 は ・ 国 い は 何経民て個 等済はは人 ٤ ` の上法 特・の公 し 權社下共て も会での尊 伴生平福重 は活等祉 な上でにれ 差あ叛 い る こ別るし ۲ さこな れとい を なな 限 つ い人り IJ たこ種最 き ٠ ع 大め が信限 規条に生 定・尊命 さ性 重 れ別さ 自 れ由 華社る及 族会とび

関

典

に

るれこ議会民度 を で 院 中 は は 分 、閣内がめ擧両主權め又たに第 会理にいがいをで最れ門十 °、ふ以ゆ高な地四 の種としと ` () 豫 • が 算信最両ふ に条も院建 つ・大と前 い性切もか て別な全ら は・役国 衆社割民国 議会をを会 院的も代は が身つ表国 先分とす權 議・いる の 權門ふと最 を地こ ٦ 高 も・とろ機 つ教にの関 こ育な選と ٤. つ 擧 な 今財たさ つ ま 0 産 れた で・選た の収擧議そ 通入人員 の にので 構 よ資組成 つ格織は てはさ衆 差法れ議 別律る院 さで 及

が任こて司司は衆こかつ内行れ是そ参国国制 多命と良法法総議とらい閣政 けすが心權權辞院に指ては權こ でな名は内はと定選の心国認 っし 任たて国総閣なると院義のらは第対 案 のそ天に大あ 否の皇対臣り国人こてく 決過がしへ 半之て首 • 不数を連相 信は任帶 $\overline{}$ 任議命責及 案員す任び の 〜 るを其可 。こ 4の こ負の 可 決首とふ他 さ相に の れ及な第国 たそっ五 務 とのた章大 き 他 +のそ六を 日国の十以 以務他五て 内大国.組 に臣務六織 衆は相条す 議文はしる △ 脱民 首 が 院かで 相首 ∵﹖な が 相 そ がけ任はの 解れ命国行 散ばし会政 せな が權 ねら罷議の ばな免員行 内いすの使 。る中に 閣

• 化 とが く 六

れるらののの職 で命獨一だ信 あず立元 免六る と擁 \sim zこ護特 れ がのろと別 意にい裁 そ味從ふ判 七のにひこ所 + 任於 條命て獨はな ∵。後 最 立 衆高獨法な 特議裁歩治る 別院判の国 裁議所立と第 判員の場し 所総長に て が選官於 死 な擧はて守 くの首職す なと相權 るきとを き 結 国 相 行 最 果民並は後 ーのんし の 切審でめ の杳 る 線 法に内こで 律付閣とあ しのはる 命 指 令 不 名 最 裁 信でも判 規任天大官 則投皇切と 又票がなし

す 閂 が あ るか 否 か ŧ 裁 判 所 で 判 定 す るこ ع に な る 第 八 十一条)。 ٦ れ は 玉 会 至 上 主

- 0 玉 れ 法 法 選 方 室 家 は改學公費財対政 国正に共用政す処 ŧ は 会 て の 議 玉 会 を の 経 決 な 議 け に れ ŧ ع な づ b < ぬ 第 第 七 八 + 皇 室 財 産 算先議 は 国 に属す 權は 衆議 る (第 院に 八 ある + 八 条
 - 0 憲接地皇 よ鳳 る 体 国 に は 事決 機 関 議 会 こば を 設 け る **ハ章)。** ・ハ条)。 公共 專 体 の 長 及 び 議 員 は 住 民 の 直
 - 0 第 九 章
 - のは で あ + 章

0

を 六 尊 重 す 最 国 施に行い 人る 權 と第 玉 章 際 条 約 の 尊 重 が 大 切 で あ

る

0 ヶ 月 行 第 +

昭 和 = + 年 + 月 Ξ 日

九 校 学 校 の 指 標

/ 然 縱 あ渾 る 然 の横 の話 体 性 0 徳 縱能道 横に徳 鑑 ŧ 徳 み同 今 と と す の む た と と ま で は をみ縱 た と思 じの きふめ糸 てなが そお敗強 こ互戦 過 にいの ぎ 徳に原 器侮因横 ŧ 成 ら 糸 就ずこ が ۷ 弱 の • 大侵に過 さ 道 あ ぎ が ず るた あ ع 気 IJ お 織 の づ ら かれ 萬 人 た ね の のば布 則立なに る場ら 弱 べにぬ味 き於 の 天て縱あ 地 協 لح つ 力横た の ځ 公 の 道 致 そ は が 、れ 當

信 條 わ れ の 信 條

縱 横 徳 先 づ 出 席 $\overline{}$ 自 彊 不 息 不 断 勤 行 斈 徒 の 本 領

五四三二 明人日 るに課 くはは 手 強 親 礼 切に . 始 や物 IJ にかは礼 口に大に 切終 る 明博 性愛公 及 序 頓 積 衆 良 俗 • 性公へ 徳の 格順 守)・・・・・・ 応 平 主和由 人主のの 義根前 の底提

食 前 に < 食 和 后 清 公 潔 整 . 局 修 繕 協 調 性)・・・・ 先 心 <u>)</u> 文 民 化 ഗ た し 基 調 な 4

格 五 則 作 訓 農 銘

は 鍬 • を 食 能 V 成二 夜 土 ~ - 〈 糞 . 鍬 を 水を 食 ふ 掬 **(手も** せ ず んば ちよ 善 くする 農 ع 成ること 心 持 能

は

ず

不不不 - 断筋脈- ½掬 : 糞 不 水 土 能 成 善 ± I 筋善は 脈 農 を 断 たず んば 善 エと な ること 能 は ず

背 不 能 成 善 賈 肩 背 を 傷 めずんば 善 賈 ع -成 るこ と能 は ず)

太 宰 純

Ξ

鍬

レ禾

日

レ

午

誰

識

盤

中

喰

뱜

苦

誰

か

ら

 λ

盤

粒

뱜 は

辛 滴

々 汗

る 苦

禾

下

の

土

粒 汗 々 滴 禾 辛下 土 $\overline{}$ 禾 を 知 鋤 き て 日 真 中午 劔 のに精 喰 當 進 る

李 感 謝 報 徳

見 ず し τ 草 を 取 IJ 手 廻 し ょ < す る 心 ŧ

ち

下 中 ははは 草草 を 見 τ を ع IJ

四

上

農

草

を

を . 見 τ を とら ず 古 語 計 画 準 備

木農農 の 前 を ぬ草草 げ 後 世 畏 る ベ 敬 虔 真 摰

五

御 製 災 地 を 視 察 た る 折 に

戰 の わ ざ は Ŋ う け し 玉 民 を 思 ふ 心 に い で た ち て 来 ぬ

国わ ざ を おは こひ を す もわ ع す ゐれ をて 見わ えれ てを な出 りむ はか ひふ にる い民 その し心 むを 民う

昭 和 = + 年 + 月三十 のれ 姿 たと 日 のぞ 地 も思 方 長 官 拝 謁 の 控 室 1= 掲 示 せ

ら

る

し

しふ

職 員 條 則

教 類

生しふ否 論 徒 ての の居 で天 個 ら あ 賦 公 るの 性れ 靈 を た 優 篇 見 や湯劣に 究 う川 を で静問 め え て 暢はた 有師ず 孔 こ数の 子 れ無 教 善 の と類 育 類 取 と精 もで 組相神悪 ま通は類 ね ず大もは る乘差 ば 0 佛 別 な ら何教せ ぬににず し 則 精 て っす 神 もたべ を もて 教 のを徴 ഗ で包 す 対 一 容 る 照衆し は生 来 生無する 徒辺べ者 で誓ては あ願を拒 る度薫 ま 。 **ட** 化 ず そのし の体よ環 個 現 う境 々をと の

の期い可

لح 省 \sqsubseteq

(1) \neg と実缺 を科陥 の 職反 員 は 農 場 作 物 لح 取 組 む ے ع は 心 得 て ゐ る が 肝 心 の 対 照 $\overline{}$ 生 徒 $\overline{}$ لح 取 組 む

٦

等 職視 し た

(2) 弟そし 年 少 とが教体個いの 性か教閑 環 要 員 境ははて を生教ゐ 認徒材 識との すの研 る不 究 断に との 熱 。 接 心 触 で あ そ る れ が に ょ ے つ れ てま た 生 徒 لح 取 組 む こ ع を 閑 却 し て 居 IJ は

لح こ

倶 斈

農師 缺の場 即一のな あ場 教 場俱 即行 農 場 場 Þ 如 の 境 地 そ ٦ 1= 師 弟 倶 に 行 じ つ ۷ 倶 1= 斈 す る そ ٦ に 我

陥道 る

反 省

(1) ¬等 い教 膱 員 行は ず そ る の ع 担 い任 ふの ے 教 と科 を目 閑の 却 教 し授 に 実 編 習 し 作 業 そ にれ 協を 力 以 て な能 い事 لح 了 いれ ふ IJ 弊 ع がす あ る IJ 傾 は向 が し

なあ

盤

農

業

学

校

要

徒

て

う

以

の

で

四

斈

校

沿

革

四

明尋西明

• —

+ 李 月 迄 月 年 年 三 年 校現卒八十限番 + 規位業日二三地 月 定置生湯月年所 在 四 В ル田ス暢日員内 直 商小コ師縣一に 宗 業多卜疾知五私僧 事 〇 塾 湯 校跡五森ノ名ヲ川 開淨 丰 転七其得篤常 謙 志 盤 経私ノ 義 院 営 立 青 塾 ヲ斈少と 淨 継校年称 承令並ス 0 拠渡之そ ル米ヲの 私志本自 斈望 校 坊 ト者の ス等濫 常 °続觴 Þ ト寺 来ス和 IJ ° **田** 集入村

ル斈和

資 田

格字

ヲ川十 回彦認 名ノ スにに

斈 昭 昭 昭 校和和和治卒村治 令 十 九 八 四 商年年年十修二 業四度七四業 拠 和 出 淨 九 定 斈 校 廿 改二三太可向 組移三郎ヲ斈 入 • 斈 仝 資 年 格五 尋月 卒 十 • 七 修日 業 文 年 部 限大 四臣 月の 認 • 定可 員ヲ 二得 百テ 名 実 設 業

(2) つ職 た 員 かは [°] 今 要 ま はで 倶 理 行 論 との いロ ふ授 ٦ と即 がち 刻口 心 頭 で 襌 あに る堕 し 農 場 実 習 は 助 手 任 せ ح い ふ 弊 が あ IJ

は

Ξ

• 斈 即 是 行 . 行 斈 如 Þ • 且 古 旦 今

(2)(1) - 行 行 離 ゐ る 現 実

がふはた今師缺即孝し実い べし系まと陥是不な科か しな統で弟と孝二か教 かものを反 っな実遊省 と実 習たく習離 をか . はし 0 連 の喜 _ 趣ば生絡父行 味な徒も兄と といがなの多 信原勤 く指と 念 因 労 摘游 をはを全し 培こ忌くたし 」 避 孝 如 て 所に し校 < あへの IJ と都今の 道は云合日が つ主も し あなて義草 らい語に刈で ねか弊堕り あし 適ら 眀 切ばそ日 `のも な る少爲草か くに刈 計 画 と生と とも徒云 準積を つ 極犠た 備 と 的 牲 式 善 でにに 導なし いて そと居貫 れいりし

は

あ

る

ま

い

昭ば 和な b

ぬ

廿 年 +月 Ξ 日

昭 和 廿 年 + 月 頃

六 彦 年 太 日三

す事昭立 2 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) 0 稲 和 者 仝 葉 年 浅 昭 ・合き 和 · 三郎 中月· 二 十 소 中 日 西 年 三 修和十端 業 男 月 三 年 限湯財 + ヲ 川 專 定員二百一日附認可 日 五龍法 ケ 暢 年 二原盤 ロ五十名トナーのフ得テ農業 可 延 豊 長 次 塾 郎ヲ 定 員 野 立 ル業 。斈 転十森田 換名本端 農増吉三 業 加 科 🧘 瀬 及所戸務 拓謂健 殖 甲 三 科 種 へ 程 経 彦 各度営太 定二母郎 員 昇 体 = と理

昭 和 = 十 ヲ ー 置 年 *う* 一月 三 王 十 制復 日 附 活 認 可 拓 殖 科 ヲ 園 藝 科 変

更

校 規 物敷模

校 舎 地

Ξ 五

運

動

場

二六

八

坪

地 計 画三五 進五〇 行〇一

山畑水設 田定 〇一九中坪坪

町町 反反反 一五九 畝畝畝 _ 歩 九 歩

現 在 **々** 数 郡 市 別

1								•
		商業	"	園藝	"	農業	科	/III/
	計	李校	_	科 一	_	科一	学	777
		四 年	年	年	年	年	年	イマイ マラン
	=			_	+		日	Ī
	_	四四	四八	八	五二	九	高	\ \ \
							西牟	
	=		=				生	
							他	
	=	_	_				府縣	
	=		_		_		=1	
	二 一 五	五	五一	八	<u>т</u>	二 九	計	
		ı			1			1

卒 業

計	常盤商業	常盤義	校	数
	* 孝校	塾	別	
七八七	四五〇	三三七	數	
	四〇		前年度	

実 習 農 場 計 画 書

実 習 場 総 面 積

第

部

業

科

畑水 地 田

総 面

積 畑水町町 地田四

反 一一四五 反町畝畝 步步步步

部

園省

藝略

科

総

面

町

Ξ

反

積

坪 畝 畝

養畜牛畑畑畑温水畑 蚕舎舍地地地室田地

蜜豚五一七

桑蜂舎反反反 - = -鷄畝畝畝六 舎歩歩歩〇五四

養果花蔬

畜 園 園 園

樹卉菜

水

五 畝

田

温温温 室室室

坪 坪 坪

昭 昭 和 校 授 和 料 等

年 ^{年 年} 年

度 _ 六 度 歳っニ授 入円円業養

出豫後園父兄 会 会 費費 年 年

+

五六

円円

室

袁

二 大 大 大 大 大 大 大 十 十

			李	其	歳		
収	査	業	校		入計	歳入	- - - - - -
大〇〇 ¦〇〇	大〇〇 〇〇	_ = - 0	五一〇	五五	〇四六〇『	常	
	件			校	歳出計	歳出	
	四七〇 00	七三三五二二〇〇	二二四八〇〇〇	一〇九五六〇 -00	〇四六〇m	常	
	収入	収入 六〇〇 〇〇 雜 給 二二五〇 査料 一六〇〇 〇〇 物件費 一一四七〇	収入 六〇〇〇〇〇 新件費 一一四七〇 業料 四一三一〇〇〇 謝件費 一一四七〇	雑 収 入 六〇〇 〇〇 雑 給 二二五〇 授 業 料 四一三一〇 〇〇 物 件 費 一一四七〇 校 収 入 四三五一〇 〇〇 俸 給 二二四八〇	雜 収 入 六〇〇〇〇〇 雜 給 二二五〇〇 考 査 料 一六〇〇〇〇 物 件 費 一一四七〇〇〇 授 業 料 四三五一〇〇〇 諸 給 七三三五二〇〇 本財産収入 一五五五〇〇〇 孝 校 費 一〇九五六〇〇	雑 収 入 六〇〇〇〇〇 報 給 二二五〇 考 査 料 一二五五五〇〇 本財産収入 二二四八〇〇八〇八 本財産収入 一二五五五〇〇 本財産収入 本財産収入	雜 収 入 六〇〇〇〇〇 雜 給 二二五〇 考 查 料 一六〇〇〇〇 物 件 費 一一四七〇 授 業 料 四二五一〇〇〇 多 校 費 一〇九五六〇 本財産収入 一五五五〇〇 〇〇 奉 給 二二四八〇 本財産収入 一〇四六〇円 〇〇 泰 校 費 一〇九五六〇 本財産収入 一〇四六〇円 〇〇 泰 校 費 一〇九五六〇 本財産収入 一〇四六〇円 〇〇 泰 校 費 一〇四六〇円 本財産収入 一〇四六〇円 〇〇 泰 校 費 一〇四六〇円 本財産収入 一〇四六〇円 ○〇 泰 校 費 一〇四六〇円 本財産収入 一〇四六〇円 ○〇 泰 校 費 一〇四六〇円 本財産収入 一〇四六〇円 ○〇 泰 校 費 一〇四六〇円 本財産収入 一〇四六〇円 ○○ - - - 本財産収入 一〇四六〇円 ○○ - - - -

十 五

•

湯 JI|

= 0

Ξ

斈

校

医

田

П

秀吉

"

湯川村財

部

九三一

師 ハ 常 徳 寺第十世淨 円

J

嗣

明

治

+

八 年

六

月十

八

日

ヲ 以 テ 誕

生

昭 和

八 年 病

ヲ 得

テ 七

月 八 日 京

湯 Ш 淨 暢 師 恭 淨 頌 暢 碑 لح 常 盤 義 塾

現 在聯

																		職						
,	* ~ ~ ~	" 一六、一二、三一	″ 一一、四、	" = - · - o · -	"二一、四、三〇	" =--==	"二一、四、一二	"一七、三、三一	" = - · - o · -	"一四、三、三一	"二一、九、一	" 二一、 九、一三	"二一、一、八	" = ` 0 ` =	" - O` ≡`≡	昭和 九、一〇、一三	本校就職年月日	員	寄付金収入	歳入計		歳入臨時部	補助金収入	歳
		外語地歴	外語	商業	国語	藝能	園	国語	商業	生物	"	実習	理数	耕種	外国語	理数	担任科目		三一五	三一五			五五〇〇	経常
		教諭	嘱託	教諭	嘱託	教諭	教諭(園藝	嘱託	教諭	教諭(総	"	助手	教諭	"(農業主	"	教諭	職		0 0	0			0 - 0 0	部
j	鲥	 森	望月	前田	山本	花田	主任) 田中	鈴木	下出	務) 芝口	楠山	北裏	亀石豊	任) 片山	榎本	榎本	名氏		設備費	移転改造	歳出計	歳出臨時部	豫 備 費	歳出
	太郎	彬	純一郎	芳 雄	啓藏	成実	敬忠	確然	豊	常楠	知宏	義弘	太郎	隆三	松藏	晴 雄	名		_	_	=			経
	"	和歌山縣	東京都	"	"	"	"	"	"	"	"	"	和歌山縣	愛知縣	"	和歌山縣	本籍		1000:0	〇一五〇	一五〇二〇		五〇〇一〇	常部
	"	内原村茨木	塩屋村南塩屋	" 和 田	和田村和田	松原村田井	和歌山市和田	志賀村志賀	比井崎村阿尾	"	御坊町島	″ 入山	"	和田村和田	御坊町薗	稲原村山口	住		0	0	0		0	
	"	一三四八	五 二 九	五 二 一	一 〇八〇	四 二 二	- 0 三七	三八五一	一六二五	三八六	_ _ =	二七二六	一二九七	一 〇八〇	五〇六	— 八 一	所							

碑海シ廉劣躯寺二徳援周ヤ年都

ヲ龍テ雄ヲヲ務増化ノ到贄高ニ

ヲ輪

大 少

孝 二

ΞШ

七御

+

リ業小

薀

ヲム佛

年 中

リテ

テ

斈

熱

ア 更

幸一雲リニ斈

令 十 志 師 奥

余小日テノ院文

ニニ師執佛ク

ノ者

アテ進坊資ル教

形十拡親力

ミ舎

ヲチモヲ年シモズリ松

認テ

ヲ室

テシ

包ステ春立十青

ツ感テ子テヲアニニ月ヲ亦ヲ本

ル恩昭弟ヲ待ラ十拠十抑烈考願

謀ノ境以大ハ黙三ヲニ魄

児

教礎類テ進塾公

ヲ

教擁テノ

校無シ精孝トシ春

ヲヲノ教ート称中ノ業ヲ

受不信鞭途シス西風成経

ヲ土ノハノ北揚老啓ス十

ニヲ執時大孝男ヲ

シ樹者培以リニ正風子?以師明

一今通井優病煩隣リ後蒙ル四

切代一薫ツズ有ル四へ火究寺

テ度幼々年常留

シに或年卆之郷気ニ斈

ト程盤ル包

ヲシ度義ニム四高

塾失二

和格

家元日等テ飯治

分 或 事 年 二 郷 シ 郷 三

素見斯得トズ礼年坊

ラ 子

遂

寡立而容四築子ラ

先論提ノ築月下

資講ル漸

テクン他ノ壇モ次四ヲ誼尠

多二

日トヲ卒克ハ嚴生フ可教ナ

哀ル百翼ヲ持嘗テ私四ニ

ゲ其皆処シモ日秋校年

出二総他モ雨

容ルー風

ヲ

建ノー

十以克垂

 \Box 1 1

聊

月追多

七力

昭テ巨千生セゲ忙シ

1

シ諸

崇育フクズ至

八 慕 士 ヲ 亦 問 峻 塾 整

ノ偉者身総自ザク

微ナ数補テラルシ

其

有如化實

リ見盤有

ルノ

用ノ

テタヲ常

リ材地

此古

淨 二

語

ク ヲ

ナール

這 穫 終

ノト

ク

百初ファ

抜 念

業 賢

仰ムル献

ヲ哉名

捧

マ等

和ゝ樹二其ズテ

いとさづれ海 、れるに龍 懸つを 一山 上命〉見常 畔 人の黙て盤 の努々はし さ 雄力と莞のと 魂をし爾名や 惜てとをか 上ま精し負な 人れ進ては のなせ ` せ 私 偉からそて塾 業っれれ ょ はたたを朝! 。。打な 今 も昭開眺タチ △ 活 和 か め な 載 昭溌八ぬ大のの 和・年花き愛松 十溌の・い育に 四地初実実にあ 年の夏らの忍や 七躍かぬ二苦か 月進り実顆二れ 七をそも ح + ٠ 日続め何三余ば 七けのと顆年か 週つ病かと ` 1) ゝにし結美生 逮あはてぶしの 夜るか咲をい親 のなか見花謙 でくせての敬 あなよは一院 らう会輪釋 ・心二淨 せ 給結の輪暢 ふば笑と上 たせを咲人 とよもきは はうら出こ

忌

編

者

し

る

す

本 願 寺 監 正 局 長 津 村 雅 常量 篆

盤 義額 塾 友

だ少坊にさのま當けぐ何春な陰行並當と高三翌は歳湯 け年さ甚て背しにた出日湯のにの以時し輪月年近〜川 。発 皈 川 で 陽 重 上 常 て 佛 本 ヘ 村 御 淨 でがんだ師後く皆 取はしがに皈が「しる氏あに役の徳在教科士の坊暢 そまのがる湯と苦寺學大卆六秀村師 く明あ郷首 れすか業が川し斈は 斈 業 才 治 つのを はが、成 、師てを経苦本 四て途長 い 、郷り同を亀余済攻科引 の + 支にう て儀 か今里て郷庇崎儀的三一続 九り多十 で 年持つし ぬ度で飯の護東なに年年き 月 の後いて 押英法 春援た待 はは郷後さ京く余にに佛 師師 し語会 を年 はと 飯をのっ旅東皆の進れ間さ りし入教 を 費海待際のたをれ裕て學高 京 野 郷惜でて ぐ道ちも爲 を に田 ιl °往たな四 あゐ `等 。方 十 三 中 上 裹 てま のても ら つ る をか滞め中返 つ弱時 む い徒ね京に西し此で年十字 くの のずただ て博 は歩て中何氏、のな三七校 の 小を 日れと ろ H 本士辛 何でゐの彼は或間か月年の のさ う 印もんよと飯る中と常時に 寺 精 あた二二年寺精っの十十に一 象亦なし か るだ西面徳はあた て つ は畢縁 し ころ 氏 倒 寺 支 < ゐ 御田 斈 科 生故とて うのを門店てで七四編 なを た ŧ, お真中で師上り 才才入 処 見 徒 監 同 3. 本 西 中 は げ で と へ て で 督 郷 師)) さ とば氏西こるすい暇くはの出の目卆れ入威 IJ ^{_} 師てにいかに氏のか」ふ気れな爲身遊 出業 + ك 0 春二が内寺 とにたくめの斈度 は くこ ·-行わ `東先中卆更 月同原に これの =+ し常の日て湯っけ実京輩は業に 八級あ生 れの若 爺は 日でたれ て盤溢も旅川たではに中寺錦本 さな んか日義る早費師もあ淨長西の衣山 同 恩塾とくにはのる土く和経皈の 才 やっ をの温飯窮甚だ。宗滞男済郷特つ んテ 婆た のあ仝 忘創情 ′。 そ 鎭 在 氏 も す 命 卆 りしだ 引だり が れ立になて云「れ西しは苦るを業 +でた+ 、な以感 しこ以乃 さゐひそで派た 渡のの あだハ = 宗か前激いる難れ明済こ愛くとてち年 門っかし°こさは治広と知`に考東(っけ年 熱山る門つか `に考東へたで らつ内とう目四寺も縣師な察 のた 衰 ゝでをに出十のあ亀もっ院 始 、は打っ度年檀り崎又た學 ろ 頹 てオふ坊 師勇本明すいの下、銀人 。 生 、既

氏頌個科への内部りて問爲ゐに てれ た廿 で て体西を聖 題に も国制部以職郷 で 中 て 送 有 用 ゃ 漢 をのて で 里 あ西 方整畳教あ し志 つ の る氏 っいは少 たの 室た 面 へを室 る 後 かに て ふ لح のた撤にと進 の替 を b も郷 若 白 を 分 充 諮 が助 作併 し を b 担そ 當 覺 教 を 八 て 師 つ で 月求 う寺 を 板す し育 もた 誘 間 る た す 悶 掖 殊 め 嘱て る ٦ ゑ 日たい本 玉 لح 中せにがた し ふ こに西ん父 斈 し لح 斯 之 ٦ を に < 悶氏か君れそ 自 院 لح 表が と假らを 黒なてに ゑは はたれ に用 留 原 は卒 板 IJ 畢 た敢出 ま 郷生がてでだ 本 なす修へを にに IJ る 身て備文 の . 可て達 へ字開努 中 は皈 沈否 他 野明い 勿 郷 つ通塾力 思を 郷 で 治ふ論 早け IJ ع を 熟云に あ 久 四 ے Þ のい捧 慮は活 り義 ふげのず 付保 +لح 英の教寺 躍 印田 一は 語 田 科 子 ٦ ゃ 結 せ 師 創 う は . を ۲ う果慎んの立 年 色 御 端 屋 紀小 を (色 座 憲 定 に 遂重か 胸 二のれ之 め創臍是にに + 点 めをれ異考師に 助 . 坊氏八 時た固実 で 郷慮はは 数 🦳 が才差 斈 松 間わ むににせ 迷 調 支 御原 割 け る 意 雄 よは ح 飛と ざのた 座 村 をで 義 印のへ ع 夏る れ 吉 制 あ あ せ 答 る 志 組 る ŧ て の 原 し りんへをが併織 左 で 理 てがに價とた得欝 出 科 身 筆 の 値 L な勃 日 建何御 兎 そ 師 あ た 何 か と がた ホ署 壯 分 لح 座 をにれは る つ 名 趣かれ教角で本天心一たて 年 育 も堂職を生 人 意 لح 師一 燃 を て 通本ので抑の之え 中 に 西を別何迎り堂一あへ大がてさみ

張 中国 西 崎

ゐとの 裏 る し消 面 て印 ŧ 八 あ 月 略 る 0 몲 日 を之和和 添は歌 へ上山 て京 縣 あ中 日 るの高 中 郡 そ西 和 れ氏 田 に宛 村 よ 亀 常 る 싦 徳 と本 寺 平店 内 屋か 建ら 盤 硘 義 建 送 塾 建 坪し 拾た 設 七も 事 坪の 務 半と 所 思 ۲ は あ つ 間れ 半る て に 京 七此 橋 間の 原 と本 なは つ別 て紙

盤 義 塾 建 設 の 主

日 高 郡 民 の 中 建 設意 を 望 む 既 に 久 し 然 ŧ 未 だ 其 の 設 立 を 見 る に 至 ら ず 郡 内 青 年 ഗ 不

り湯人高る 語深淨を地の ・三師土ぞら `のさ設 、昨功ん置或 、のて其のら日春をとのは ` 1= 、な尠てを余らしずは・ を後 部田 其 子 更 よに の弟に り耐 教の本 見久 授薫願 た中 の育寺 る斈 主に留 皮あ 義盡學 相り の ` はし生 專 `と 見此 ら国し 解の 精語で に間

をた希らこ瓦達苦間然神に考我しにれ 競るくざれ礫の哀をれ的・究がて介よ は人はれがに趨を空ど教漢院郷 し材予ばた朽勢察費も育文に出広る大 `めちにすす時にに在身く日な る養の其にん鑑るる早則・ に成微の先とみとこ々り英て川材のも ` 共 と に ら、を願要る茲に尠属日に究暢郷何あ は以諒をす青に 、少し尚 `てし達る年人郡な `浅数閲蛍に中ん 豈社斯成もを材内ら校き斈年雪出斈や 啻会擧すの救育にず舎にに に有のるはひ成於。そ拘 黨の成は舎郷機義の他ずタ漸積懷要い の人にずの土関務労の徳其くみふあふ 建日と教多設化の郷てもら既 設高し育く備滋教に によて以しみ々を飯曩ゝや田 しり常外てる業受るに言と辺 て光盤何・べ績く。高に 、採義等其き駸る爾輪あ此田 創あ塾教のも々者来大らの辺 業るを育効なと既一孝ざ設中 の美建の却きしに年をるの斈 今材設設っをて七余卒を如あ 日をし備て以進拾專業信きり 特簇 に出以きか、見人力 志せてをら自る ° 士し有憂んら 仁め爲へと不 `す規 人んの 。 律 のこ才且 赤とを つ了に 誠を抱は等流 を期い當乃れ 仰すて代ち相 ぐ。空文同互 に然し運氏に あもく発の時

むを等 至し哀志づす 郷用完能校 福を向 祉輩っ の出て みせ翼 なし讃 らめせ ん、ら や我れ 啻郷こ 地しを の常若 益 樹?夫 ののれ な色笨 らとな ん共る やに校 、主角の栄

Ξ

△ 一常境計 年 塾 盤 内 画 月一の東が 不丸松北具 詳とと隅体 ン な 千 に 化 拡っ古最し 築ての初て し口?栄の` てたを塾入 サぶ競舎山 坪るへを王 とにと蛍子 し常の诰神 た盤親し社 ~。の心た合 大か、祀 當道ら八後 時を、月の に精師着長 於進は工床 けし有〜を るた志 讓 師へにそ受小久中中豈がん の此諮のけ 保 心のつ竣る森田野西にをと 境建てエこ を物之をと米万甚和方て、 窺はに見に ふ初常たな吉吉郎男稗盤し にめ盤のり 足十義が、 る七塾十常印印印印み翠粗 も坪と月得 ので命十寺 はあじ四庫 、つ、日裏 左た師でに 記が弟 `連 書、一日絡

後如高し此

年・濱ての

九月簡 日二及 ロナび 便 な 和自 て山に あ 縣 \Box 本 和 記 文 田 で 尾 常 の盤 В 附 は建 難設は 読 な 務 が b 面 九 لح 月 あ +IJ 日 尾 と郵張 あ便国 る Н ゃ 付 崎 う は中 に 紀西 思伊和 は 御男 れ 坊 様 る 八 月裏 十八

頭重如啓 時頹々今腦大何益 日を のに 事も る世 な め件策清 をにりしにを穆 っに見出てはし得の を て た段 も奉 中問既の賀 てくる及 望 ゝ び 事 ー ^題 に に 候 に を個 是あ 何 絶 も 爲 御 のら御 惻 確 物え 座 こず尊 のた其然し た 候 取るのと度 ۲ る 書 る人相しき所 に熟委 所達手ても信 就考曲 なのは何のを てせ拝 きみ媼物と得 はよ見 當と致 も日にか只申 の高あの管候 初の候 ののら感是 有 御 処 如宗ざ口れ忌 志意 く教れにに憚 並見区 倣のば觸のな びと Þ に拝た さ未翁れみく れだ し憧申 他読る る振何如れせ の致建 をはれき申ば 側候設 もざもも 0 物 候嘗 ょ る年の 0 り右を つ 大も傾候然て の設 方 け れ 在 質問け 疑題し 其信るひ共斈 の仰活 きーせ せは爲 原の社殿度 ら小め を門会堂郷 れ生生 得ににはに時 し の涯 て入縁昔皈に こ將田 胸ら薄乍り於 と来舎 中ざきら郡て もにに 有と _ る 云に内は 埋 種局い存の如 之 り ŧ 云外かじ信何 小て る い者へ説仰に 生実と

結来安此の此如の深る宗れの此知のれ教介も然もには拝 びー心の如の何事きに教ど子のれ眠ばはの華し のも弟感ざに き感ば業意 をかと味今門將と銘る佛將々廃し しあやと来膝に感教来各せくと痛 捨 未 強 り てる求せにをう想はに部 < 地す幸はをめば希交たを死向落 望ふれ惹 ふ他位る福敢覺ず 議 御 点 に を と な て へ し 求 を る つ 起 離 て 催 る で は こ にあ得同る他申てめ持にゝ致れ全さにて胸の 於るざ時べのし青てつ至あ候 な省 り遊 てをるにき地候年青青り る `ばも得も とを 。の年年候時 、べの他重選殊佳にの れ兎きゝの推ぶにす接爲宗恰 皆しに身容文致よ教るすめ教も 貴際角に易面候り育 こるにの郷 `ーもにに ŧ لح との 信土 下 非望於而 に 宗 要現仰の = 信な ずみてし郷教是あ実は少 得天て土のれるの老年 頼 < ヶ ŧ 年更べ下小に関ーべ活人青 て 貴はにきに生踏係にく世に年 郷ーと旗のみに大 介のに 々の地切こ揚更止於悲勉にみし 深にのろすにりけ大め立向て のく在関にる此大る靈てちふ来 り係 あのの靈其な活て T に里てをら如地ののさ社建のて 專離ず何に命間れ会闘み 。に於じに給にし要其 手懐られ せふ此て假もけ給密ふあつせの ん赤の單例美るふ接こるゝら教 ゜な と誠事に天に関 と人 あれを とに個下壯係此るかのるる希 從人ににをのもと爲人もふ 先小はの出男思地のもに ん私ずら考にあ覺 づ 生 爲と甚 と情 るしし 生 IJ え説にせだ 思ととけ 涯 て < `ば多 可開 第むいしすれ来を旁 < てるどり送々ー きか左 厚定 ももてら以層要 歩 意 め れ迄日 とと候只 はんて教をた思々 。親永自一こ小育覺るは多 しは て相爾をく身層と生にゆがざく

作り点地らん天数小れ拝 る 滴 なれ ٦ 日 下 こ大よ とに IJ λ 数の ح き < ょ لح 出 < 石 雖 り所 で 是云を ŧ も謂 て 事に れへ窄海深今 区 宗えつに き 日 を と教ばの面 青 な慮 決にに 道の国例 年すを し 心斯提 破活家言て意のの重 動のも気義意 壯ね 有 す 給に上しにあ地は 申 志 ふしに眞 る丈云 濁 れ諸次 て及な IJ 生夫ふ 申氏 んもぼ 漸 の りな活 ま しに ح とし 取す は本 で 候 至 り実せ 懐 ŧ IJ 達 も益 ば寧国な な 當て し 直も ろ 家 る < 時は 、得 さ 亦身淨のべ 小 此 望に潔爲き聖 た 生 第 際 ず る 其な能のに も代 最 のし 果に員 な気 の 後 宗とし た將 を宗噫恩 の のせと 嘗教々澤 し来氏 結 発 ず 雖 めの然に て在の 論 展 ŧ て 爲 れは 此郷間 は どせ ののに 如 在得於 め 何 て 郷失て な 云宗以教をの天 のにも IJ ふ教て養 収 高 下 得 就 小 し べの爲にむ くに 策て 生 左 やけ上す る 顯 名 た議の に よと人これをりこ物とん知 。れ るせ前 簡 IJ やら途 単 法云ろのに ょ ら 不?れに 華 へあ 養 あ IJ る ゃ 多 申 経ばれ成 b ŧ に 又 大 7 Н . に 如ばにず ま 就 候 や人 治斯郷盡 で てれ注 12 12 土 さ 世 < は に意 産 人はば僻多 対 立 を 業 物 更 や橄く 働 殆 す 払 をな の知か どるは

し

説

ゃ

信

念

あ

り、

意

志

堅

個

な

る

人

物

養

成

の

٦

ع

力はに専のし 候 返 筈 し そと 一事 事に添只出ら の れく ٦ 事日情購の御を誠 たに れ 如ヵ是 -る子 免 も既 入御座賜 実 íħ ĭ. 万 早にせ詫 ۲ 所 弟 ŧ 眞 候 IJ ゴ佛 何*道 々か 如 る 詮のすに を 処 _ 勉 御ら斯彼申 日 強 あ爲 れ 自 な の諸酌んなの上過 ŧ りにば لح 分 る 0 量を れ入 ぐ 日 早 を 世に を 御被祀ば山 る来 < 以 教 国 を ع 得 成る 義拝 ۲ 親完 て を 家 IJ ば 下は塾殿共辺成 一受のかて 此 何 獨 建はににのにけ爲 h 最 ഗ 卆 り 設 十 此 しに ょ ŧ 取 域 事 御小 日尚込にの身 の 盡 IJ 意 業 力生議程他事達 さ ŧ 大の 義 に は以に有せ聖 . 仕ん あ 從 に人 は世 益 前 一 之 し 職 合 る ふ 預に 々既つ めに せ に價 は、 IJ 止ら 其に御其ら 媚 從 な如 値 の運詫のれ 事れ何びあ 至 ず ` 搬申上ん 名 致 に ん る 尊 候 せ 上 法 高 Ξ 度 よ 生 我 美 の 志 < ら 候 こな ۲ 務 決 り活 臣 初 何 多 万 れは 心 そ ら もに 民 卆 め ず 既 木忙々に 郷 非 ح 小 に木材を 希 御 土 や其 ず L 生 同 開材既極望 座 は の ゃ • て ത ഗ · 15 めの 候 主 安 杜 自 意 の瓦運 今 至 住 な義彼 己 旨 願 • 日に所のらのの 期 搬 の 奉 ത を石せ迄御在 地 ず 下 世 職 る あ 尋今ら延座 如な やにに 責 処 る ねはれ引候 立 期 名 IJ ۲ に 処 来処し致 に لح 勇 ち を し 御 を る狹御候御御の τ 座 諒 もき報 返 座 結 ら 光 め 万 候 ع のまの深事 候 論 ず を 利 全 世 多 で延 く早へに ゃ 浴 を を くに引御速ば達 し 企 全 候 門 せ 詫 差 し 斯 て る つ < 内 る 申 上 何 申 h < 7 す 竣 積 事 上 ぐ卆候 て ح る 共 0 ٦ エ込に候る々 淨 す を の居御 。ベ々就そにる得

涜御尚其日候座御き御而世・もべもと 々何に け 下 御の 度 示 信 頼 世 る 願 有 F 初 過 め В 上 若 氏 般 の の 子 示 Þ 弟 れ たる意 て 日 見 ŧ は 早 小 生 安 の 最 ŧ せ し 註 め 意 給 を は払 ん V ٦ 度 ح 存

じ

中

西

様

下

明台四十年四月下台私立常盤義塾沿革

にもり方志辞すの亡関察の蹴些へ斈之る米明 。

青家しる方未なす多っの ` 校れ父国治 りあ去年の彼所針のきる数て統其児に兄渡四 たるれの言等あは嘆爲にを起一の童英多航十 、蓋算きな数以語く熱年 ` IC りとど教を青ら 。に前育其年ざ郷喟且しすてき遙外を来旺四 苟鑑陳にのをり里然つ、る 、爲に `授てに月 もみの委間しきにた父小に深め渡非け 、如ねにて。碌る兄斈至夜、米渡る之て肖 、然在青の卆れ万個児米こが 織茲く 薦 的に教因む再るし年膝業り籟人童のと教其暢 。靜的の青と授の其 っるびにての下者 育織法でも適青箕多をに淨ま対上年しを企の 機的に以の從年裘々離し暢る座に相た淨画遊 関教ててあす就をなれて是の教出率り暢に斈 の授は彼りる李継るて進に更授るひ 設の 。所のぐこ遠ん於に法にて爾希ふ畢 立必淨を是に希べとくでて至の至教後ふ自ゑ 其要暢啓に迷求き、他中此る依れを就こ然て のをのい於は如か意郷等のまるり来斈との故 任感健ててし上將表に程実での 。り者切必里 重じ康聊意むのたに就度況 、外而乞日な要に ふ ` に か を る 傾 都 出 斈 の に 寸 な し ひ を る 上 皈 し遂影當決は向門づす教基時くて 逐も てに響地し情あにるる育きも 彼一ふの小し `中す方てにる出こをに尚几從等般てあ斈 微孝るの断於にでと許浴他案つは高其 力校所爲然て及ゝをさせのをて各等の なにあに家忍び駑認ざん現釋多自普数淨を温 る 準 る 渭 門 び て 馬 め る と 状 る 大 任 通 を 暢 し 淨拠と埃をざはをた家すにのの意斈増はてに 、駕り庭る徴余時のをしそ英力 `の出る のて比力でも蹶す。の者し暇間斈修 `の語め 能私較をざの然べ元事もてなを科得道悃を居 く塾的盡るあ之き来情 き要をすに情修た 勘設孝さをりをか淨に本當ま淨区る閭を孝り 、暢囚郡地で暢々も里諒せ 。捨 な立積ん期 るをのとし加て當がは内方にはにの相とし當 ` 之 ゝ 時 自 れ 恰 の ` 早 習 多 伝 し め 時 所企舉覺 `當実就晨修きへてん本 ら悟身當郷未己 非すざしを村関だ処徒の情斈衾しをて日と村 る る る た 地 篤 を 決 世 に 機 熟 者 を て 加 小 々 す は

暢

拜

氏腕存今之年再のへのび劃ふの陋も لح す 日が縣び裡大教得し て創 居西前稲退なるに閉立校に正室るて生立 な つ 見及鎖日舎跼元新所教徒 を 年て断ぶを高 の踏年築に室 次 具 月 草 翰 な中狹し 九の非に 第体教村 日創 零開さ斈隘て 月 急 ざ充に的室特 る も時墨塾ん校を を て其に 以 明代『以との 告て 辛 告 لح **ത** す 瞭のに来せ設 ぐ年 ふ ぐ同以數る て で塾 ャ る じ よ明 し 月 る 時 て を なに っ治に さ もを て もにー 加に を い教て末 れの送僅の 時 へ接 得な 鞭 年周ん りか あ あ を L 入 るの縣栄たを多否 井 لح りたに IJ 學糊竟た 姑 援 ジ執事大の IJ す 雨 志 塗 に IJ 息助 0 つ多正事る已 露 是 望 し 本 て難五情やむ然 をに者た教是 が吝 田下破 は な る凌於続 IJ 室 れ さ瀾六容関くに ぐて Þ 1 つ屈年 易 係校新の篤 لح 然 収に る 之た折頃に者 舎斈み志 る 容 明 し 助方に ま 其 との期の家 てに し治 を 氏も富で の相一毎粗と 跡 爾能四充 んの閉諮部の造謀 を縫は十すそ 他幾 熟 を入な り絶よ ざーのの だ Ξ IJ 塾 لح を本取斈る頼た IJ る年み力 史は容塾 り志校母 ざ生機十のに を る さの拡願舎子 ず 運 月 設 依 **髣 徴 ざ 使 げ 者 を 講 盛 る に な** 7 髷 す る 命ては建を況不向り しべ も既以年築設に便ひと整 T < ゐ き のに ے け会 て し . たす ゃ る資あ終用共 し不れ 宅 うに料りれにに職本た都ば爾 **ഗ** で 止に る使そ員村れ合 ま乏継のすの ・人ばは本日に 部 る 続 故 數生の 倒堂 を 本 る が < し を大を徒同愈底の経 め拡 師 纔 て以正増倶情々長一 る て大 其のに以て十しにに別 く半に の片残て ` 一 ` そ 訴 戸 忍 を 從 塾 て

長 某之浅 助吉 こ氏氏氏 由早志 良蘇賀 地村村 方出出 て出身身 ゐ身でで 紀 し 南て 農 業今 孝 は 校王憲 に子 多製 年 紙 勤株 続 式 숲 奏社に人 待 本 教 社 諭の に要 栄 職 進に 就 い て 居 'n れ る

名

職

0

前

記

端

の

等 ばの 何ら 脇田葉 人 れ もた 直 ぐと 聯は ゎ す か る つ は 土 井が方立達 廉 雄 何 先 ħ 生 ŧ で 툰 あ < ら 在 う 職 さ れ な か つ た ゃ う で あ る 常 盤 義 塾 ح

退に よ 土 よ三 り井 り十 ح 雄 年 八氏 等は 旭 月 瑞 高 日 海 寶 知 持小軍章氏?想 授大及廿 で章尉金 代 及に百筋 金進五七 明 Ξ み + 0 百正円七 十円七を 番 を位賜地 六 賜 • ふ高 0 月 ふ 三 知 十同縣 常 盤四五月士 十年叙族 年 五 正 で の十月八 教 月 勲 位 明 壇 に五 治 に豫等三 立備瑞十十 ち役宝年八 初 . 章 中 年 め大・尉海 て正三に軍 以三十昇少 来年七進尉 八年・に 拾月六三任 後月十じ 三備從一從 年役六年軍 • 位 三 ` 内 大 月十 大正日叙一 正七露從月 十年戦正戰 一八の七功 年月功位に

・六上気度 徳 る七却の同 午るの斈 前こ 十と揮嘱 時は然託 日で融と 高き合な 別なしっ 院いてた 場氏こ高 出はゝ邁 棺大にな 正異る 塾十彩風 葬二あ格 の年るを 礼夏常以 を頃盤て 以かのす てら塾る 盛健風 儀康を氏 を勝錬の をれ成徳 営ずし育 ん十たに だー °湯 ° 月 実 川 享二に塾 年十斯長 五五塾の 十日の烈 有午発々 四前展の

卆 た 等 ら の 時 度 至 五 一 残 簿 く ぬ 開 て 生 っ 人 四 明 `れ 廉 代 か っ 十 孝 っ や ` か 塾 ゐ 徒 た で 年 治 後ら塾たではらて名年て出氏らのた数らあ十四 母での。縣塾在そに生ゐ席等さ時。のしっ二十墓時氏魄日 `存そのの籍れ近がる簿とっに入増いた月一は長のに高 に同在れ表黄生がづ同。も前ぱ幾斈加がが十年 飯時がと彰金百実き数そ出後り名・に、、九に寺越と精創 、でれ来しわの在伴ニ四日開墓ゑ著神立 っに社いを時十現 て中会ふ受代六し新な等、てか塾籍ふ井十つい地て功教當 西的のけで名た入いの成出ら生生て氏三三た 年太大有翌っ外即もは献考しがあ数時主三一が 、っには^席 箇 才 私 ` ち 三 調 に 査 た 勤郎ひ爲九た ・にの年と新今十査よ簿人第た就職豊孝 後狩認卆再し入見名のっはが一のい員員級の斈 進谷め業授て生るに日て罫凡回かて総とがこ校 指勇ら生賞も六処達時別紙そ卒、も数な出と令 つ 、六 来でに 、十のしが表に九業其 ててあ準 に本て、大今名道た違、罫人生の創名 盡 脇 来 翌 正 も を 場 の ふ 入 線 位 駒 時 立 に か かっ拠 ら さ久た十十塾峠のでか孝をあ田の當達 らた は、 れ吉ご五四友と建教ら・引っ・斈時し ・ど年年かし物室で在いた小籍のた職人職 や 山 し 浜 に ら て が 一 あ 籍 た や 竹 簿 こ こ 👸 に 員 公 / 口は追年そ棟る・手う両もとと g な 数 然 吉大慕一れ増 ° 卆帳で氏・はものっは其 な雄社右阪さ年で築兎業のあは出はあたた最の つ・会衛毎れ下あのにごもる兎缺っっ里ら初筋 て龍国門日事りる計角をの °に簿きた柱し田の 。画四作乍四角もりららい端設 神家家新実阪 塾重にか聞又に大が十つら十最・ししな 。氏立 ` 二 初 成 な い _つ そ が 認 礎治雄ら社大な正樹三て は諸飛もか正っにて年見整年か績いがてれ就可 懸も職を 磐突氏 貢 同 ら 八 た 入 ら 度 た 然 度 ら 簿 °っれに °とか入も一大命缺し得 石の献様獎年 の如す三季に兎て、入表記ら塾何体抵に員たた 安くる百金塾にか大っ中入はしも明は値の頃の や円三が角ら正て入さ簡て残治四家場には 置上う贈百成土は元在学れ單ゐっ四名を合は明 か級にら円績井十年籍者もなたて十で繋が師治 れ 孝 な れ を 優 氏 五 度 総 と の 孝 ら 居 一 や へ 多 と 四 湯校つる贈良の年に数第が籍しら年つ、か二十

上を川 の隠氏 驗 て 所 持 為 感続の さ 人 所れ材 信たを 等 。 招 に病致 就逝し いのな て前が 介 が昭遇 あ和が つ七菲 た年薄 に七で 対月気 し 和毒 歌だ 山 • 高 気 商の の毒 大だ 淵と 慧い 眞は 氏れ かつ **6** \ 私 経 塾堂 経難 営の

の塾

で好初経 し は景 め 候 ŧ 気 は うに何 平増も 気 棒 思 になは などず 聞遮 IJ 、 く 済 ご 無 まとニ ぬに英 才 ع 思職を ひ員世紹年ら 乍に話 ら対す 成しる るてが や甚面 うだ白 に気く 任の せ 済 寝 居ま食 りぬを 候 事 忘 多れ 矢くて 張出の りで仕 事来事 業 °IZ に兎御 は角座 金 惱 候 とに い堪ひ ふへし 事 か も 痛ね漸 切しく にも世 感今間 じ日の

申

氏井てと心 し境 てを 水 漏 引ら を し か け職 料員 紙へ にの 包手 み當 は 支 俸 給 給 でと なか く給 進料 上 لح すか る 둜 慣ふ 例 ゃ に う なな つ名 て称 ゐ を た用 لح 7٤ いず ふ やっ ふ薄 な謝 こし と即 もち 書謝

っ六て十・物郎土い礼と 大入にて時昭坪英 . な翌 和ヘニ化ヘ氏あ . つ六龍五之十孝大逝る た年神年は四 二正去 か重頃大時十七の ら治に正を七年後 四氏は八自時四大 月正 人 〜 湯 年 ら に昭川ま持本就十 な和師でた脇職 っ四二十れ久〜 年 て年十七て吉地か 四一坪ゐへ理ら でた大 狩月時 . 田 正体端 谷就 • あ 職首っ大十操憲 氏 Ξ 席た正四十之 十二狩 十年五助 • 一十谷 五四時氏 時六氏第年月 再 時三二の就狩び • ・十舎ー職谷 山 入 本中時貳覧 $\overline{}$ 勇 IJ ・拾表英氏で 氏. 西 悦山七に • 十太本坪 よ数大席 九郎辰 る . 正と 時氏雄便 と圖九な 二年 . 九氏所校 IJ 龍時《三地 十九国 神を昭坪百 四月 氏分和計七時就漢 二担三五十を職 + 年 十 坪 担 + 七中九坪 . 当 数 と建 時 西 月 斈 あ物 ま氏就 で退職る第川物中 ° — 持 職 師理 西 つに二降舎は こよ十つ二修博太

度にげ円銭り歳と には 正 出 ぎ月織れ 三 経 謝変かの年費 か の 更 ら ^後 三に つ外後村大 月つ た に の 内 ^正 まい + で 頼 今 外 でて あ母日の三 月は 年 ら子ま区 額 何 う講で別 Ξ +: と そ撤月 + い 其れ廃 ま 絓 つ ものを二で て こ他据円一 旧も の若置均円和月 干い一五田謝 う ちのてと十村が に寄ゐな銭五主 幾 附る つ〜+な 多金のた村銭財 。内 ⁽)源 のがで ああそー 1= しm其な つる がたがて三の つ だ 昭十后 て ら明和銭大ゐ ま う治二〇正た れ け年年 九 Ξ のれ間四其年と どの月の三は あ 生か後月勿 る恐徒ら 昭ま論 五二 和 でで く十円二 官 歳人五年円そ 計前〇三へれ の数後銭月村が 百のにま内創 助円時引で八立 は程代上二十よ

で五のり一廃大 高 額 百 六 = += 止 正 百十塾円十昭に 円 円 の に 円 和 = を を 経 な + 百 支 昭 し 営 つ最 年 円 て ま出和をた初 組 千 っし 助 ع + 七 織 たて 年 け 如 し 変 寄 度 る 上 更 年 田田 以附会機 の八後に に す 員 関 外 年 は百 縣 始 る に百大五 数 で 略 計 百 あ 常円体 十は 画九 る 從円大 盤 . + 会 九 で 前 ح 正七 三大 あ . 年のな九年 正校百三 つ • り年 十友五 倍 た = が数 会十七昭百八 = 年 の円百 和 五 年 収 百 度 寄 . 五 三十二 支八会附十十年 円百 思 十員 金 年 円まに円 八二 がニ 内 で 百 若百 外 同 ŧ 現 十 干 円 لح 額 IJ 年 な ず 在七 あ ع • 四 な 昭 高 る つ 同 翌 百 つ た 四 千 数 常た 年 Ξ 匹 盤が和か + 百 百 百 会 田 b 五 年 五三は翌 村二 十六 十大年費百 + つ 正か補 五 と円 `十ら助十な 円 て . 現一はは円 っ 十 年ず大内た一 此在 の高 正 が年 の つ 外 創と 七 現内三 لح 年千立百年な十制

統も〜 計の備 で考 どぁ あるこ IJ れ 冊は 常子昭 盤は和 研口十 究判四 上 六 年 伊 十 六 利 六 月 な頁十 五 で 発日 あ行発 る) っ は の 常 盤っ 商湯 業川 斈 淨 校 暢 と 師 ع な っ常 て盤 ゐ 義 て 塾 此と の題 他せ 卆 る 業小 者 冊 の子 名か 簿ら や抜 色書 んせ なる

(1) 更 正 盤

が

盡

き

て

下

省

がの業の春郎に昨即が和 整楠科蘊 末氏見 年 田 主 蓄 病 を 兼末て 時 村 た知任 لح 気派ねお 運局常 わ宏 と経 の遣た ょ 営 の盤 氏 IJ た 農 び 激 し 商 てんめ農業本つ 変 ع 赴場 会 年 を る相職現 任 終 日六 あ لح 校 並 実 延営 高 月 る ŧ は 引の支の がに昭 W し つ中指部両 で 本 和 場 何 新 実 7 の導 で 度 年 分 度十 進 習 あ 田にはに 農 り中當 わ 気に よ 年 業 b 田 鋭は 敬 藤 た り度 教 中の拓一忠せ 本 IJ 拓か 師 氏 活 南方はた 会 殖ら に す 結 長職 科 農 錬 稲 力 適 を 成原 っ果 • 員 を業 材 立縱所村か `中 の 廃斈 を り今尾 農横出出 大 し校 得 てに に身身全年 課 更 ず 試ふの片快は長 袁 迭 転 実 し稲 等 を る北山 藝 習 裏翠て作 科 \mathcal{O} の 行 義 波 颯 は 好 つ つ を農 技 場 置業 弘 $\overline{}$ 爽意意た 7 は لح あ氏 隆 と外的が き 科 衆 ع 及 IJ 三出のは頽 人 時 拓 て 勤豊 か 勢 環 作ら 茲八氏 の 代殖 視 ま園でい挽 に の科 ケ ഗ 勤堂岳た藝歡で 要 を 回 裡 Þ 中朝科声 今 容 求 併 に 万 央 鮮 主湧 夏 易 と置 失 な 紀全修 よ任く以 地し 敗 南の練 IJ との 来 ら 方て つ 海 更 農 玉 ず 引し折 の発 Ľ 足 て柄 置 実 岸正 場 揚 村陣 出げ満 伊 見 情 し で へ容身農 腔今三 る 、にた

とは ゐ る 名 指 て た 不 門 導 促 断 لح ŧ 住 宅 從 ഗ し ゃ 廿 栽 難 つ つ 研 て 培 地 て 究 旧 て で 手 の 方 車 精 \blacksquare ほ 和 門 進 歌 ع 藝 は 藩 い Ш はに ع 有 主 か 万 屡 の 業 名 安椎 b 人 Þ 進 にな 藤 崎 通 ഗ 出 展 関 話 家 村 勤 推 張 に す で と長 L 服 さ 寄 る のは て す 輿 ŧ る 縁 じ 居 故 た し 故め b ع の 南 縁 ょ ے ۷ 方 浅 有 れ 故 う る ろ 熊 か志 か ح らが が b 楠 で 意 ず ょ 郷 翁 あ 知 気 0 土 を 何 IJ IJ 込 研 め ع が 風 ん ぐ か 雅 で る < に 地 来 の協 居 つ 斈 士 議 元 IJ 遊 ع い し で 校 て 星 て し 適 農 父 の てゐ 當 لح 場 の 兄 論 し る . な を最 *t*= て 0 斈 住 模高 ち 大 究 田 宅 範 權 ത き を と中 園 威 満 述 なし氏 提 ۲ 悦 ŧ 存ては し 供 ع 少 在 郷 ま 斈 て し 希 < を 土た 校 そ 望 な 認 藝 和 地 を の は め 術 歌 方 中 大 ら に 山の 心 き ŧ 対市産 1, E れ てすの業 0 し

(2)

主

任

翠

進農び卆氏少片農 ツ年 森業 の青山業 出 用 林 推 年 氏 科 لح 交 し 菌 化 更 薦 期は を 孝 に た 今 な 通 斈 で 名 片 が を を東 田松 古山 式 つ 車 湯京辺原 屋 会 て 攻 川 帝 原 本 村 に波の 社 渡 又 大 豊 吉 本氏農 鮮卆夫林次原 月 ŧ 業 教 斈 郎 で 籍 賀後授教 家 送 を 内 関 係 田同 室 の つ 本 山た い 組 大 で L ے 農 助 縣 林 て て ع ゐ 出 Ξ ゐ 林 手 部 る が لح 身浦技 船が長な 伊 手 あ が ع 津 IJ 斈 八 往 村終成更 博 郎 年 1= 1= 戦 業 士 教 つ の 講 假 لح 社 授 た立 急 が農 寓 لح 鉄 師 進 中 ŧ 原に つ 本 林 思 農 進 縣 の のに い 後 想 志 大 進 場ん لح て 出 家 ے 駐 長だ 身を先 翠 立 輩 を ろ 軍 が 林 波 経 斈 て で 朝 そ ۷ あ 鮮 博 今 て 大 の \pm 上 IJ 回中 朝 正 $\overline{}$ 京 卆 常 央 鮮 年 で に 中 業 盤 農 総 間 あ 就 央 ۲ 農事 督 先 IJ て大 ع 業試府 辈 出 林 学 ŧ 斈 験 技 生 JII 産 経 に 地 に ア لح 博 製 済 は 入 1 な 造 專田 士 稲 門 ヴ IJ の つ 端 原 1 朝 T お部 春 で よを三

ح 任 文と る け六に Þ 方 で 面 き 1= 夙 地 ŧ, に 興 大 引 が味 陸 とのげた部 関 古 さ ιĽ 文 れ を 献 る 持 を つ 渉 て 獵 ゐ し る ア ジ 日ア 高に が於 生 け W る 農 だ 玾 業 想 経 化済 で 発 も 達 校 場 師 あ 史 本 IJ 究 む 際る農ン近鮮

新 聞 昭期 和 事 で + あ る 年 が + 森 月 先生 Ξ + は 斯様なこと Ξ + \Box ŧ 紀 ۲ 州 **(*** 新 聞 < 寄 1= 書 き

し

て

塾

の

官 へ 備 傳 に 考 努 め本 b れは た前 且の つ如 は < 田紀 中州 • 片 山の 氏 記 の 畧 伝 に ŧ なる の で 抜 書きし た

稿

記

十六、 南 部 町 青 年 会 の 講

話

頓 北 田 廃森 し氏 蒔 し道 のて の 会 後 出 熟 聽南 年 場れ席 識 講 道 はた せ の 者 部 る 既 ら程 も会 話 にたれ感 落 員 新めたに 付に 左 築に IJ きしの た 繁 えてて 落 成 忙 此 ず甚会 本 の 0 せ 極 だ場 次 IJ 会愉は め ょは 員 快 稲 IJ 芝 近あ をに荷 支 々る 見会座 部 落 は 渡をに の 成 す押於 開 式 農 に して 会 を 閑 商進 日 あ 兼期 エめ出 る ねに 業 つ席 て ۷ あ 会 者 開 らざれ あ六 の 会 あ 奉 り、。 郎 公 ത 他人當幹 るば 開 は も夜部 支 づ 会すること は諸 部 な 会 二 君 12 り。 員時の T 農 た間斡 行 業 る 余 旋 は 難 もりよれ 多 き のの ろ た < 姿 雨は 長 し る 勝悉講 な < り。 < 話会 に 務 て も の 夜 会 業 員 を 吉 整は `

(1)青 年 会 読 太 第 六 年 ع 辨

想 で発 昔の

こが東思 ひ理ののか面 b で れ 洋 必 世 ではは語 要 の が 中 あ全 つ るは表 る لح < ま ٦ な 君 IJ لح っ つ然主政に b てる獨体就 格て 文 来ゐに裁がて たる明政齋は を 治治 し 將そ以がたは 来れ来行影禍 で我は響 の 家直日れで門 を あ の接本 も民る舌 中 玉 政立を 0 は 孯 風 たに 憲 西 禍 が し 干 国 て洋の る あ 輿 لح 頼夙根 つ す な らにな て る し 青 IJ 共 ٹے と議む和 年 文 はせ会べ政 申 章 別ぬがし治 L は と開 が لح 経 にか知行沈 関れ らは黙 て の ら てし れ 寡 大 之 ず む て 言 を 万べゐ を لح 忽誰機かた ょ ま らに い にに 公 で で論ず反と は 굸 出 もに流 は 来辨 決で て ħ あ東ゐ す な舌 て い練る つ 洋 。習処た方 る

想 的 辯 の 資

す < 養が言士お を 何 に用 L V る て ŧ の 次で の あ 四る つが の 資 講 格 演 が 何演 人 舌 に ŧ 説 必 教 須 不 討 可 論 缺 . で 座 あ 談 等 そ れ ぞ れ 特 殊 の 用 意

1 思拙人を

て ŧ 高 な る 人 格 か 6 発 露 せ る 辨 に は 自 ら 犯 し 難 い 気 品 が あ IJ 威 力 が あ る

2

1= 就意 て 多 < 知 IJ 正 し < 解 し て ゐ る لح 辨 に ŧ ょ ځ 4 が な い

静度能体声 で 長 時 間 声 ഗ か ħ な い 人 で な け ħ ば 壇 上 に 立 つ て 人 を 魅 す る ع 굸 ふ ٦ ح は 不

る 平 態 可 身 音 語 青デなのでがのべ 年モる平あ健多き 会ス態静る康量材 にテ度 はス平 静 末くな ¬ る 熊 度 資の正 料秘し き しは姿 て態勢 、度は のあわ IJ ざ ع ら L < な い 身 振 لح 共 に 甚 だ 必 要 で あ

部 町 てネ 年 日 ഗ 教 雄 授 辨 と訣 左に 講 本 لح 1= ょ っ て 森 彦 太 郎 氏 ഗ 講 演 あ IJ た IJ

(2)書 年 会 副 蒜 本 年

若文るでと筒来せの手て文章こ語 句人あに・ 葉ね三ををもでとる もる重純書ばつ考い亦は き白がな位へて文多即と る賀をの略らにて時斈人ち即 字 詞 **ഗ** 詞置巻式ぬ区書節的数文ち を用 を く紙で 0 別く柄書を章辨 忙 印とをあ近をと少翰相に舌 印方 刷配な 刷か用る年せいし文手よに 世に 遠ねふ年とと `ひ 0 っょ 置 の 附或る叮方ばこ賀かすて たに つ 中 す は の 寧 へ な と 状 実 葉 注 思て とる愛がなのらをに用場想思 意 すは を こ情礼場年ぬ つ的合を想 。いい書の発の とをで合賀 もああにはそつて翰普表発状 つ لح 是 て共 近らるは大しも話文通し表 は来は [°]矢てて考しと文伝伝 用 12 、多 ふ 大す内張いそへてか と達 流こ容り 葉れなを色 る名 す す ょ 行とも手書 な前 A くき々個 る る ろ \ てたに人 どだ 態に場紙で `適はい分をいい はけ で重合に < きにす謹當な 無 は 類相ふふ な 時をよる賀なら年も手 、と置りの新るぬ賀出に 者 非 のとそし < • が年用 ° 状 来 すも すも てと相至の語即にる る亦必 ではか手當定をち限が処極 自 ₁百 、にでま以少ら `のめは 分 とでむ枚何よありてくずこ 書て なににり る文自と手ン翰必 で叮 。句己も紙に文要前 もし • · 印足て或そがの長なはとで述 こ に ん書刷らもはの流心上 りそがあの なかすぬ眞敬手行情 葉ん ある る端情意紙でを同書な 葉ね る所で ばこ数流をのあ表輦な で あ を露表純るす りと其 な る らて印がす白がや後ははの此が ふぬも刷肝るの `う進 、止書の書 < 、す要こ封本に此相め翰文く

院 議 員 正 五 位 等 小 Щ 谷

īF

+

思

載

月

日

不

詳

シ方流営メ議昭高西 郷 負 路 ヲ 関 柳 和 官 川 民担ヲ以係榮七タ 咸 調テ各太年ル治 其今整起区郎當日水 やシエ長亦路本難 堵矯水本諸之二川ハ ニ 開 勢 流 氏 ト カ ノ 安堤ヲ延亦相説爲ガ 二塘緩長苦呼シニ郷 ズ具和五心応テ国土 ルニシ千惨シ時費千 二就今二憺テ局改載 IJ 茲百克熱匡修 ル交八七ク心救ノ宿 嗚通月十群縣事新 呼 至 竣 六 議 當 業 例 タ 昭便成米ヲ局トヲリ シ開小 ヲ志統 -聖 漑 告賀制折テク山 代排グ川シ衝之へ代 ノ水所全テ縣ガキ議 惠亦要千此費実ヲ士 沢 宣 経 百 ノ 支 現 創 夙 ヲ費十不辨 二唱二 官得五二朽 ヲ努省之 民嚢拾米ノ要 メ 議 ヲ の参二偉望該一憂 和卑万互業ス豫決へ 衷濕円リヲル算ス慨 ニノ 〜 孝協ア等己然 依地内理翼リ案ニ救 リモ五トシ和ハシ治 テ嘉割技乃田第テノ 国術チ区六改志 古 禾 来穣庫ノ翌長十局ア 々四精八上二急リ 割鋭年田議変 案良縣 ヲニ勝会事テ 茲田一盡月藏通休内 割シ縣氏過ム務 解化地テ直始縣モニ

ŧ け る は づ で あ る す る LI そ が < て ŧ な る ベ < 自 筆 で 認 め る

をでら賀て勿るを絵とら 出あ社郵 論の要はにい る会便こ墨がす書努な 。のをれで本る 。用ねば 書に用年けで特ふば は第のもす賀れあにるな自 一肩なる郵ばる動の 南種書ると便なが物はぬで 。云のら `の良 国そふ札ぬ絵目い 名のこを 葉なが のる書受はけ筆のに画 `ては場は面 よる自本絶合書 り方分月対にか文 縣でに二禁はぬ 句 もも十物ペや 大あを元便九でンう記 入 く 早・ まるきせす °のねる 年方ばに でよにもな賀がなは う 。る利べをつぬ字 四て末らし局すこす大 、持はもて す年が郵っかあ毛か る始よ便てたる筆配 。を置 。のくて其つ法 掲がけつ停が十のかと あてま滞よ文場いか る急りをい字合濃に 。にイ墨余 ぐーも こくンを程 郵 學 防 便四ぐのゝキ用注 物得か年つはふ意

_ I 本は葉爲利にな体 新 封 は 掲に 載すを上とつ鉛書ど 物のく取 が 恐 安 ら全 くで名 る書旦利日あ書に 年葉方々局で 乃書が手に 十はい入便る状 三 紛 れ年かにく出る 年延か気てへにとべ 頃着ら持 ふのへい物行め 憂か

陽 森彦 太 郎

暠

撰 並 書

得し本 たた書 は 和教何森 育れ 彦 家も 太 と森郎 し 家 先 八て所生 又藏の ジの遺 ヤ古文 新 の 夜ナ聞 う IJ ち ス或主 トはに と和現 し 歌 在 て山的 の市な 先 田 ŧ 生中の を敬 伝 忠 或 ^ 氏は る所 教 興 藏 育 趣にに 深 か 関 き ー ۷ す る る 巻 謄 ŧ で 写の あ 版 を る。 印収 行 免 の し 紙て 片 _ ょ 巻 りと

昭 + 月 Ξ +日

ワ 化 を 終 わ つ て

清

郎

容 何 回 ŧ 考 ワ ず 化 の 合 上 മ 写 ペ た ジ の前 教 後 彦 に 太 と収 郎 ま 先 る 生 ょ う 文 集 ののしは た(1) (2) (3) 巻 あ つ た が 内 容 的

日 白 営 の たか高 内揺に っ郡 容籃はえ た誌 等 . 興過治に 等 項 味 渡 の 目 が期大製 学 に あで正本 術 ょ っ方 書 IJ た 針 神 都 重 に が道 は 複 ま替国 見ら たわ家百 て 先 っの れ い 生て時 ぬ、 る のい代 部 < 人 自 ک ت 分 柄 由 が を 意 か 知ろ 見 りゃ な が 、昭 IJ 得 各 あ る 常 り、 文 盤 二 地 章 義 十 編 方紙 や塾年集 愛 ŧ 表 創 特 現 設 に えた も前 _ か後 紀 なの が 南 全 り話 新 項間 あ り経 目二 そ ^ 営 の の先上に ま記生の ま事の苦 をご著労

平し 成 + 七 0 0 五 年 += 月 + 日

収が書

面一

教内に

的

眀

.

の

育

和

終

戦

•

新

憲

法

の

公

布

ょ

経 育

博